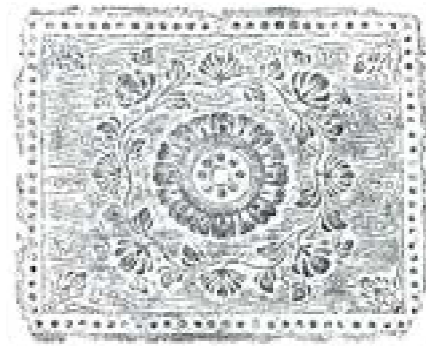


九州歴史資料館年報

令和7年度



九州歴史資料館

は じ め に

古くから中国大陸、朝鮮半島などとの対外交流の窓口として重要な役割を果たしてきた九州・福岡県には、先人たちの足跡をたどることができる多彩な文化財が各地に残されています。

当館は、九州全域を視野に入れつつ福岡県ゆかりの文化財の調査・研究・活用等を行う博物館機能と、大宰府史跡等の発掘調査・研究及び出土品の管理等を行う埋蔵文化財センター機能を併せ持っています。昭和48年に福岡県太宰府市に開館し、平成22年には弥生時代の集落遺跡である三沢遺跡に隣接する現在の地(小郡市三沢)へ移転し、今年度で開館54年目を迎えます。

社会情勢の変化に伴い、博物館を取り巻く環境も大きく変化しています。令和4年4月には博物館法が改正され、博物館は単なる資料の収集・保管・展示施設にとどまらず、地域社会の発展や課題解決に貢献する文化施設としての役割が強く求められています。

当館では、これまでも地域住民、学校、地元自治体などと連携し、文化財を通じた交流や学習機会の提供、地域の魅力発信、さらには地域活性化への貢献を行ってまいりました。これからも、地域に根差した博物館として、その機能を一層発揮できるよう、取組を進めてまいります。

この年報では、当館が昨年度に実施した調査・研究活動、各種事業の概要を報告します。

今後も当館に求められる役割を全うすべく、職員一丸となって、調査・研究の質の向上や時代や関心に合わせて展示の導入等を行い、魅力ある施設づくりを進めてまいりますので、引き続き、御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、この年報が多くの方々に御活用いただければ幸いに存じます。

令和8年7月

九州歴史資料館長

吉 田 法 稔

目 次

1 事業概要

(1) 調査・研究	2
(2) 展示	16
(3) 資料利用	25
(4) 学習支援・博学連携	33
(5) ボランティア	41
(6) 普及・活用事業	45
(7) 重点施策	58
(8) 広報活動	59
(9) 実習・研修	63
(10) 市町村支援	66
(11) 刊行物	70
(12) 学術交流	71
(13) 協議会等	72

2 九州歴史資料館概要

(1) 沿革	73
(2) 施設概要	76
(3) 予算	76
(4) 組織・職員	77
(5) 関係法規	78

3 諸統計

(1) 入館者状況	85
(2) 収蔵資料・図書	85

4 日誌抄	86
-------	----

1 事業概要

(1) 調査・研究

[学芸調査室学芸研究班]

◎美術工芸資料に関する調査研究

造形遺品を対象として調査研究を進めている。対象としては、古代から中世にかけての仏像や仏画などのいわゆる仏教美術と、近世絵画を中心としながら、それ以外の彫刻、絵画、工芸品も広く意識して扱うように努めている。これらの調査研究を通して、九州や現在の福岡県域が、わが国の歴史の中で、また東アジアの歴史の中で、どのような特色をもち、どのような役割を果たしてきたのか、その一面を明らかにすることを目指している。

7年度は以下のとおりの活動を行った。

○寺社所蔵資料の調査研究

造形遺品が集中する場として、寺社が挙げられる。当館では、地域の歴史において中核的な役割を果たしてきた寺社をとり上げ、そこに伝わる造形遺品を中心とした文化財を悉皆的に調査する取組を続けている。地域の中核である寺社を考えることを通して、地域の特色を浮かび上がらせ、その地域が果たしてきた役割や周辺地域との関係性などを明らかにしようと試みている。

7年度は、博多湾西部の今津に所在する誓願寺の仏像の再調査を進めた。誓願寺については、先に当館研究論集にて、解体修理が完了した本尊阿弥陀如来坐像が、承安3年（1173）に造像された創建当初からの本尊と考えられること、その造像や寺の創建には重源の関与が想定され、それは寧波の阿育王寺舍利殿建立に関わる可能性があることを明らかにした。これまで意識していなかった視界が開けたことから、誓願寺の仏像について半世紀ぶりに、あらためて悉皆調査を行うこととしたものである。まずは本堂から着手し、概ね安置仏像の再調査を完了した。注目すべき新知見としては、小厨子に納められた毘沙門天立像が鎌倉時代に遡る可能性が浮上したこと、十二神将立像の小像なども、室町時代に遡るものと判断されたことなどが挙げられる。今後検討を行いつつ、調査についても奥の院である毘沙門堂、また関連する場へと進めてゆきたい。また、一昨年度から開始した浮嶽神社所蔵文書の調査も継続している。同文書は幕末から近代にかけてのものであるが、浮嶽周辺における神仏分離前後の様相について、具体的に検討してゆく上で重要なものである。

3年度に開始した高良山ゆかりの仏教美術作品の調査は、神仏分離によって山を離れた仏像・仏画等を追跡調査することを通じて、神仏が習合して栄えたありし日の山の姿を蘇らせようと試みるものである。7年度は、久留米市国分町の正福寺の調査を実施した。この寺院は、高良山の関連寺院であったと伝えられ、明治時代の神仏分離の際には、山を追われた元座主（五十七世・亮恩）の居所ともなった。また、山内の座主坊・御井寺蓮台院が廃絶した後、正福寺が御井寺と改称することによって



木造亮恩僧正坐像（正福寺蔵）

寺号の存続が図られ、それは明治11年に御井寺が新たな寺地を得て再興されるまで続いた。調査では、亮恩僧正の肖像彫刻（1852年寿像）や、彼が山内に建立した玄々庵という庵室に安置されていたとみられる阿弥陀如来立像（13～14世紀）など、高良山に関わる作例が多数確認された。継続して進めてきた一連の調査によって、高良山内に存在した寺院堂宇の安置仏について多くの情報が得られた。年度末にはこれらの成果をまとめ、報告書として刊行した。

県や市町村の文化財保護の担当部局と連携しながら、指定文化財の再調査も進めている。7年度は、小郡市・如意輪寺の如意輪観音立像（県指定有形）の調査を実施した。また、芦屋町・安長寺旧蔵の空也上人像（県指定有形民俗）と、行橋市・大儀寺の如意輪観音坐像（市指定）の移動について技術支援を行い、太宰府市・戒壇院の鑑真和上坐像（市指定）の修理についても技術支援を行った。

この他、未指定であるが重要な文化財として、宮若市・清水寺の観音堂諸像や、太宰府市・宝照院の仏像調査を実施した。

諫早市と共にやっている市内の寺社における文化財の確認調査等も継続している。その他、地誌をはじめとする各種史資料や、市町村の文化財担当者から得られた情報なども積極的に活用しながら、広範な調査研究を進めている。

○九州に偏在する大陸系彫刻の調査研究

九州に偏在している、中国の明時代以前の彫刻、朝鮮半島渡来の彫刻について、調査と研究を進めている。中国の明時代以前の彫刻については、奈良時代以降の日本の彫刻への影響を考える上で重要な存在でありながら、これまで必ずしも調査が進んでいなかったところを前進させ、より具体的に九州の彫刻への大陸からの影響や、日本彫刻史における大陸からの影響を考える上での有用な基盤を形成するために、調査と研究を進めているものである。

調査は木彫像や塑像等にとどまらず、そのほとんどが九州西側に存在する中国渡来石塔である薩摩塔に刻まれた5軀の尊像、またその他の中国渡来石造物までを対象としている。薩摩塔については、福岡市西区今津から新たに見出された須弥壇断片を借用して調査を行い、その成果を当館研究論集にて公にしていたところであったが、7年度はさらに特集展示にて紹介した。

なお、薩摩塔はじめとする渡来石造物に関しては、これまで中国人海商の存在に注目して進めてきたが、彼らと共にあった入宋僧にもあらためて注目し、その博多太宰府周辺における造像活動について調査研究を開始している。もって大陸系彫刻の全容解明に近づいてゆきたい。

○福岡県内の絵画調査と研究

福岡県内の絵画については、近世の作例を中心に調査をしている。7年度は、福岡県の近世絵画史を語る上での重要人物の一人である斎藤秋圃について企画展を実施し、これまで継続してきた調査成果を公表、秋圃作品のうち特に人物画についての再評価を試みた（詳細は企画展の項に記載）。また、継続収集している近世から近代にかけての寺社絵図についても整理を進めており、令和8年度の企画展で公開する予定である。

○立花家資料の受け入れと保存活用

柳河藩主を務めた立花家の武具甲冑や調度品などの資料群については、長く柳川の地で守られてきたが、近年の環境変化等の影響を受けて、4年度に緊急避難というかたちで当館に一括受け入れを行った。その後、立花家史料館が整理・目録化を続けてきたが、令和7年4月をもって双方で協約書を交わし、

当館が資料群の保管を担当する運びとなった。今後は、当館と立花家史料館が協力しあい、資料群の保管と公開活用を進めていくことになる。

大規模な大名家資料の受入れは当館にとって光栄なことだが、立花家の資料群は、柳川の歴史と文化を考えていく上で欠かすことのできない重要な存在である。できることなら、地元で親しまれ、保存活用されながら後世に伝えられていくことが望ましい姿であるだろう。当館では、資料群が柳川の地に戻ることを願いつつ、地元の保存環境が整うまでの間、責任をもって資料の保管と活用に努めたい。資料群は6,000点を超えるボリュームである。まず7年度はこれらの全体的な輪郭の把握を進めた。8年度には特別展を開催し、大規模な公開を予定している。

○文化財の保護活動

当館では、地域に伝えられた仏像や神像、仏画など、歴史的・文化的な意義をもつ文化財が、現地で保管が困難ないし危険な状況にあると判断される場合、地域との協議に基づき、これらの文化財の受入れを行っている。その際は、受入れにより地域の信仰文化が損なわれることのないよう留意し、将来的には地元の環境が整い、再び地元で保管されることが理想の形だと心がけている。7年度は、こうした事情による文化財の受入れはなかった。

一方、長く市場に出ていた文化財の中から、斎藤秋圃筆の蘭亭曲水図屏風（六曲一双）と七福神図屏風（六曲一隻）を購入し、収蔵品に加えることができた。企画展の開催が購入の契機ともなった事例であり、今後、調査研究と公開活用を進めていく。



斎藤秋圃筆 蘭亭曲水図屏風（六曲一双）のうち蘭亭図
九州歴史資料館蔵

◎考古基準資料調査

○福岡県内近世陶磁器研究

前年度から集地的に行ってきた特別展「江戸時代に華ひらいた福岡のやきもの」開催のため、下記の調査を行った。7年度は特別展を開催し、これまでの成果を発表した。

- ①小石原焼（小石原鼓釜床窯・中野上の原窯）出土品調査（東峰村教育委員会）
- ②宗七焼調査（福岡市博物館）
- ③堺環濠都市遺跡出土品調査（堺市教育委員会）
- ④京都市三条やきもの町出土品調査（京都市埋蔵文化財センター）
- ⑤蒲池焼調査（柳川市・天叟寺）
- ⑥釈形焼・星野焼調査（八女市教育委員会、星野焼古陶館）

○中世北部九州喫茶関係遺物の研究

考古学的方法論による中世北部九州における点茶法の復元研究を行った。福岡県内を中心に中世北部九州の遺跡出土品から点茶（抹茶）法で使用されたと考えられる遺物から、当時の喫茶の場を復元していく研究である。中世北部九州の遺跡と比較検討を行うため、本年は下記の調査を行った。

- ①鎌倉市建長寺境内遺跡および極楽寺境内遺跡出土遺物調査
- ②中世後期から近世初頭の九州の茶陶関係の調査（唐津焼、薩摩焼）

③中国製茶入、茶壺と日本（瀬戸）製茶入と茶壺の比較検討研究（東京国立博物館）

④茶の湯の歴史を問い直す研究会での、展示研究（埼玉・入間市博物館、静岡・ふじの国茶の都ミュージアム）

◎文書・典籍資料の調査研究

当館では、古代から近現代におよぶ各時代の古文書・典籍資料のほか、出土文字資料や写真・映像資料など、広く記録資料を対象として、福岡県域そして九州の歴史的な役割・特質を明らかにすべく、調査研究活動を行っている。

○出土文字資料の調査研究

7年度は、収蔵品データベース整備の一環として、大宰府史跡出土木簡のうち、重要文化財に指定されている古代木簡 113 点と、保存処理済の中世木簡 20 点、計 133 点について新規に写真撮影を行った。大宰府史跡出土木簡は、奈良文化財研究所所蔵の平城宮跡出土木簡（国宝）、宮城県多賀城跡調査研究所所蔵の多賀城跡出土木簡（重要文化財）とともに、ユネスコの「世界の記憶」への登録を目指している。その準備として、奈良文化財研究所、多賀城跡調査研究所の担当者と協議を行った。この他、糸島市上深江木ノ本遺跡出土木簡の赤外線写真撮影と解説に協力した。

また、小郡市井上薬師堂遺跡出土木簡の再検討をもとに、筑紫のミヤケと 7 世紀後半の評との関係について考察した。ミヤケとこれを再編した評は領域性をもたない地域支配を行っていたことを改めて確認し、全国各地の古代木簡と比較し、その遺制が 8 世紀前半までみられることを指摘した。成果は論文「木簡からみた筑紫のミヤケと官衙」にまとめ、8 年度に出版社発行の共著の書籍に発表している。

○福岡県史編纂史料等の調査研究

福岡県史編纂史料は、平成 22 年度の当館の移転開館に伴い、新たに収蔵した約 15 万点の史料群である。移管後は、閲覧・レファレンスのほか、未整理史料の整理を引き続き実施し、あわせて展示への活用や調査研究も積極的に行っている。このほか、筑豊工業高校資料、太田静六資料等の館蔵資料についても、引き続き調査研究・整理作業に努めている。

7 年度は、常設展示において展示した団琢磨書簡（野田大塊文書）等の調査に加えて、令和 8 年が福岡県域確定 150 周年に当たることから、福岡県成立に至る幕末から明治初期の資料（主に伊東尾四郎文書など）を調査した。その成果は 8 年度の企画展で紹介予定である。

○県内・県外所在資料の調査研究

大宰府の宗教政策と信仰拠点の形成の研究の一環として、伊藤常足編『太宰管内志』が引用する「風土記抄」の原本もしくは同系統本を探索すべく、国立公文書館所蔵の風土記関係の写本を実見した。特定には至らなかったが、「風土記抄」の引用文に基づく研究成果は第 78 回萬葉学会全国大会公開講演において報告し、風土記の写本系統についても有益な情報を得られた。講演内容は『萬葉』第 241 号に論文として発表した。また、館蔵品として西海道の『風土記』の写本 1 件（江戸時代写）を購入した。

福岡県の近世地誌の研究資源化による地域史研究基盤の創設に関する研究の一環として、九州国立博物館の協力を得ながら、貝原益軒とともに『筑前国続風土記』の編纂に従事した竹田定直による校正本の大野城市心のふるさと館所蔵の 30 巻本をはじめ、益軒全集所収本（30 巻本）、九州歴史資料館（28 巻本）、九州国立博物館（30 巻本）、国立公文書館（28 巻本 5 件）、宮内庁書陵部（28 巻本 1 件、30 巻本

3件)、西尾市岩瀬文庫(28巻本)、松浦史料博物館(30巻本)、筑波大学附属図書館(28巻本)、大和文華館(28巻本)、徳島県立図書館(28巻本)国文学研究資料館(28巻本)、早稲田大学図書館(28巻本1件、30巻本1件)の写本を調査し、写本系統の分類を行い、それぞれの写本系統の祖本が、いつ成立したかを編纂過程とあわせて解明した。成果は共同研究者である一瀬智氏の論文『『筑前国続風土記』の写本分類についての試論』(『九州歴史資料館研究論集』51)にて公表した。

さらに『筑前国続風土記』のフルテキストデータベースを作成した。7年度に竹田定直校正本の写真版も参照しつつ、テキストデータの校正を行い、またデータベースシステムを開発し、九州歴史資料館ホームページで公開した。このデータベースによって、『筑前国続風土記』全文を1字検索することが初めて可能となった。

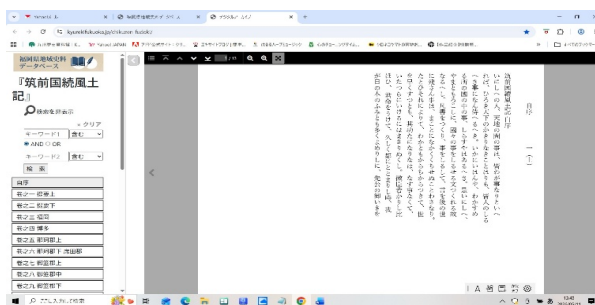
山口県立大学の共同研究「日本古代における地方都市「国府」の社会的機能の時間的遷移に関する複眼的研究」に参画し、研究分担者として武蔵・常陸・肥後・肥前国府の調査を行った。



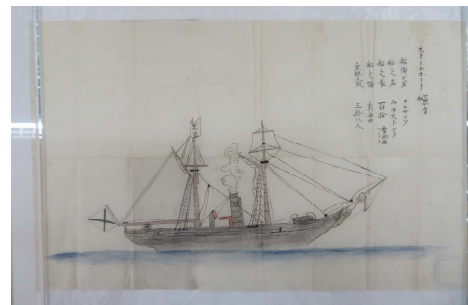
重要文化財 大宰府跡出土木簡(九州歴史資料館所蔵)



風土記写本(購入資料)



『筑前国続風土記』データベース検索画面



魯西亜船図(小川文書・個人所蔵)

[学芸調査室文化財科学班]

◎文化財の保存処置

○木製遺物の保存処理

木製遺物の保存処理は、含水率測定や樹種同定などの事前調査、トレハロースによる含浸処置、含浸処置後の余分なトレハロースを除去する表面処理といった工程で行っている。7年度は、2遺跡23点の保存処理を行った。

○金属製遺物の保存処理

金属製遺物の保存処理は、蛍光X線分析装置などの事前調査、土砂や錆を除去するクリーニング、腐食促進因子を除去する脱塩処理、合成樹脂含浸による強化処置といった工程で行っている。7年度は3遺跡34点の保存処理を行った。

○美術工芸・古文書・典籍・歴史資料に対する保存処理

美術工芸・古文書等の保存処置について、現状では文化財の有害生物を対象に、資料への被害状況、劣化状況等の保存状態調査を経て、資料に対して適切な処置を行っている。

今年度は、有害生物の被害がみられたとして、県立図書館、太宰府市公文書館、伊都国歴史博物館、宗像大社、熊本県肥後の森ミュージアムの資料および当館寄贈・借用資料について処置を行った。

なお、これまでカビ処置のために使用してきた酸化エチレン製剤が、令和7年3月末に製造、販売終了となることを受け、当館における今後の対策について検討し、害虫処置は、引き続き二酸化炭素処置法、カビへの対応は、主に文化財IPMの理念に基づく、段階的な対応を策定した。

○館内の保存環境整備に関する取組

年間をつうじて、第一展示室、特別収蔵庫各室の温湿度測定や空調設備の制御状況の確認、特別収蔵庫周辺の有害生物監視を継続的に行った。今後も、文化財に対する有害生物をできる限り軽減させ、適切な環境のもと、保存できるよう測定や監視等の取組を継続する。

○各種文化財の保存対策

資料の保存環境を整備するため、平成22年度から関係部署と共に、温湿度等の保存環境調査を行っている。今年度、作業を行ったのは、宗像大社神宝館であり、展示室、収蔵庫内に測定地点を定めデータログを設置、数カ月おきにデータ収集と定期点検を行った。

また、久留米市文化財収蔵館の収蔵庫の温湿度環境調査支援としてデータ解析を行い、現状の環境を評価し、空調運転の方針を提示した。

そして、装飾古墳石室内環境に関する支援は、王塚古墳（桂川町）、竹原古墳（宮若市）、屋形古墳群（うきは市）の保存環境整備に対応した。

調査、支援により、適切な保存環境整備に向けた取組の計画・立案に寄与している。

○各種文化財の科学的調査

7年度の外部機関に基づく科学的調査は以下のとおりである。

	依頼機関	調査資料	使用機器	依頼日
1	太宰府市教育委員会	大宰府条坊跡第357次出土木簡	赤外線スキャナ	R7. 4. 2
2	福岡市博物館	伊藤若冲筆「付喪神図」	赤外線スキャナ	R7. 12. 2
3	小郡市教育委員会	大板井遺跡第34・36次出土墨書土器	赤外線スキャナ	R7. 12. 9
4	広川町教育委員会	町内所在絵馬	赤外線カメラ	R8. 1. 15
5	長崎県松浦市教育委員会	鷹島海底遺跡出土墨書板	赤外線スキャナ	R8. 3. 12

上記のほか、館蔵資料については随時、科学的調査を実施している。

○文化財の保存環境・管理方法に関する外部機関への相談・支援

博物館等の保存施設新築、改築をはじめ、遺構・遺物の保存処置、保存環境整備をはじめとする文化財保存に関する外部機関からの相談・支援依頼に随時対応している。今年度、対応した外部機関は以下のとおりである。

新県立美術館建設室、甘木歴史資料館、大野城市心のふるさと館、糸島市、伊都国歴史博物館、飯塚市、八女市岩戸山歴史文化交流館、宮若市、苅田町、宗像大社、八女高校、四王寺山勉強会（太宰府市景観・文化遺産育成団体）、国立アイヌ民族博物館

◎船原古墳出土資料に関する共同研究

平成24年度に発見され、その後、遺物の取り上げ作業やX線CT調査等の支援を行った古賀市船原古墳遺物埋納坑出土遺物について、平成26年度から、古賀市教育委員会と当館との間で協定を締結し、科学的調査や保存処置に関する共同研究を開始している。

今年度も引き続き、これまで撮影したCTデータの解析を進め、現状における遺物の形状や数量等を抽出し、出土位置との照合を行い、全容を把握する作業を行った。遺物の保存処理は、二連三葉文心葉形杏葉・棘葉形杏葉など合計38点行った。



7年度クリーニングを終えた棘葉形杏葉

◎災害による被災文化財救援への対応

令和5年7月豪雨により水損した文書の応急的保存処置を行った。

内容は、冷凍保存によるカビ繁殖防止、真空凍結乾燥法による乾燥処置、付着した土砂、カビのクリーニング、折れ、シワ等を伸ばすフラットニングやカビ、虫害が発生している資料への燻蒸処置である。

7年度は、昨年度に引き続き、久留米絆関連資料2件の作業を行い、約2500点と25塊の作業を終了した。その後、所有者に返却し、令和5年7月豪雨による被災資料の保存処置はすべて終了した。



処置作業風景

[埋蔵文化財調査室文化財調査班]

文化財調査班の主たる業務は、国の機関や県及び外郭団体の開発事業に関わる発掘調査及び報告書作成等である。また、県内市町村の実施する発掘調査の支援も適宜行っている。

◎発掘調査及び整理作業

7年度の発掘調査は、受託事業として遠賀川河川改修事業関係（国土交通省九州地方整備局遠賀川河川事務所）1件、執行委任事業として、主要地方道久留米筑紫野線道路改良事業関係（福岡県県土整備部）2件、一般県道観世音寺二日市線道路改良事業関係（福岡県県土整備部）1件の計4件を実施した。

報告書作成は、執行委任事業として6年度に発掘調査を実施した、社会資本整備総合交付金事業関係（久富古墳群）1冊、4～6年度に発掘調査を実施した、都市計画道路三橋筑紫橋線道路建設事業関係（坂本町遺跡遺構編）1冊の計2冊を刊行した。また、7年度に発掘調査を実施した遠賀川河川改修事業関係に関しては、一部整理作業のみを実施した。

以下、7年度に実施した発掘調査の概要を掲載するが、現在整理中のものも含まれており、詳細については刊行予定の報告書で公表する。

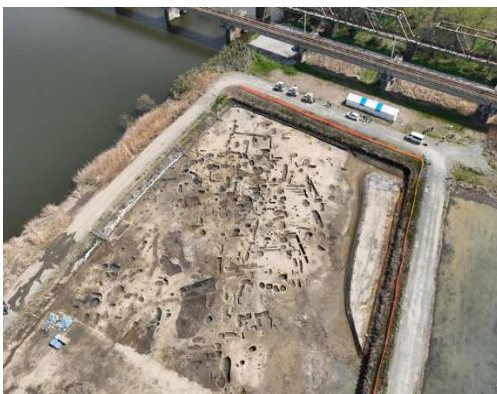
○遠賀川河川改修事業

・垣生遺跡第1次調査（中間市）

垣生遺跡は、遠賀川左岸の河川敷に位置する。調査の結果、弥生時代前期～中期の土坑180基、溝跡45条、ピット等を確認した。遺物は遺物包含層からの出土も含め多量の土器や石器、木器等が出土した。

遠賀川流域では、河床や河川敷に多くの遺物が散布する遺跡が多く確認されているものの、調査では明瞭な遺構が伴わない事例が大半であったため、注目される成果が得られた。

なお、調査は8年度以降も継続する予定である。



垣生遺跡第1次調査全景



同左土器出土状況

○主要地方道久留米筑紫野線道路改良事業

・今山向才ノ木遺跡第2次調査（久留米市）

今山向オノ木遺跡は、筑後川旧河道とその支流に挟まれた沖積地に位置する。調査の結果、南側を中心に土坑や溝跡、ピットを確認した。遺物は弥生土器や須恵器・土師器などが出土した。



今山向オノ木遺跡第2次調査遠景



同左全景

・十郎丸長谷古遺跡第4次調査（久留米市）

十郎丸長谷古遺跡は、筑後川の支流である大刀洗川右岸に位置し、これまでの調査で弥生時代や奈良時代、近世の遺跡であることが判明している。調査の結果、竪穴住居跡12棟、箱式石棺1基、近世墓30基、土坑3基（内、井戸跡1基）、溝跡15条を確認した。遺物は弥生土器や須恵器・土師器などが出土した。



十郎丸長谷古遺跡第4次調査箱式石棺



同左竪穴住居跡

○一般県道観世音寺二日市線道路改良事業

・大宰府条坊跡365次調査（太宰府市）

大宰府条坊跡は、御笠川による沖積段丘面に位置し、本調査地点は、大宰府政庁跡の南門跡から南方向へ約470m離れた場所にある。調査の結果、12世紀を中心とした井戸跡4基、溝跡、多数のピットを確認した。溝跡は朱雀大路の東側側溝の可能性はある。遺物は土師器、須恵器、陶磁器、瓦に加え、石製品、木製品が出土した。



大宰府条坊跡365次調査井戸跡

7年度文化財調査班実施の発掘調査一覧発掘調査

遺跡名	所在地	調査面積 (m ²)	調査期間	調査内容	調査原因
垣生遺跡	中間市垣生	4,500	R7. 11. 10～R8. 3. 19	集落	河川改修
今山向才ノ木遺跡	久留米市北野町今山	2,000	R7. 6. 3～8. 29	集落	道路改良
十郎丸長谷古遺跡	久留米市北野町十郎丸	2,500	R7. 9. 24～R8. 3. 19	集落	道路改良
大宰府条坊跡	太宰府市朱雀	280	R7. 10. 28～R8. 1. 30	都城	道路改良

◎「古代国家形成期の日本列島における地域社会 編成：鉄製武器に着目して」

本研究では、日本列島における古代国家形成期にあたる古墳時代後期・終末期に進行する地域支配制度の転換及び地域社会編成の実態解明に向け、鉄製武器を中心とした副葬品の地域性・階層性の検討を主軸に据えた考古学的な検討を行う。7年度は近畿地域や関東地域など県外の所蔵資料を対象に資料調査等を実施した。研究計画に変更が生じたため、研究期間を延長し、8年度に研究の成果をまとめる予定である。



千葉県香取市・城山1号墳出土鉄刀

[埋蔵文化財調査室大宰府調査班]

大宰府調査班では、大宰府史跡と関連遺跡の調査研究を主な業務として、7年度から大野城跡の史跡整備にも取り組んでいる。7年度は、開発に伴う事前確認調査を3件、大野城跡土塁保存修理工事に係る事前確認調査を1件、大野城跡環境整備工事1件を実施した。

◎大宰府史跡の発掘調査および報告書作成

7年度は、大宰府政庁周辺官衙跡の広丸地区、観世音寺境内及び子院跡、大野城跡にて、開発に伴う事前確認調査や史跡整備工事に先立つ確認調査を行った。

報告書は『大宰府史跡発掘調査報告書XIII 令和5・6年度』を刊行した。

そのほか、大野城跡については、今後総合的な調査を行っていくことにしており、6年度につづき過去の調査の整理作業や基礎資料を得るための踏査・測量等を行った。

詳細は下記のとおりである。

7年度大宰府史跡調査一覧

調査次数	面積 (m ²)	調査期間	調査地区
大宰府史跡第254次調査	70	R7. 5. 22～6. 27	政庁周辺官衙跡・広丸地区
大野城跡第62次調査	18.4	R7. 7. 2	四王寺県民の森センター内
大宰府史跡第255次調査	10.0	R7. 10. 14～16	観世音寺境内及び子院跡
大野城跡第63次調査	11.5	R8. 2. 5～3. 17	増長天地区
大野城跡踏査・測量	約30,000	R7. 4～R8. 3	全域（測量は観世音寺口城門周辺）

○大宰府史跡第 254 次調査（政庁周辺官衙跡・広丸地区）

第 254 次調査は、個人住宅建設に先立つ確認調査で、調査地点は広丸地区の北東寄りに位置する。

調査は住宅の予定範囲を 3 分割して行った。その結果、地表下 1.1～1.4m 程で遺構面確認し、土坑、掘立柱建物跡の柱穴、溝跡等を確認した。遺物は 7～8 世紀の土師器、須恵器、瓦等が出土した。

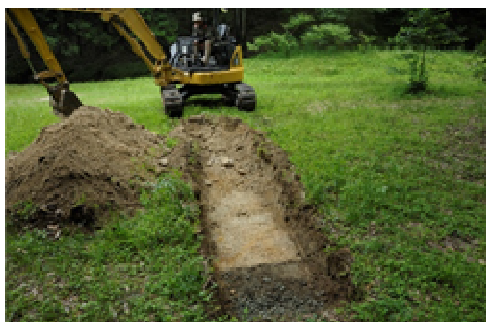


大宰府史跡第 254 次調査

○大野城跡第 62 次調査（四王寺県民の森）

第 62 次調査は、トイレ及び広場の改修工事の計画立案に先立って行った確認調査である。

調査は建物周辺に 7 本のトレンチを設定して行った。その結果、新しい時代の埋め土や自然堆積土を確認したものの、遺物及び遺構は確認できなかった。一帯は現代に入り、元々より深い谷部であった地形を大きく盛土造成したことを確認した。



大野城跡第 62 次調査

○大宰府史跡第 255 次調査（観世音寺境内及び子院跡）

第 255 次調査は、個人住宅建設に先立つ確認調査で、調査地点は指定地の北東に位置する。

調査は宅地内に 1 本のトレンチを設定して行った。その結果、基盤層は西側へと低くなり、西端では 1.7 m 下位でも確認できず、遺物及び遺構は確認できなかった。一帯は現代に入り、元々斜面であった地形を大きく造成した場所であることを確認した。



大宰府史跡第 255 次調査

○大野城跡第 63 次調査（増長天地区）

第 63 次調査は、イノシシによる掘削被害修復整備に先立ち、土塁外側の構造把握を目的とした。掘削被害が多い箇所を利用して、トレンチを土塁外側に設定した。また周辺の掘削被害箇所の開口部を精査し、記録・観察した。

その結果、版築盛土、その下位の基礎盛土、更に地山との間の簡易造成土の層が確認できた。一方で外被盛土、堰板柱等は確認できず、土層から確認された土塁構築土の崩落・流出によって失われた可能性がある。



大野城跡第 63 次調査

○大野城跡踏査・測量

今後の調査に向け、全域を対象に踏査を行った。主に土塁推定線の現状把握を行い、課題を抽出していった。また、観世音寺口城門周辺における土塁推定線の詳細地形測量を実施した。

◎大宰府史跡調査研究指導委員会

大宰府史跡の調査研究にあたっては、遺跡の性格上、あらゆる分野から総合的に取り組む必要があるため、考古学・歴史学・建築史学・造園学・土木工学などの専門家で構成する「大宰府史跡調査研究指導委員会」を設置し、その指導のもと、計画的に調査研究を進めている。

7年度の大宰府史跡調査研究指導委員会は、7月15日（火）に開催し、6年度の事業報告や7年度の事業計画について審議が行われた。



7年度大宰府史跡調査研究指導委員会

令和7年12月3日（水）には、福岡県立四王寺県民の森センターにおいて調査研究部会と史跡整備部会を合同開催し、7年度の調査研究及び史跡整備の計画、大野城跡の次期整備地や今後の調査研究について審議が行われた。

また、7年度は「特別史跡大野城跡保存活用計画」を作成するため、新たに保存活用部会を立ち上げ、9年度までの3か年をかけて計画作成を進めることとした。保存活用部会は、九州歴史資料館にて令和7年12月17日（水）と令和8年3月18日（水）の2回開催し、策定スケジュールの確認や、「第1章 計画策定の沿革・目的」、「第2章 特別史跡の概要」、「第3章 特別史跡の価値」、「第4章 現状と課題」、あわせて現状変更基準について審議が行われた。

大宰府史跡調査研究指導委員会委員名簿（7年度）

	氏 名	所 属	専 門
委 員 長	佐藤 信	東京大学名誉教授	歴史学
副委員長	山中 章	三重大学名誉教授	考古学
委 員	坂上 康俊	九州大学名誉教授	歴史学
	森 公章	東洋大学教授	歴史学
	増渕 徹	和歌山県立紀伊風土記の丘館長	歴史学
	本中 眞	独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所長	造園学
	亀田 修一	岡山理科大学名誉教授	考古学
	箱崎 和久	独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所	建築史学
	尼崎 博正	京都芸術大学名誉教授	造園学
	包清 博之	九州大学名誉教授	造園学
	末次 大輔	宮崎大学教授	土木工学
	森 弘子	元公益財団法人古都大宰府保存協会理事	地元有識者
	重藤 輝行	佐賀大学教授	考古学

◎大宰府史跡調査研究検討会

大宰府史跡は複数の市町にまたがることから、その調査研究に際しては関係する市町等と連携して行う必要があるため、「大宰府史跡調査研究検討会」を設置し、検討及び情報共有を行っている。

7年度の第1回目の検討会は、令和7年6月30日（月）に当館にて開催し、大野城跡の南側外周土塁の踏査結果や、大日堂出土瓦についての検討を行った。また第2回目の検討会は、令和8年2月24日（火）に大宰府史跡整備検討会と合同で大野城跡にて開催し、増長天地区の内周土塁におけるトレンチ調査の検討を行った。

◎大宰府史跡整備検討会

大宰府史跡に関わる県や関係市町が、互いの整備の手法や課題、知見などを共有し、整備技術の向上を図るため、「大宰府史跡整備検討会」を開催している。

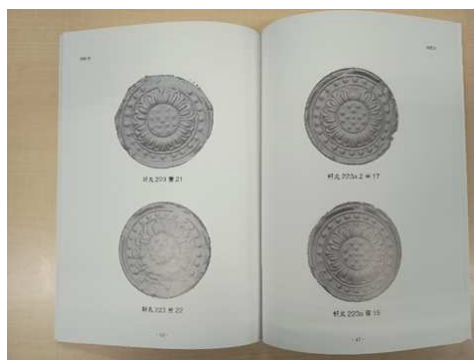
7年度は、既述のとおり令和8年2月24日（火）に調査研究検討会と合同開催し、大野城跡増長天地区の整備事業地において土塁保存整備工事の工法について検討を行った。

◎大野城跡保存活用計画策定に係る検討会

保存活用計画の策定にあたり、大野城市・太宰府市・宇美町の文化財担当者を招集して意見交換を行い、計画内容の充実を図っている。7年度は6月18日（水）・12月4日（木）・1月20日（火）・2月19日（木）の計4回開催した。

◎大宰府史跡出土品の重要文化財指定に向けた保存と活用の為の三次元データベースの構築

本研究は、重要文化財大宰府史跡出土品の保存と活用のための三次元データベース作成を目的としたものである。研究の対象となる出土品に関しては軒丸瓦、軒平瓦などの瓦当を中心に写真データの取得に努め、三次元化の作業を行った。撮影したデータはAGISOFT社製のMetaShapeを用いて、三次元化を行っている。7年度は最終年度であり、報告書を作成し、軒丸瓦の瓦当を中心に掲載を行った。



研究報告書

◎版築技法により構築された土塁の安定機構に関する地盤工学的研究

古代山城の土塁は、城壁という性格から、直立に近い勾配で構築され、現代の安定基準に照らし合わせると「非常に不安定」と判定される。しかし、築城から1,300年以上もおよその形状をとどめているという客観的事実は、この構造物が安定であることを間接的に証明しており、その矛盾をつなぐキーワードが“版築”であることは、古代山城に関わる研究者であれば多くの人が認識するところである。本研究では、西日本に分布する古代山城の現地調査を行った上で、オリジナルと同等の模型（版築モデル）を製作、その模型から版築土塁の土質定数を得た上で、すべり安定計算によるコンピュータ解析を実施することにより、地盤工学的視点から“版築”が土塁を安定化させるメカニズムを定量的に解明することを目的に研究を進めた。

その結果、これまで定性的に評価されてきた版築土塁の安定性を、コンピュータ解析により、安全率というファクターから定量的に評価することに成功した。一方で、解析結果を満たすためには、土塁内部の地下水位を持続的に低く維持するための工夫が必要となり、この痕跡が土塁上部に認められている「傾斜版築」ではないかと考察した。そこで、全国の古代山城の悉皆調査を行い、その存在を追認した。研究成果は、報告書にとりまとめ、令和8年3月に刊行した。



版築ミニチュアモデル(設置場所:大野城跡)

◎大宰府史跡出土瓦の整理作業

当館の長年にわたる調査によって出土した大宰府史跡の瓦については、今後の活用に資するべく、使用頻度を考慮した選別や再分類を坂本事務所にて行った。

(2) 展 示

展示室では、常設展示に加えて、年1回の特別展、年2回程度の企画展を実施している。特別展は、毎年秋に第1展示室の常設展示を全て撤去して行うもので、当館の調査研究の学術成果を紹介する最も大規模な展示である。また、企画展は、現在進行している館の取組を紹介するもので、小規模ながら最新の研究動向を反映したものとなっている。この他、小さなテーマを設定して資料を紹介する特集展示も実施し、展示に変化をもたせている。

2階の文化情報広場では、県内各地の多様な文化財を紹介し、また、これまで九州歴史資料館や福岡県が行ってきた調査研究の成果を公開することを目的に、館内各所で写真や図版を用いたパネル展を開催している。また、正面右側の回廊を利用して、三沢遺跡と県内古墳を紹介するパネルを掲示している。

◎常設展示

第1展示室では、「歴史(とき)の宝石箱」をテーマに、旧石器時代から近現代に至る福岡県の歴史を、通史的に紹介している。展示品は、遺跡からの出土品や、仏像、古文書、古地図、古絵図等の実物資料とし、各時代の象徴的な資料に向き合うことを通して、福岡県さらには九州の歴史を体感できるよう意図している。資料は随時展示替えを行い、特に古文書や絵画など布紙を素材とする資料については、資料保全のため2ヶ月毎にすべてを入れ替え、新しいトピックスを提供している。

第2展示室では、大宰府政庁中門の10分の1復元模型を展示する他、九州の大きさや地形、位置や距離を学ぶことができるように、床面の中央に縮尺10万分の1の九州の衛星写真を設置している。

第3展示室では、縦横に棚を連ねたロッカー式のケースに、福岡県内出土の弥生土器や須恵器、軒先瓦などを基本的に時系列に沿って並べ、形や文様、調整等制作技術の移り変わりが理解できる展示を行っている。また引き出し式のケースには、貿易陶磁や国産陶器等の破片資料を展示しており、それら資料の多彩な色や文様、胎土等の様子を観察することができる。

第4展示室では、旧石器時代や縄文時代の集石遺構、弥生時代の小児甕棺墓や銅矛銅戈埋納土坑、古墳時代の編み籠に入った須恵器、奈良時代の地盤強化のための筏状遺構、平安時代の製銅炉他の、現地で保存することができなかった遺構を切り取ってきて保存処理を施して床下のケースに収め、地中の遺跡を覗き込むような形で展示を行っている。

第1展示室、第2展示室においては、特集展示と題して、常設展示の内容を掘り下げたり、より平易に入門編的に紹介したり、学校の授業と連動させるなどした展示も行っている。特別展や企画展に比べると小規模で手作りのものではあるが、その分必要に応じ調査研究の進度に応じて臨機に織り込むことができ、展示に変化をもたらしている。

なお、分かりやすさと親しみやすさを考慮して、キャプションの文字数は少なめに設定しているが、踏み込んだ解説が必要と判断される場合には、観覧者が自由にとることのできる解説シートを作成して、より一層の興味関心に応えられるよう工夫をしている。

<常設展示「歴史の宝石箱」展示構成>

第1章 旧石器・縄文時代 狩猟と採集

第2章 弥生時代 稲作とクニ

第3章 古墳時代 北部九州の古墳文化

- 第4章 古代Ⅰ 大宰府史跡
- 古代Ⅱ 西海道大宰府
- 古代Ⅲ 仏教美術
- 第5章 中世Ⅰ その後の大宰府
- 中世Ⅱ 武士と戦乱の世
- 第6章 近 世 「太平の世」の福岡
- 第7章 近代Ⅰ 「福岡県」の誕生とあゆみ
- 近代Ⅱ 絵図の世界

◎特別展「江戸時代に華ひらいた福岡のやきもの」

期間：令和7年10月11日（土）～12月7日（日）

会場：九州歴史資料館 第1展示室

主催：九州歴史資料館

内容：当館では、令和2年から5年にかけて福岡県内にある近世窯業遺跡の悉皆調査を行い、報告書を出版した。報告によれば確認できた窯跡は40を超え、その多さは注目に値する。豊前、筑前、筑後の近世陶磁器は、朝鮮人陶工を祖としている窯が多く、上野焼や高取焼などは茶陶としての評価も高い。さらに、先般の調査では、肥前・有田から大きな影響を受けて生産を発展させ、瀬戸・美濃や京都などとも関係があり、独自性をもちながら、窯業技術が確立され、生産を行っていたことが分かってきた。

現在、福岡県内では多くの窯元で作家が活動しており、特に上野焼、高取焼、小石原焼などは全国的知名度があり、愛好する人々も多い。しかし、残念なことに福岡県ではこれら豊前、筑前、筑後のやきものを総攬する展覧会が行われたことがない。つまり、本展覧会は福岡県が行うはじめての「福岡のやきもの」展であり、福岡の伝統工芸に関係する歴史の一端を紹介することとなり、極めて重要な展覧会となった。

本展覧会では、県民にひろく福岡のやきものの特色や素晴らしさなどを感じてもらい、その奥にある歴史や文化について、改めて考える機会となるよう企画した。主な展示資料は以下のとおり。なお会期中の来館者数は、10,935名であった。

また会期中には関連イベントとして、特別展開催記念講演会「大名茶人と高取焼・上野焼」（11月2日（日）、招聘講師：梶山博史氏（大阪市立東洋陶磁美術館学芸課長代理）、参加者数152人）、および文化財めぐり「小石原周遊。手びねり体験あり！」（11月15日（土）、参加者数27人）を開催した。

主な展示資料は以下のとおり。

第一章 豊前のやきもの

- 灰釉碗 銘「小倉焼」 17世紀前半 田中丸コレクション所蔵
- 灰釉綴目水指 上野焼 17世紀前半 松井文庫所蔵
- 褐釉車軸形水指 上野焼 17世紀前半 福智町教育委員会所蔵
- 緑釉双耳共蓋水指 銘「青鷺」 田香焼 19世紀前半 福智町教育委員会所蔵
- 瑠璃釉染付梅花文三足鉢 田香焼 19世紀 福岡県立美術館所蔵



特別展「江戸時代に華ひらいた福岡のやきもの」ポスター

第二章 筑前のやきもの

藁灰釉肩衝茶入 高取焼（永満寺宅間窯） 17 世紀前半 福岡市美術館所蔵

褐釉耳付茶入 「二」字銘 高取焼（内ヶ磯窯） 17 世紀前半 福岡市美術館所蔵

嘉麻市指定有形文化財 藁灰釉碗 大庭源太夫墓出土（山田窯） 17 世紀前半 嘉麻市教育委員会所蔵

褐釉菊花形手鉢 高取焼（小石原鼓窯） 17 世紀後半 佐賀県立九州陶磁文化館所蔵（高取家コレクション）

褐釉茄子香合（黒田家伝来） 高取焼（大鋸谷釜） 17 世紀後半～18 世紀前半 田中丸コレクション所蔵

掛分釉白鷺盃洗 高取焼（東皿山窯） 18 世紀後半～19 世紀前半 田中丸コレクション所蔵

褐釉人物置物（孝子正助像） 高取焼（東皿山窯） 安政 3 年（1856） 亀陽文庫能古博物館所蔵

須恵町指定有形文化財 金錆染付山水人物双耳瓶 須恵焼 明治 22 年（1889） 個人所蔵

炭形涼炉 宗七焼 18～19 世紀 福岡県立美術館所蔵（久我コレクション）

第三章 筑後のやきもの

灰器 蒲池焼 19 世紀 天叟寺所蔵

火鉢 蒲池焼 17 世紀中葉 天叟寺所蔵

梨地丁子風炉 坂東寺焼 19 世紀 福岡県立美術館所蔵（田中定氏寄贈品）

南蛮縄簾写水指 星野焼 18～19 世紀 福岡県立美術館所蔵（久我コレクション）

灰褐釉茶碗 柳原焼 19 世紀前半 久留米教育委員会所蔵

灰釉下蕪形瓶 東野亭焼 19 世紀 福岡県立美術館所蔵（久我コレクション）



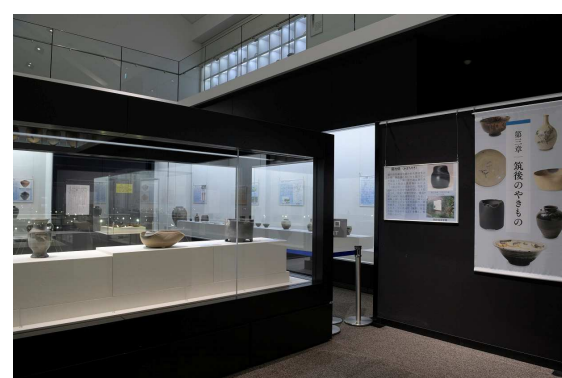
展示風景全景



第1章 豊前のやきもの



第2章 筑前のやきもの



第3章 筑後のやきもの

染付落雁文皿 赤坂焼 18～19 世紀 福岡県立美術館所蔵（久我コレクション）

鉄絵緑彩松文壺 二川焼 19～20 世紀 福岡県立美術館所蔵（久我コレクション）

総点数 111 件 144 点（市指定文化財 1 件 2 点、町指定文化財 3 件 3 点）

図録：A4 版、154 頁、印刷部数 1,300 部、頒価 1,100 円

◎企画展

○第 72 回企画展「江戸時代の福岡の窯道具」

会期：令和 7 年 10 月 7 日（火）～12 月 27 日（土）

会場：第 2 展示室

主催：九州歴史資料館

内容：江戸時代以降に操業された窯業関係遺跡について、現状を把握するために令和 2～5 年度にかけて実施した緊急分布調査の成果を基に展示を行った。展示内容としては、江戸時代の福岡県内（筑前・筑後・豊前）の近世窯跡写真パネルで紹介し、窯積みの際に使用されたトチン・ハマ・サヤ鉢などの窯道具を窯跡ごとに展示した。

これらの展示によって、江戸時代の高取焼や小石原焼、上野焼、田香焼、朝妻焼、東野亭焼などで使用された窯道具の変遷を辿ることができ、今まで脇役であった窯道具について光を当て、多くの方々に知って頂く機会となった。

関連事業として、会期中の 12 月 19 日（金）にタベのギャラリートーク（展示資料解説）を実施した。



「江戸時代の福岡の窯道具」展示風景全景



同左 展示風景近景

○第 73 回企画展「齋藤秋圃一人となりと人物描写の魅力ー」

会期：令和 8 年 1 月 16 日（金）～3 月 15 日（日）

会場：（近世・近代コーナー）

主催：第 1 展示室九州歴史資料館

内容：齋藤秋圃（1768～1859）は、上方に生まれ、長じて画技にたけた俳間として大阪新町で人の知るところとなり、文化 2 年（1805）に秋月藩お抱え絵師になるという異例の転身を見せた後に、文政 11 年（1828）に隠居してからは太宰府に住んで人気を博した人物である。福岡県の近世絵画を考える上では、福岡藩お抱え絵師である尾形家の絵師たちと並んで重要な位置を占める。

この秋圃に関しては当館でも早くから調査研究の対象としながら、これまでまとまった展示を行う機会がなかった。ただ近年、太宰府



「齋藤秋圃 - 一人となりと人物描写の魅力ー」ポスター

市教育委員会が太宰府の絵師調査事業の要に据えて調査研究を深化させる中で、新しい知見が少なからず得られており、そのような知見と当館の調査研究の成果に基づいて、企画展を開催することになったものである。展示にあたっては、秋圃の個性と他に秀でた力が映し出された人物図、そしてなかなか普段目にすることがない屏風を中心に紹介した。

展示品は葵氏艶譜（1803年・福岡市博物館蔵）、島原陣図屏風（1837年・朝倉市秋月博物館蔵）、平敦盛と熊谷直実図絵馬（1840年・筑紫野市歴史博物館蔵）、十二ヶ月風俗図絵巻（1841年・当館蔵）、博多太宰府図のうち太宰府図（1844年・個人蔵）、猩々図屏風（江戸時代後期・筑紫野市歴史博物館蔵）、蘭亭曲水図屏風（1851年頃・個人蔵）、初夢図（1852年頃・福岡市博物館蔵）、鸞替迫難図巻（1855年頃・福岡市博物館蔵）、齋藤家資料8件（江戸時代後期・太宰府市教育委員会蔵）等である。

なお、このうち蘭亭曲水図屏風については、同じく齋藤秋圃筆で同じ個人蔵の七福神図屏風と共に、企画展が縁となって会期終了後間をおかずして、当館の所蔵となっている。

・入館者数 11,640人

総点数 17件 21点（市指定文化財 1件 2点、町指定文化財 3件 3点）

図録：AB版、80頁、印刷部数 1,000部、頒価 800円

・関連イベント

2月7日（土）記念講演会「齋藤家伝来文書に見る秋圃と周辺の人々」木村純也氏（太宰府市教育委員会）

2月14日（土）九歴講座「齋藤秋圃一人となりと人物描写の魅力」井形進（当館学芸員）



企画展「齋藤秋圃 - 人となりと人物描写の魅力」展示風景

◎パネル展示

○パネル展「シルクロードの文化遺産（２）—草原の道—」

会期：令和7年7月1日（火）～9月21日（日）

会場：九州歴史資料館 2階 文化情報広場

主催：九州歴史資料館

内容：シルクロードはかつて、ユーラシア大陸の東西の間で人・物・文化の交流を担った交通路である。この沿線地域には、数多くの遺跡や遺物など、歴史的に重要な文化遺産がある。シルクロードを通った文物には、九州を窓口日本各地へと伝わったものもあり、これらの文化遺産は、九州の歴史・文化にも関連している。そしてこのシルクロードの文化遺産については、当館の西谷正名誉館長が長年研究を行

令和7年度パネル展

シルクロードの文化遺産（２） —草原の道—



九州歴史資料館 2階 文化情報広場

かつてユーラシア大陸の東西を結んだシルクロードに関する文化遺産を、西谷正名誉館長撮影の写真で紹介。今回は、シベリア南部の草原の遺跡の遺跡が登場します。

会期：令和7年7月1日（火）～9月21日（日）

会場：九州歴史資料館 文化情報広場

観覧料：無料

（学芸員・特別観覧料が必要）

観覧時間：9:30～16:30（入館は16:00まで）

休館日：月曜日（祝日・振替休日の場合はその翌日）

九州歴史資料館 2階 文化情報広場

九州歴史資料館 2階 文化情報広場

い、数多くの写真も撮影されてきた。

本展では、令和6年度～7年度の名誉館長講座のテーマに合わせ、平成30年度に開催した同名の展示を再演した。シルクロードのコースの一つ、草原の道に関する文化遺産をテーマとし、特にロシア・中国・モンゴル三国の国境付近に広がるウコック高原の墳墓群を主として取り上げた。墳墓の発掘風景や出土品の写真を展示し、加えて現代にこの地域に生きる人々の姿も紹介している。なお、パネル展「シルクロードの文化遺産」シリーズは、令和8年度に「海の道」の開催も予定している。

○パネル展「世界遺産登録 10 周年記念・明治日本の産業革命遺産」

会期：令和7年9月23日（火・祝）～12月14日（日）

会場：九州歴史資料館2階 文化情報広場

主催：「明治日本の産業革命遺産」福岡県世界遺産連絡会議（福岡県・北九州市・大牟田市・中間市）、九州歴史資料館

内容：「明治日本の産業革命遺産」が平成27年度にユネスコ世界遺産に登録され、令和7年で10周年を迎えることを記念して開催するパネル展。九州を中心とした8県にまたがる23の構成資産のうち、福岡県内に所在する三池炭鉱・三池港（大牟田市）、官営八幡製鉄所（北九州市）、遠賀川水源地ポンプ（中間市）の3つについて、文章や写真、DVD映像により、登録の意義やこれからの保存活用のあり方を紹介した。

○パネル展「世界遺産「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群×佐渡島（さど）の金山」

会期：令和7年12月16日（火）～令和8年3月1日（日）

会場：九州歴史資料館2階 文化情報広場

主催：福岡県文化振興課、九州歴史資料館

内容：平成29年度にユネスコ世界遺産に登録された「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群（宗像市・福津市）について紹介する展示。今回は、沖ノ島と同様、離島に存在する世界遺産「佐渡島の金山」（新潟県佐渡市）に注目し、パネルを通じて相互の魅力を紹介した。特に「佐渡島の金山」については、鉱山や集落の遺跡、金産出のための管理体制と労働体制などを具体的に紹介し、普段は身近に感じることの少ない遠方の世界遺産の実像と重要性を紹介した。

○パネル展「筑紫地区文化財写真展 色のパレット～筑紫の歴史(とき)を彩る文化財～」

会期：令和8年3月3日（火）～3月15日（日）

会場：九州歴史資料館2階 文化情報広場

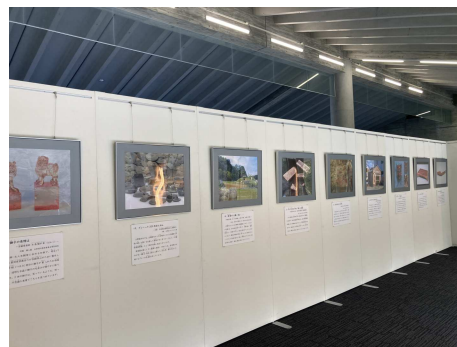
主催：筑紫地区社会教育振興協議会文化財部会

共催：九州歴史資料館・九州国立博物館

内容：筑紫地区社会教育振興協議会文化財部会が主催し、当館などが共催する展示。筑紫地区（筑紫野市・太宰府市・大野城市・春日市・那珂川市）の文化財担当者が自治体の枠を超えて文化財を紹介する取組で、各自治体と



パネル展「世界遺産「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群×佐渡島の金山」展示風景



パネル展「筑紫地区文化財写真展 色のパレット～筑紫の歴史を彩る文化財～」展示風景

九州国立博物館、当館で巡回展示する。7年度のテーマは、色。赤・青・緑・黒・茶・金など、文化財がもつ色に注目しながら地域に伝わる様々なジャンルの文化財をとりあげ、改めて身近な文化財の魅力に気づく機会とした。

○パネル展 保存科学成果展「船原古墳遺物埋納坑調査の最前線 2025 - 2026」

会期：令和8年3月17日（火）～3月31日（火）

会場：九州歴史資料館2階 文化情報広場

主催：九州歴史資料館

内容：平成25年3月、古賀市に所在する船原古墳に隣接して遺物埋納坑（1号土坑）が発見された。これは、土坑に古墳副葬品が埋納されるというわが国初の発見であった。その副葬品も、金銅製歩揺付飾金具（雲珠）や、ガラス装飾付辻金具・雲珠など、わが国初となる貴重な資料であった。



保存科学成果展「船原古墳遺物埋納坑調査の最前線 2025 - 2026」展示風景

発見後、当館は古賀市教育委員会との共同研究として、遺物の科学的調査や保存処理を進め、それを毎年、公開してきた。

本展は、X線透過撮影と蛍光X線分析による遺物の材質・構造・技法に係る研究成果を中心に船原古墳遺物埋納坑出土遺物の最新情報について公開した。

◎特集展示

○特集展示「きゅうおにとタイムトラベル ー大昔のくらしと国づくりー2025」

会期：令和7年4月1日（火）～7月13日（日）

会場：第2展示室

主催：九州歴史資料館

内容：例年の企画展である。福岡の大昔の人たちはどのような服を着ていたのか、食べ物は何を食べて暮らしていたのか、また日本の国はどのように形作られてのか。そのような大昔の歴史の疑問を、九州歴史資料館のイメージキャラクターである「きゅうおに」とともに縄文・弥生・古墳・奈良の各時代をタイムトラベルしながら探っていく小学生とくに歴史をはじめて学



特集展示「きゅうおにとタイムトラベル」展示風景

ぶ高学年の子供たちを対象とした展示である。教育普及の観点を重視し、歴史学習をより楽しくできるように、わかりやすくするために実物資料だけではなくレプリカやイラストパネルを多用した。第1展示室では実践しにくかった子供たちへむけての展示を実践でき、さらに親や先生、同級生などと一緒に楽しめる企画でもある。

○特集展示「新出薩摩塔と福岡の大陸系文物」

会期：令和7年6月17日（火）～9月7日（日）

会場：第1展示室（美術工芸コーナーの一部）

主催：九州歴史資料館

内容：九州の北部に位置する福岡の地は、太古から日本列島と大陸との交流の窓口であった。そのため多くの渡来文化財が寺社や時には個人宅にまで伝わっており、福岡の地が人と文物が盛んに往来する、東アジアのかなめの一つであったことが実感される。

なお大陸渡来の文化財としては早くから、仏像、仏画、工芸品などが注目されてきたが、最近とくに耳目を集めているのは、南宋や元から鎌倉時代にもたらされた、薩摩塔と称されている石塔や、南宋、元、明から中世の日本にもたらされた、宋風獅子と称されている石造獅子などの石造物である。これらは福岡平野、平戸、薩摩を中心としながら、九州西側に偏って存在している。そして薩摩塔については、これまで渡来文物の請来を考える際に主として意識されてきた僧侶ではなく、日中交易の主役であった中国人海商たち自らの信仰に関わるものと考えられる、新たな視野をもたらす重要な存在である。

この特集展示では、博多湾西部の今津で発見された新出の薩摩塔（個人蔵）を中心に、福岡平野周辺地域に伝わる中国から渡来した、あるいは中国ゆかりの文化財や、朝鮮半島からの渡来仏を展示した。これらの文化財の背後に、海を介して結ばれた往時の環東シナ海世界のあり方や、国際交流の拠点としての福岡の姿を体感していただくことを目的としたものである。



薩摩塔断片（個人蔵）

○特集展示「木簡入門」

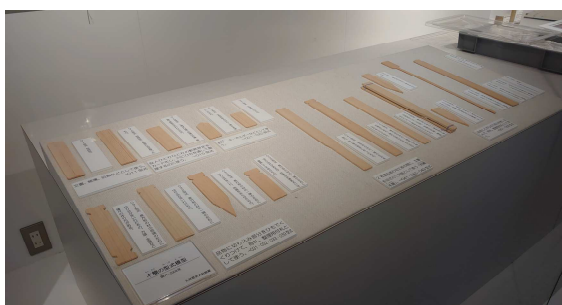
会期：令和7年7月23日（水）～10月5日（日）

※第1展示室 令和7年8月13日（水）～9月28日（日）

会場：第2展示室・第1展示室

主催：九州歴史資料館 内容：大宰府史跡では昭和45年（1970）3月に初めて第1号木簡が発見されて以来、今日までに1,200点あまりの古代木簡が出土している。この点数は九州における古代木簡の出土総数1,600点余りのうち、7割以上を占める。大宰府史跡および大宰府条坊跡等からの出土木簡のほとんどすべてを所蔵する九州歴史資料館は、大宰府史跡出土木簡を中心として、九州における木簡研究の拠点として、50年以上にわたって、木簡の調査研究を行って来た。

このことをふまえ、当館の調査研究の主軸の一つである木簡について、そもそも木簡とは何か、その調査研究の方法、保存管理という基礎的な事項について紹介する特集展示「木簡入門」を開催した。本展によって、木簡の文化財としての重要さと、その調査研究の意義を広く理解いただける機会とするこ



木簡入門展示風景

とを目指した。

○特集展示「仏像入門―仏像の種類・技法・修理―」

会期：令和8年1月6日（火）～3月8日（日）

会場：第2展示室

主催：九州歴史資料館

内容：地域の寺院仏堂に祀られる仏像は、過去の人々が信仰の対象としてつくりだし、長い時を人々の手によって守られながら今日に伝えられた。各時代、各地域の信仰のあり方を映し出す仏像は、地域の歴史や文化を考えていく上で大切な存在である。「仏像入門」と題した本展は、こうした仏像を理解するための基礎的なポイントについて、わかりやすい表現で展示紹介するものである。

展示は3つのコーナーで構成した。まず、冒頭では、仏像の種類を大きく4つのグループに区分し、それぞれの役割や姿かたちの特徴を、パネルを用いて紹介した。次に、仏像、特に木彫像の技法について、用いられる木材の種類や木取りの方法のバリエーションを、木材見本・構造見本を用いて紹介した。最後に、仏像の修理は、現在でも伝統的な技法に基づいておこなわれることを、修理の道具や材料を展示しながら紹介し、これからの文化財修理の重要性について考える場とした。

会場となった第2展示室は、温湿度や太陽光の関係で、仏像などデリケートな文化財を展示することが難しい。そのため、会場に実物資料は展示できなかったが、その分、第1展示室の仏像の展示コーナーとのリンクを意識し、双方に対応するキャプションを設置。ふたつの展示室をあわせて見ていくことによって、仏像についてより深く知ることができるよう工夫した。



仏像入門展示風景

(3) 資料利用

本館では、他機関の展示のため所蔵資料の貸出を行っている。考古資料のほか、文書資料、写真資料も貸出しており、7年度においては以下のとおり利用があった。また、他機関や学生による資料調査などの一時利用を受け入れており、平日を基本に、日曜日等の閲覧希望も状況に応じて対応している。7年度の実績は考古資料貸出47件、同一次利用24件、写真資料貸出、掲載許可92件、文書・典籍資料貸出5件、同一時利用16件である。

考古資料の貸出一覧（短期）

番号	貸出先	点数	貸出資料名	貸出目的	貸出期間
1	八女市教育委員会	20	八女市岩戸山古墳の 測量図面 他	岩戸山古墳に関する調査・確認のため	R7.5 中旬～ 8. 下旬
2	佐世保市教育委員会	2	門田遺跡 谷地区出土 爪形文土器	「発掘された日本列島 2025 地域展」で展示のため	R7.6.19～ 12.19
3	春日市	6	伯玄社遺跡出土磨製 石鏃	考古企画展「発掘のむかし・いま・ミライ」で展示のため	R7.8. 中旬～ 11. 上旬
4	行橋市教育委員会	15	延永ヤヨミ園遺跡出土 墨書土器 他	特別展「中世の港町「今井津」」で展示のため	R7.9. 下旬～ 12. 下旬
5	八女市教育委員会	9	岩戸山古墳出土土師 器・須恵器	企画展「開館10周年企画展 岩戸山古墳再発見！」で展示のため	R7.10. 下旬～ R8.1. 下旬
6	山口県立萩美術館・ 浦上記念館 他	5	高崎2号墳出土有蓋 足付壺、蓋杯 他	巡回展「This is SUEKI—古代のカタチ、無限大！」で展示のため	R7.9. 中旬～ R9.2. 上旬
7	福井県立歴史博物館	15	重要文化財 大宰府 跡出土品 他	特別展「越前、若狭 異国との出会い」で展示のため	R7.9 下旬～ 12. 中旬
8	浜松市博物館	2	日永遺跡出土銅矛・銅 戈	特別展「伊場遺跡群と弥生時代後期の文化」で展示のため	R7.10 下旬～ R8.2 上旬
9	小郡市教育委員会	7	井上薬師堂遺跡出土 木簡 他	特別展「花立山と御原郡」で展示のため	R7.10 上旬～ 12. 下旬
10	広川町教育委員会	1	石人山古墳出土家形 埴輪片	企画展「帰ってきた家形埴輪」で展示のため	R7.11. 中旬～ 12. 下旬
11	九州国立博物館	1	重要文化財 大宰府 出土品 黄釉紋胎陶 頭枕	文化交流展示室での展示のため	R8.3. 下旬～ R9.3.31
12	九州国立博物館	1	重要文化財 大宰府 出土品 如来立像	文化交流展示室での展示のため	R8.3. 下旬～ 10. 上旬

考古資料の長期貸出一覧（1）

番号	貸出先	点数	貸出資料名	貸出目的	貸出期間
1	京都国立博物館	4	永岡遺跡出土甕棺 他	展示等利活用のため	R4.7.1～ R10.6.30
2	京都国立博物館	1	筑後石人山石棺石膏 製模型	展示等利活用のため	R4.7.1～ R10.6.30
3	大韓民国国立羅州 文化遺産研究所	1	道場山遺跡甕棺	常設展示のため	R5.2.1～ R11.1.31
4	九州国立博物館	200 件	門田遺跡出土細石刃 他	文化交流展示室展示等のため	R7.4.1～ R8.3.31

考古資料の長期貸出一覧（２）

番号	貸出先	点数	貸出資料名	貸出目的	貸出期間
5	国立歴史民俗博物館	9	広田遺跡出土浅鉢・深鉢 他	総合展示のため	R7. 4. 1～ R8. 3. 31
6	岩手県立博物館	4	永岡遺跡出土弥生土器、甕棺	展示及び調査研究のため	R7. 4. 1～ R8. 3. 31
7	甘木歴史資料館	51 件	楠田遺跡出土縄文土器 他	常設展示のため	R7. 4. 1～ R8. 3. 31
8	求菩提資料館	10	銅製経筒、草花双鳥鏡、蓬莱鏡	常設展示のため	R7. 4. 1～ R8. 3. 31
9	老司公民館	6	大宰府史跡出土土瓦	展示ケース展示のため	R7. 4. 1～ R8. 3. 31
10	古都大宰府保存協会	33	大宰府史跡出土資料	常設展示のため	R7. 4. 1～ R8. 3. 31
11	大野城市牛頸ダム記念館	112	牛頸須恵器窯跡出土須恵器、写真パネル	牛頸ダム記念館展示のため	R7. 4. 1～ R8. 3. 31
12	筑紫野市歴史博物館	108	剣塚遺跡出土資料 他	筑紫野市歴史博物館展示のため	R7. 4. 1～ R8. 3. 31
13	直方市教育委員会	72	内ヶ磯窯跡出土陶器	直方谷尾美術館展示のため	R7. 4. 1～ R8. 3. 31
14	古賀市教育委員会	21	水上 A 遺跡出土縄文土器 他	古賀市歴史資料館展示のため	R7. 4. 1～ R8. 3. 31
15	春日市教育委員会	5	伯玄社遺跡出土磨製石鏃 他	奴国の丘歴史資料館展示のため	R7. 4. 1～ R8. 3. 31
16	伊都国歴史博物館	246	三雲南小路遺跡出土資料 他	常設展示のため	R7. 4. 1～ R8. 3. 31
17	八女市教育委員会	1	真浄寺古墳出土短甲 2 号	岩戸山歴史資料館展示のため	R7. 4. 1～ R8. 3. 31
18	小郡市埋蔵文化財調査センター	一式	津古内畑遺跡出土資料、記録	報告書作成のため	R7. 4. 1～ R8. 3. 31
19	筑前町教育委員会	178 箱	依井遺跡出土資料 他	筑前町歴史民俗資料館等で展示、報告書作成のため	R7. 4. 1～ R8. 3. 31
20	粕屋町歴史資料館	76 箱	駕与丁池遺出土資料 他	粕屋町歴史資料館展示のため	R7. 4. 1～ R8. 3. 31
21	香春町教育委員会	84	陣山屋敷遺跡出土資料 他	香春町歴史資料館展示のため	R7. 4. 1～ R8. 3. 31
22	みやこ町教育委員会	23	徳永川ノ上遺跡出土資料 他	みやこ町歴史民俗博物館展示のため	R7. 4. 1～ R8. 3. 31
23	鞍手町教育委員会	10 件	銀冠塚古墳出土資料 他	鞍手町歴史民俗資料館展示のため	R7. 4. 1～ R8. 3. 31
24	篠栗町教育委員会	117	高田遺跡出土資料 他	篠栗町中央公民館展示のため	R7. 4. 1～ R8. 3. 31
25	須恵町教育委員会	419	乙植木古墳群出土資料	須恵町立歴史民俗資料館展示のため	R7. 4. 1～ R8. 3. 31
26	福津市教育委員会	一括	津屋崎古墳群出土資料等	福津市歴史資料館展示のため	R7. 4. 1～ R8. 3. 31
27	筑波大学	一括	立明寺古墳群出土資料	大学における教育等に活用するため	R7. 4. 1～ R8. 3. 31
28	太宰府館	9	大宰府史跡出土土瓦	太宰府館展示のため	R7. 4. 1～ R8. 3. 31
29	宮城県多賀城跡調査研究所	25	大宰府政庁跡出土磁器	磁器の産地、年代同定する参考資料にするため	R7. 4. 1～ R8. 3. 31

考古資料の長期貸出一覧（３）

番号	貸出先	点数	貸出資料名	貸出目的	貸出期間
30	埼玉県立歴史と民俗の博物館	2	永岡遺跡出土甕棺	常設展示のため	R6. 9. 1～ R8. 8. 31
31	栃木県立博物館	2	門田遺跡出土甕棺	常設展示のため	R6. 10. 1～ 8. 9. 30
32	田川市教育委員会	1	伝田川市繻上ノ原遺跡 細形銅剣	常設展示のため	R7. 4. 1～ R8. 3. 31
33	粕屋総合庁舎管理 事務所、福岡県土 整備事務所	20	箱崎遺跡出土資料	庁舎での展示のため	R7. 4. 1～ R8. 3. 31
34	宮若市教育委員会	17	大鳴遺跡出土資料	宮若市文化財収集、展示、交流セン ター展示のため	R7. 4. 1～ R8. 3. 31
35	那珂川市教育委員 会	5	別所次郎丸遺跡出土土 師器	那珂川市中央公民館内文化財展示室 での展示のため	R7. 4. 1～ R8. 3. 31

考古資料の一時利用（資料見学等）一覧

番号	利用者(機関)	点数	利用資料名	利用目的	利用日
1	糸島市役所	一式	曲り田遺跡調査関係遺物・写真	調査研究のため	R7. 5. 26
2	個人	101	本吉遺跡出土遺物	調査研究のため	R7. 6. 4
3	個人	10	大宰府史跡（観世音寺）出土品	調査研究のため	R7. 6. 15
4	福岡県立歴史博物 館	15	大宰府跡出土品	展示のための資料調査	R7. 6. 25
5	春日市	一式	伯玄社遺跡調査写真	調査研究のため	R7. 6. 23
6	山口県立萩美術館	5	高崎2号墳出土須恵器 他	展示のための資料調査	R7. 7. 17
7	個人	128	原の東遺跡出土石器	調査研究のため	R7. 8. 8
8	個人	一式	塔原廃寺出土瓦	調査研究のため	R7. 8. 8
9	春日市	3	伯玄社遺跡出土磨製石鏃	展示のための資料調査	R7. 8. 1
10	個人	1	若八幡古墳出土短甲	調査研究のため	R7. 9. 2
11	個人	16	観世音寺出土陶磁器 他	調査研究のため	R7. 9. 25
12	個人	3	日詰遺跡出土ガラス瓶 他	調査研究のため	R7. 10. 11
13	個人	1	門田辻田遺跡出土琴	調査研究のため	R7. 9. 26
14	個人	4	広田遺跡出土磨製石斧	調査研究のため	R7. 10. 30・31
15	個人	42	流末溝田遺跡出土縄文土器	調査研究のため	R7. 11. 25～27
16	個人	255	馬場長町遺跡出土土器 他	調査研究のため	R7. 11. 20・21
17	個人	1	安武深田遺跡出土分銅形土製品	調査研究のため	R8. 3. 4
18	大野城市	8	白山神社経塚出土品 他	展示のための資料調査	R8. 2. 9
19	福岡大学	一式	宮原金山遺跡出土品	調査研究のため	R8. 2. 2
20	大宰府市文化ふれ あい館	1	大宰府史跡出土文様磚	展示のための資料調査	R8. 2. 3
21	個人	4	小柳遺跡出土土器	調査研究のため	R8. 2. 20
22	個人	177	御供田遺跡出土品 他	調査研究のため	R8. 2. 26
23	個人	41	汐井掛遺跡出土鉄器 他	調査研究のため	R8. 3. 2
24	個人	130	本吉遺跡出土土器	調査研究のため	R8. 3. 9・10

文書・典籍資料等の長期貸出一覧

番号	貸出先	点数	貸出資料名	貸出目的	利用期間
1	筑豊高等学校	223	筑豊工業高校資料	資料室における展示	R7. 4. 1～R8. 3. 31
2	福岡県青少年科学館	90	筑豊工業高校資料	常設展示	R7. 4. 1～R8. 3. 31
3	九州国立博物館	1	筑豊工業高校資料	常設展示	R7. 4. 1～R8. 3. 31
4	福岡県教育庁筑豊教育事務所	7	筑豊工業高校資料	展示のため	R7. 4. 1～R8. 3. 31
5	五條元滋氏	1	金烏の御旗（複製）	展示のため	R7. 4. 1～R8. 3. 31

文書・典籍資料等の一時利用（資料見学等）一覧（1）

番号	利用者(機関)	点数	利用資料名	利用目的	利用日
1	九州大学	3	絵はがき	調査研究	R7. 4. 2
2	京都大学大学院法学研究科	17	野田大塊文書	調査研究	R7. 4. 13
3	福岡県教育庁文化財保護課	107	林（美）文書・山文書	調査研究	R7. 4. 26～9. 2
4	個人	1	福岡藩関係資料	調査研究	R7. 4. 27
5	九州産業大学商学部	6	福岡日日新聞	調査研究	R7. 5. 24～8. 6
6	個人	6	野田大塊文書	調査研究	R7. 6. 1
7	太宰府市文化ふれあい館	12	永江文書	調査研究	R7. 6. 6
8	明治大学史資料センター	13	佐藤家文書	調査研究	R7. 6. 8
9	学習院大学	4	林（美）文書・黒田家文書	調査研究	R7. 7. 10
10	福岡市文化財活用課	11	羽野文書・糟屋郡史編纂史料	調査研究	R7. 7. 11
11	個人	101	羽野文書	調査研究	R7. 7. 8～7. 15
12	青山学院大学	19	永江文書・糟屋郡史編纂史料・福岡藩関係史料・野田大塊文書・貝原収集文書	調査研究	R7. 7. 24
13	個人	22	王丸家文書・松村（ム）文書	調査研究	R7. 7. 25
14	広島大学人間社会科学研究科	33	伊藤（品）文書・高島文書・中間唐戸水門文書・西川文書・福岡藩関係史料・矢山村文書	教育学習	R7. 8. 6
15	個人	2	地図絵図資料	調査研究	R7. 8. 16
16	個人	33	今村家文書	調査研究	R7. 8. 21
17	直方市教育委員会文化・スポーツ推進課	2	筑豊工業高校資料	調査研究	R7. 8. 29
18	個人	2	福岡日日新聞	調査研究	R7. 9. 23
19	九州大学基幹教育院	24	野田大塊文書・福岡日日新聞	調査研究	R7. 9. 14～10. 26

文書・典籍資料等の一時利用（資料見学等）一覧（２）

番号	利用者(機関)	点数	利用資料名	利用目的	利用日
20	国際日本文化研究センター	16	林（美）文書・藤井（甚）文書	調査研究	R7. 10. 4
21	群馬新島研究会	7	永江文書	調査研究	R7. 10. 28
22	個人	7	大浦家資料	調査研究	R7. 11. 2
23	九州大学	18	門司新聞・福岡日日新聞	調査研究	R7. 11. 26
24	個人	1	福岡藩関係史料	調査研究	R7. 12. 9
25	筑紫女学園大学	4	大衆事報・日本民衆新聞・民衆新聞・社会民衆新聞・全国労働新聞	調査研究	R7. 12. 14
26	九州大学大学院	6	永江文書・野田大塊文書	調査研究	7. 12. 26
27	九歴ボランティア	5	福岡日日新聞・九州日報	自主学習	R7. 12. 27
28	個人	2	花瀬村庄屋文書	調査研究	R8. 1. 14
29	熊本城調査研究センター	1	今村家文書	調査研究	R8. 2. 4
30	東京大学大学院経済学研究科	72	貝原収集文書	調査研究	R8. 2. 6～2. 7
31	神戸大学国際文化学研究科	2	野田大塊文書	調査研究	R8. 2. 17
32	朝倉市秋月博物館	41	西川文書・伊東尾四郎文書	調査研究	R8. 2. 18～3. 12
33	舞鶴古文書会	2	黒田家文書	自主学習	R8. 2. 19～3. 28
34	福岡大学	4	福岡日日新聞	調査研究	R8. 2. 25
35	個人	2	秋古文書・野田大塊文書	調査研究	R8. 2. 28
36	個人	13	地図絵図資料	自主学習	R8. 3. 11
37	個人	1	地図絵図資料	調査研究	R8. 3. 11

写真資料等の貸出・掲載許可一覧（１）

番号	貸出先	点数	貸出・掲載資料名	貸出・掲載目的
1	常陽藝文センター	2	王塚古墳石室壁画	『常陽藝文』505号で使用
2	古都大宰府保存協会	8	大宰府跡出土遺物他	シールで使用
3	日本入試センター	1	大宰府政庁復元模型	教材で使用
4	桂川町教育委員会	1	王塚古墳前室壁画	看板で使用
5	田川市石炭・歴史博物館	17	古城山砲台他	展示で使用
6	東京都下水道局	1	水城跡	『ニュース東京の下水道』No279で使用
7	棚底地区振興会	1	小郡遺跡出土瓢形土器	地域誌『棚底物語』で使用
8	ベネッセ	1	青磁三足壺	参考書で使用
9	実教出版	1	東小田峯遺跡甕棺墓	『日本史探求 新訂版』で使用
10	那珂川市図書館	2	絵葉書「柳河伯爵立花家庭園」他	講座の広報で使用
11	太宰府天満宮	1	博多太宰府図屏風	社誌『飛梅』で使用
12	大丸別荘	2	永江文書	展示パネルで使用
13	共同通信社	1	観音山古墳群	『発掘された日本列島 2025』で使用

写真資料等の貸出・掲載許可一覧（２）

番号	貸出先	点数	貸出・掲載資料名	貸出・掲載目的
14	筑紫女学園大学	3	観世音寺絵図他	書籍で使用
15	西日本文化協会	1	戸川（博）文書	『西日本文化』515号で使用
16	太宰府市文化ふれあい館	3	大友旅人邸推定地写真	展示で使用
17	古都太宰府保存協会	3	水城跡	月刊誌『教育旅行』で使用
18	佐世保市教育委員会	2	門田遺跡出土土器	『発掘された日本列島 2025』地域展図録で使用
19	大阪府立狭山池博物館	1	ガサメキ古墳群出土須恵器	特別展で使用
20	Japanese Art Society of America	1	曲り田遺跡出土土器	書籍で使用
21	新泉社	2	大宰府政庁復元模型他	『遺跡を学ぶ 鴻臚館』で使用
22	大野城市心のふるさと館	1	観音山古墳群	『季刊邪馬台国』146号で使用
23	KADOKAWA	1	大宰府政庁跡	書籍『万葉集の空白を読む』で使用
24	実教出版	1	大宰府跡出土木簡	『精選日本史探求 新訂版』で使用
25	個人	2	大宰府出土石帯	研究会で使用
26	個人	1	福岡藩関係資料	書籍で使用
27	直方市	2	筑豊石炭鉱業組合直方会議所	『直方市報』で使用
28	ユニフォトプレスインターナショナル	1	門田遺跡出土鉄戈	教材で使用
29	春日市	9	大宰府史跡他	展示で使用
30	新泉社	2	日永遺跡出土銅戈他	書籍『銅鐸の世界』で使用
31	福岡鉄道史料保存会	2	筑豊工業高校関係資料他	パネル展示で使用
32	行橋市教育委員会教育長	14	延永ヤヨミ園遺跡他	展示で使用
33	株式会社アフロ	1	青磁三足壺	教材で使用
34	神戸新聞総合印刷	1	西新町遺跡出土遺物	書籍『古墳時代の播磨』で使用
35	福井県立歴史博物館	10	大宰府跡出土品	特別展で使用
36	一戸町教区委員会教育長	2	三雲遺跡出土磨製石鏃他	展示で使用
37	株式会社金甲社	11	大宰府史跡他	雑誌『決定版 日本の名城』46号で使用
38	浜松市博物館	3	日永遺跡出土銅戈他	特別展で使用
39	小郡市教育委員会教育	2	井上薬師堂遺跡出土木簡	特別展で使用
40	読売新聞田川駐在	1	筑豊石炭鉱業組合直方会議所	新聞記事で使用
41	たつの市教育委員会	1	西尾山1号墳出土手斧鏃	展示で使用
42	太宰府公文書館	5	大宰府跡他	展示で使用

写真資料等の貸出・掲載許可一覧（3）

番号	貸出先	点数	貸出・掲載資料名	貸出・掲載目的
43	新泉社	1	ヒルハタ遺跡出土銅鏡鋳型	書籍『銅鐸の世界』で使用
44	福岡市博物館	1	宗原遺跡出土尖頭器類	『新修福岡市史ブックレットシリーズ』④で使用
45	株式会社日本入試センター	1	大宰府政庁復元模型	教材で使用
46	太宰府市教育委員会	1	永江家文書	広報誌『宰府画報』第28号で使用
47	個人	11	日詰遺跡出土ガラス瓶他	ホームページで使用
48	帝国書院	1	三雲遺跡出土垂飾	『図説 日本史通覧』で使用
49	北部九州河川利用協会	2	古処山城鳥観図他	書籍『餘澤千歳 - 筑後川』で使用
50	北九州市	1	香月村寿命唐戸通舟景	教材で使用
51	戎光祥出版	4	金鳥の御旗他	書籍『図説 菊池氏』で使用
52	柳川市教育委員会	21	絵葉書「柳河伯爵立花家庭園」他	書籍『写真機がのこした柳川』で使用
53	雄山閣	4	延永ヤヨミ園遺跡他	書籍『邪馬台国から磐井の乱』で使用
54	福岡県文化団体連合会	3	門田遺跡出土石器他	書籍『ふるさと文化誌』第14号で使用
55	福岡市博物館	9	今村家資料	『新修福岡市史資料編中世③』で使用
56	毎日新聞社筑豊支局	2	筑豊石炭鉱業会直方会議所	新聞記事で使用
57	太宰府天満宮	1	博多・太宰府図屏風	映像「受け継がれる天神信仰」で使用
58	雄山閣	1	大宰府跡出土木簡	『季刊考古学』174号で使用
59	個人	2	永江家文書	書籍で使用
60	北上市	1	久山町如来坐像	『新編北上市史通史編1』で使用
61	西日本文化協会	5	野田文書他	『西日本文化』517号で使用
62	西日本新聞社筑豊支局	2	筑豊石炭鉱業会直方会議所	新聞記事で使用
63	福岡市博物館	1	西新町遺跡出土遺物	『新修福岡市史ブックレットシリーズ』⑤で使用
64	中津市歴史博物館	1	豊前国下毛郡津民荘香原口扇ヶ城之墟図	長岩城シンポジウムで使用
65	吉川弘文館	2	福原長者原遺跡	書籍『日本古代王宮・王都の研究』で使用
66	梓書院	5	三雲遺跡出土品他	書籍『遺跡ツーリズムのすすめ』で使用
67	嬉野市	2	井手ヶ浦窯跡他	『嬉野市史』で使用
68	九州国立博物館	6	三雲南小路遺跡出土品	『九州国立博物館文化財修理報告』で使用
69	熊本県立装飾古墳館	1	大野城跡出土品	シンポジウム記録で使用
70	個人	3	福岡藩関係資料	書籍で使用
71	行橋市教育委員会	3	延永ヤヨミ園遺跡	報告書で使用
72	北上市	1	曲り田遺跡出土土器	『新編北上市史通史編1』で使用
73	ぼるぷ出版	1	大宰府政庁復元模型	書籍『ビジュアルでつかむ！くらしの歴史』で使用
74	個人	1	藤井文書	論文で使用
75	個人	2	井上薬師堂遺跡出土木簡他	論文で使用
76	日本入試センター	1	大宰府政庁復元模型	教材で使用

写真資料等の貸出・掲載許可一覧（４）

番号	貸出先	点数	貸出・掲載資料名	貸出・掲載目的
77	株式会社かみゆ	1	水城跡	書籍『だからわかるシリーズ』で使用
78	読売新聞西部本社	1	大宰府跡出土木簡	記事で使用
79	株式会社かみゆ	1	九州歴史資料館外観	書籍『だからわかるシリーズ』で使用
80	個人	6	三雲遺跡出土品	ブログで使用
81	株式会社アーテファクトリー	1	大宰府出土木簡	教材で使用
82	和泉書院	1	岩戸山古墳測量図	書籍『風土記逸文註解』で使用
83	西日本文化協会	1	木造十一面観音菩薩坐像（清水寺）	『西日本文化』518号で使用
84	個人	15	西新町遺跡出土遺物他	書籍で使用
85	太宰府市文化ふれあい館	8	大宰府政庁復元模型他	展示で使用
86	古代学協会	1	西ノ迫遺跡	書籍『総説弥生時代高地性集落論』で使用
87	西日本文化協会	2	絵葉書「博多名物松囃子（どんたく）」他	『西日本文化』518号で使用
88	個人	1	安武深田遺跡出土遺物	ホームページで使用
89	太宰府市文化ふれあい館	2	木造地藏菩薩立像他	展示で使用
90	太宰府市文化ふれあい館	1	観世音寺宝蔵	広報等で使用
91	個人	1	天蓋光心	論文で使用
92	中種子町教育委員会	2	大宰府跡出土木簡	『中種子町誌歴史編』で使用

(4) 学習支援・博学連携

◎学習支援活動

○来館学習

7年度の来館学習では、小グループに分かれて職員が引率する館内ツアー形式での学習プログラムを実施した。またエントランスに設置された大型サイネージを活用し、来館学習の際は最初にスライドを使ったオリエンテーションを行った。オリエンテーションでは、集石や経筒の画像を見せて、何に使われたのか子どもたちに予想させたり、文化財の保存・継承の意味を考えさせるめあてを立てたりするなど、学習の意欲を引き出す活動を取り入れた。そうすることで、子どもた



来館学習の様子

ちは学習の見通しをもち、学習意欲を高めることができた。それに加えて、「博物館歴史体感ツアー」というプログラム名をつけることで、学習への参加意欲をさらに高めることができた。

第1展示室では、自由見学を中心とし、子どもたちが個々に「推し」（お気に入り）をひとつ見つけるという課題を設定して学習活動を実施した。そのような活動を通して、児童・生徒達は、知識だけではなく、感性で文化財と出会うことができた。

第4展示室の遺構展示では、当時の人々の様子を思い浮かべられるよう解説をした。また、表面の触り心地や重さを感じることができるよう実物の土器や石器のハンズオン体験や銅剣・銅矛のレプリカを持ち上げる体験を行った。さらに中庭回廊では、科学を駆使して遺物を分析し、丁寧に修復、整理し、記録する作業についての説明を行った。子どもたちは、興味深そうに見聞きしていた。整理作業室や新収蔵庫、特別収蔵庫の見学を行う「バックヤードツアー」では、児童・生徒はもちろん、引率の先生方にも大変好評であった。今後も当館の埋蔵文化財センターとしての機能も来館学習を通して伝えていきたいと考えている。

学校団体の来館者総数は、以下のとおりである。

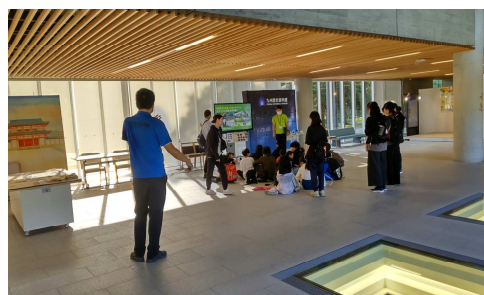
期 日	学 校 名 及 び 学 年	人数 (人)
4月2日 (水)	放課後デイサービスSKY第2甘木教室	11
6月4日 (水)	小郡市立東野小学校 (4年生)	51
6月12日 (木)	大刀洗町立本郷小学校 (6年生)	61
6月12日 (木)	篠栗町立篠栗小学校 (6年生)	65
6月20日 (金)	朝倉市立蜷城小学校 (6年生)	6
6月26日 (木)	久留米市立津福小学校 (6年生)	116
7月2日 (水)	小郡市立三国小学校 (6年生)	170
7月3日 (木)	朝倉市立甘木小学校 (6年生)	94

7月4日(金)	久留米市立山川小学校(6年生)	95
期 日	学 校 名 及 び 学 年	人数(人)
7月5日(土)	放課後デイサービス菊池チャレンジ	30
7月5日(土)	放課後デイサービスキッズハウスウル	9
7月16日(水)	みやま市立水上小学校(6年生)	9
7月17日(木)	水小郡市立東野小学校(6年生)	54
7月17日(木)	筑紫女学園中学校(2年生)	20
7月23日(水)	放課後デイサービスウィズ・ユニー鳥栖	11
7月24日(木)	北野町まちづくり振興会	62
8月7日(木)	子ども発達支援センタープラムチャイルド	18
8月9日(土)	放課後デイサービス SOALA 久留米校	19
8月20日(水)	奴国の丘歴史資料館ジュニアガイド	17
9月24日(水)	小郡市立のぞみが丘小学校(6年生)	107
10月17日(金)	さくら国際高等学校久留米キャンパス(2年生)	3
11月18日(火)～21日(金)・26日(水)	筑紫小学校 特別支援学級	81
11月21日(金)	さくら国際高等学校久留米キャンパス	21
11月26日(水)	小郡市教育センター	10
12月4日(木)	小郡市立三国小学校(6年生)	32
2月17日(火)	筑後市立西牟田小学校(6年生)	35
2月21日(土)	菊池チャレンジ教室	10
2月24日(火)	久留米学習支援センター	19
2月26日(木)	八女市立長峰小学校(6年生)	64
2月27日(金)	N I L S 小郡校	93
3月12日(木)	久留米市立北野小学校(6年生)	75
合 計		1,468

○スクールミュージアム事業

スクールミュージアム事業は、福岡県内の公立小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校を対象として、一般財団法人福岡県教職員互助会、福岡県立美術館、福岡県青少年科学館及び当館が合同で実施している。児童・生徒の鑑賞活動や科学体験活動、歴史・考古資料見学・考古学体験活動にかかる合同事業を行うことにより、情操教育、美術教育、科学教育、歴史教育の活性化及び地域文化の振興発展に寄与することを目的としている。

内容は館内の見学に加えてVRでの古墳内部の見学体験や実物の遺物に触れるハンズオン体験を実施している。



スクールミュージアムの様子

7年度の実施校と来館者数は以下のとおりである。

期 日	学 校 名 及 び 学 年	人数 (人)
5 月 2 日 (金)	久留米市立青木小学校 (6 年生)	20
6 月 13 日 (金)	筑後市立羽犬塚小学校 (6 年生)	115
6 月 17 日 (火)	久留米市立柴刈小学校 (6 年生)	12
6 月 18 日 (水)	久留米市立三瀨小学校 (6 年生)	100
6 月 27 日 (金)	中間市立中間南中学校 (3 年生)	114
12 月 18 日 (木)	古賀特別支援学校	18
総数		379

○中学校職場体験

例年、職場体験では、館内の見学、土器の展開、拓本、図書整理作業など、博物館ならではの様々な業務を体験してもらっている。これらの体験を通して多くの人たちの多様な仕事によって館全体の事業が成り立っていることや、共に働く大切さなどに気づかせ、日常生活における自分の生き方や在り方を考えさせることを目指している。中学生が博物館に行く機会がほとんどないという状況を鑑み、当館の学芸員による展示解説も取り入れている。



職場体験の様子

7年度の参加学校・人数は以下のとおりである。

期 日	学 校 名 及 び 学 年	人数 (人)
9 月 9・10 日 (火・水)	小郡市立小郡中学校 (2 年生)	5
9 月 16・17 日 (火・水)	筑紫野市立筑紫野中学校 (2 年生)	8
9 月 17・18 日 (水・木)	小郡市立大原中学校 (2 年生)	5
9 月 18・19 日 (木・金)	太宰府市立学業院中学校 (2 年生)	6
1 月 20・21 日 (火・水)	大野城市立大野中学校 (2 年生)	8
総数		32

○高校生インターンシップ

高校生インターンシップでは、学芸員や教育普及担当職員の職業体験の機会の提供し、勤労観・職業観を養うとともに職業選択能力伸長の支援を行っている。7年度は高校教育課から委託を受けて行う「福岡県教育庁等高校生インターンシップ」を1回、小郡市の県立三井高等学校が独自で実施するインターンシップを1回実施した。研修内容は学芸員業務体験、文化財整理作業体験、広報普及業務体験等である。7年度の研修の参加学校・人数は以下のとおりである。

期 日	学 校 名 及 び 学 年	人数 (人)
7 月 8 日 (火) ～7 月 10 日 (木)	福岡県立三井高等学校 (2 年生)	5
7 月 15 日 (火) ～7 月 17 日 (木)	福岡県教育庁等高校生インターンシップ 1 回目	17
7 月 23 日 (水) ～7 月 25 日 (金)	福岡県教育庁等高校生インターンシップ 2 回目	14
総数		36



高校生インターンシップの様子

○出前授業

出前授業では、学芸員による講義・職業講和、VR出前授業、ハンズオン体験を実施した。VR出前授業では古墳内部に入って自分で歩いて見学する体験や仏像の内部の構造を見ることができるVR体験と同時に、実物の遺物等に触れるハンズオン体験も一緒に行うことで、さらに出前授業の内容の充実度が高まり好評をいただいている。また、STEAM教育に沿ってVRを使った授業も行い、子どもたちの問う力を育む学習も充実させている。今後も「見方・考え方」「問いと思考」を働かせた学習プログラムの改善に努めていきたい。

7年度の参加学校・人数は以下のとおりである。

期 日	学 校 名 及 び 学 年	人数 (人)
4 月 30 日 (水)	県立大川樟風高校2年生 VR、ハンズオン	14
5 月 15 日 (木)	北九州工業高等専門学校4・5年生 VR、ハンズオン	82
5 月 22 日 (木)	福岡市立板付北小学校6年生 VR、ハンズオン	54
5 月 27 日 (火)	筑紫野市立吉木小学校6年生 VR、ハンズオン	46
6 月 4 日 (水)	博多高等学校 VR、ハンズオン	75
6 月 9 日 (月)	糸田町立糸田小学校6年生 VR、ハンズオン	74
6 月 10 日 (火)	県立糸島高等学校2年生 VR、ハンズオン	39
6 月 16 日 (月)	古賀市立小野小学校4年生 VR、古賀市と共同実施	66
6 月 19 日 (木)	古賀市立青柳小学校6年生 VR、古賀市と共同実施	51
6 月 24 日 (火)	福岡市立玉川小学校6年生 VR、ハンズオン	139
6 月 25 日 (水)	嘉麻市立嘉穂小学校6年生 VR、ハンズオン	56
6 月 30 日 (月)	久留米市立北野小学校6年生 VR、ハンズオン	75
7 月 1 日 (火)	東峰村立小中一貫校東峰学園 VR、ハンズオン	11
7 月 10 日 (木)	篠栗町立篠栗小学校 VR、ハンズオン	65
7 月 11 日 (金)	純真高等学校2年生 VR、ハンズオン、講評	40
7 月 14 日 (月)	大刀洗町立本郷小学校6年生 VR、ハンズオン	57
8 月 27 日 (水)	春日市立春日中学校2年生 修学旅行	197
8 月 29 日 (金)	筑紫野市立阿志岐小学校6年生 VR、ハンズオン	30
9 月 5 日 (金)	篠栗町立北勢門小学校6年生 VR、ハンズオン	96

期 日	学 校 名 及 び 学 年	人数 (人)
9 月 16 日 (火)	大野城市平野小学校ランドセルクラブ ハンズオン 土器パズル	24
9 月 26 日 (金)	北九州市立南曾根中小学校 VR、ハンズオン	90
9 月 29 日 (月) 1 月 26 日 (月)	小郡市立御原小学校歴史クラブ VR	22
10 月 1 日 (水)	春日市立春日西中学校 VR	22
10 月 8 日 (水)	大野城市月の浦小学校ランドセルクラブ VR、土器パ ズル、トートバック	20
10 月 9 日 (木)	春日市立春日中学校 2 年生 VR	20
10 月 17 日 (金)	大川市立大川桐英中学校 1 年生 VR、ハンズオン	105
10 月 24 日 (金)	県立伝習館高等学校 2 年生 講義	53
11 月 18 日 (火)	篠栗町立篠栗北東中学校 2 年生 修学旅行	100
11 月 25 日 (火)	筑紫野市立吉木小学校特別支援学級	25
12 月 2 日 (火)	門司学園中学校 2 年生 VR	60
12 月 3 日 (水)	久留米市立北野小学校 4 年生 藍染体験	88
12 月 8 日・15 日 (月)	太宰府市立学業院中学校 VR、ハンズオン	266
12 月 9 日 (火) ～11 日 (木)	小郡市立三国小学校特別支援学級	70
12 月 12 日 (金) 2 月 3 日 (火)	筑前町立夜須中学校 VR、ハンズオン	180
1 月 15 日 (木)	大野城市立御笠の森ランドセルクラブ VR、土器パズ ル、トートバック	29
1 月 21 日 (水) 2 月 18 日 (水)	小郡市立三国小学校歴史クラブ VR、土器パズル	30
1 月 22 日 (木)	大川市立大川桐薫中学校 修学旅行	105
1 月 22 日 (木)	大川市立大川桐英中学校 修学旅行	113
1 月 23 日 (金)	飯塚市立幸袋小学校 キャリア教育	81
1 月 29 日 (木)	飯塚市立穂波小学校 キャリア教育	47
1 月 29 日 (木)	大野城市立月の浦小学校	65
2 月 19 日 (木)	久留米市立北野小学校 4 年生 VR、ハンズオン	88
2 月 20 日 (金)	大刀洗町市本郷小学校 4 年生 大宰府学習、VR、ハン ズオン	56
2 月 25 日 (水)	県立香住ヶ丘高等学校 VR、ハンズオン、講評	38
3 月 2 日 (月)	大野城市立大野南小学校ランドセルクラブ VR、土器 パズル、トートバック	47
3 月 10 日 (火)	うきは市立江南小学校 6 年生 VR、ハンズオン	23
3 月 16 日 (月)	水巻町立水巻南中学校 1 年生 VR、ハンズオン	120
3 月 18 日 (水)	大野城市立下大利小学校ランドセルクラブ VR、土器 パズル、トートバック	21
総数		3, 275



出前授業の様子

○オンライン遠隔授業

学校と九州歴史資料館とをオンラインで繋ぎ、展示室の案内や子供たちからの質問に学芸員が答えるなどオンライン遠隔授業を実施している。学芸員の分かりやすい解説に、子どもたちは興味関心が刺激され知的好奇心を高めることができた。歴史の学びを深めるだけではなく、普段なかなか出会えない学芸員という専門家との繋がりは大変貴重な体験だったと考える。今年度は福岡県以外にも鹿児島県や沖縄県での遠隔授業を行った。

7年度の実施状況は以下のとおりである。

期 日	学 校 名 及 び 学 年	人数 (人)
7 月 1 日 (火)	東峰村立小中一貫校東峰学園 (6 年生)	11
7 月 8 日 (火)	鹿児島県湧水町立轟小学校 (6 年生)	8
7 月 8 日 (火)	県立糸島高等学校研究授業 (2 年生)	39
9 月 3 日 (水)	福岡市立内浜小学校 (4 年生)	140
10 月 8 日 (水)	水巻町立水巻南中学校 (2 年生)	108
11 月 12 日 (水)	春日市立春日東中学校 (2 年生)	213
12 月 4 日 (木)	沖縄県竹富町立船浦中学校 (2 年生)	16
1 月 20 (火)・ 26 日 (月)	福岡特別支援学校	35
2 月 26 日 (木)	筑紫野市立筑紫野中学校 (1 年生)	59
総数		629

○学生歴史クラブ

6年度から、歴史に関心を持つ地域の中・高生を集め、当館を母体とした一つの団体を構成し、月に1回程度の活動を重ね、研究活動や成果発表、ボランティア活動等の社会教育に資する取組として「学生歴史クラブ」を発足した。第2期は2月から募集、4月～3月にかけて面接を行い、中学生9人、高校生8人でスタートした。活動内容は、学芸員の仕事に密着したり発掘体験をしたりするなど体験活動と自分の興味関心にあわせて行う研究活動の2つを中心に行った。体験や研究を通して「仲間との出会い」「歴史や文化財との出会い」「専門家との出会い」を楽しむことができた。第3期は2月から募集を行った。7年度の活動内容は以下のとおりである。

期日	活 動 内 容
4 月 27 日（日）	開講式・博物館展示物講習
5 月 25 日（日）	研究課題の決定
6 月 22 日（日）	学芸員の仕事に密着①（展示）
7 月 27 日（日）	博物館展示講習
8 月 2 日（土）	歴史学フォーラム聴講
9 月 28 日（日）	課題研究①
10 月 25 日（土）	発掘体験①
11 月 23 日（日）	古代体験まつりボランティア
12 月 21 日（日）	課題研究②
1 月 25 日（日）	大野城現地見学
2 月 14 日（土）	発掘体験②
3 月 22 日（日）	課題研究中間発表・閉講式



学芸員の仕事に密着①の様子



発掘体験の様子

○私の成果展

私の成果展は、これまで取り組んできた「子供たちの学ぶ機会」としての当館の活用からさらに、「学びを発表する機会」を提供し、一般来館者と学校と学芸員をつなぐことで、よりよい学びの提供につなげることを目標とした成果展示である。7年度も九州国立博物館と連携し「全国高等学校歴史学フォーラム」に参加経験のある福岡県内の高等学校に対し、その研究の成果を発表する場の提供を行った。また、子供を対象とした当館のイベント等の成果物を展示・発表する場の提供も併せて行った。

具体的には、「私の成果展」参加者が郷土や歴史に関する学習の成果をパネル展形式で発表し、当館学芸員による講評やアドバイスをあわせて展示したものである。

これを通じて、学校をはじめとする各種団体の歴史や文化に対する興味や学習意欲を引き出すとともに、当館への関心を高めてもらう一助となった。



私の成果展展示風景

期 日	展示名	内容
4月22日(火)～ 6月22日(日)	来館学習利用小学校	来館学習の感想文
6月24日(火)～ 8月31日(日)	県内高校歴史クラブ学びの成果展	糸島高校歴史部と小郡高校郷土研究部
9月2日(火)～ 11月3日(月・祝)	きゅうれき絵画教室作品展	きゅうれき絵画教室の作品
11月5日(水)～ 3月22日(日)	全国高等学校歴史学フォーラム 2025 九州参加校特集展	①常盤高等学校歴史研究部の「考古学から探る 細川期門司城」②福岡女学院高等学校の「時代 を纏う若者～近代教育からの多様性への移ろい ～」③佐賀県立佐賀東高等学校の「“壇ノ浦の真 実”を問い直す～下野水天宮が語る安徳像 ④福岡県立糸島高等学校史学部「夢中！熱中！ 馬冑！？」 ⑤福岡県立小郡高等学校、常盤高等学校歴史研 究部の「ある水車のものがたり」
3月24日(火)～ 4月19日(日)	第2期学生歴史クラブ中間発表	学生歴史クラブの研究活動報告

○教員のための博物館の日2025 in 九州歴史資料館

期日：令和7年7月25日（金）

学校による当館の活用促進を図るために、まずは学校の先生方に「博物館の教育資源」である「ひと・もの・こと」を知ってもらい、博物館を楽しんでもらおうと企画である。この事業は国立科学博物館、公益財団法人日本博物館協会との共催であり、文部科学省の後援を受けている。実施日に関しては例年先生方が参加しやすい夏季休業中に計画をしている。7年度は30名の教員の参加があった。全体的に体験内容については概ね満足を取り、授業で当館の活用を検討する教員もいた。実施した内容は以下のとおりである。



教員のための博物館の日の様子

時 間	内 容	場 所
13:00～13:10	受 付	文化情報広場
13:10～13:50	開会行事（オリエンテーション） 「本日の内容、九歴の紹介」 九州歴史資料館指導主事	研修室
13:50～15:35	館内で4つの学習体験プログラムを体験 各体験約25分 ①ミュージアムトーク（第1展示室） ②バックヤードツアー（収蔵庫等） ③ハンズオン体験＋遺構展示解説（第4展示室） ④VR体験（第4展示室）	研修室 第1、第3展示室 収蔵庫等
15:40～16:10	閉会行事（質疑応答・アンケート記入）	研修室

(5) ボランティア

◎九歴ボランティア

移転開館時から設置している当館のボランティア（通称「九歴ボランティア」）は、3年を一期として活動している。7年度は、第5期目の3年目である。6年度に新規ボランティアを追加募集して7年度は、継続ボランティア23人、新規ボランティア10人、計33人で活動を開始した。

平常時は、日曜日の古代体験プログラムの実施や館主催の講演会・イベントの運営支援、来館学習や各種団体への対応補助、ボランティア主催のイベントなど、多くの場面で活躍している。古代体験プログラムについて、7年度は6年度に引き続き日曜日のみ開催としている。

月	研修の内容
4月	春夏 着付け衣装着付け技能研修
5月	拓本体験・道具作成技能研修
6月	VR操作技能研修
7月	九州歴史資料館の成り立ちについて
8月	企画展案内（第2展示室）技能研修
9月	西の都 大宰府について
10月	特別展案内（第2展示室）技能研修
11月	古代体験まつりに向けた着付け技能研修
12月	畑じまい
1月	特別展案内（第1展示室）技能研修
2月	来年度のボランティアイベントについて
3月	来年度のボランティアイベントについて（確定）

○定例研修会

九歴ボランティアとしての知見・識見を高めること、ボランティア間の交流を図ることを目的として、毎月第2土曜日の午前中（10:00～）に定例研修会を設定している。前半は、先月までの活動報告と今後の予定やイベントにおける役割分担の確認、活動日の調整である。後半は、学びある実践研修として、古代体験にかかわる内容や当館学芸員による展示解説を計画、実施した。



研修の様子

研修会では、2か月先まで見通しを持った情報共有を行うことによって、日々の活動に不安や齟齬が起きないように綿密な打ち合わせを行うことができています。7年度も6年度と同様に、運営を担当する指導主事が中心となり、ボランティアの自主性を尊重し、主体的な活動を促すような研修指導を行ってきた。これにより7年度もボランティアの意見を多く取り入れ、ボランティア自身を中心となって運営する研修会やイベントを実践することができた。

○ボランティアバス研修

令和7年4月25日（金）、ボランティアの資質向上と親睦を目的に、直方・八幡・宮若方面へのバス研修を実施した。

午前は直方市石炭記念館にて展示解説を受け、直方歳時館を見学。午後は官営八幡製鉄所旧本事務所を訪問し、現地ボランティアとの交流会を実施した。交流会では、ガイドの工夫や組織運営に関する活発な意見交換が行われ、今後の活動に活きる貴重な知見を得た。その後、宮若トレッジおよび竹原古墳

を見学し、文化財の保存と公開の現状について理解を深めた。他組織の活動事例や多様な歴史遺産に直接触れることで、ボランティアのスキルアップと組織の結束を強化する有意義な機会となった。



直方市石炭記念館見学の様子



官営八幡製鉄所旧本事務所見学の様子

◎ ボランティア活動

○ 古代体験

7年度も、6年度同様に日曜日のみの開催とした。7年度のボランティア活動は、ボランティア一人一人の自主性と主体性をテーマに活動に取り組んでいる。6年度から古代体験に装飾古墳トートバックづくりを追加した。福岡県内の装飾古墳のスタンプをトートバックに押して、オリジナルのトートバックを作成する。この体験は、年代を問わず誰でも体験が可能であり、古代体験だけでなく、イベントなどにも今後活用していく。来年度も引き続き認知度を上げるように周知をしていきたいと考えている。古代体験全体としては6年度と比べて体験者数は増加傾向にある。これは、ボランティア研修を通して積極的に古代体験を勧めたり、また内容の改善を模索したりするボランティアが増えてきているからだといえる。今後、より多くの体験者を獲得し、また満足度の高い体験を提供していくためにも体験内容の工夫や、支援・解説の技能向上など古代体験自体の取捨選択が必要であると考えている。



古代体験のようす

古代体験の7年度の利用実績は右のとおりである。
※イベントを除く

○ボランティアイベントの開催

3年度から特に力を入れている本事業は、九歴ボランティアが主体となって企画・実施するイベントである。ボランティア自身が1,000年以上続く伝統的技法等を学ぶことを通して、文化財愛護思想の普及を図るとともに、その知識や技術を地域の大人や子どもたちへ伝え広めることを目的としている。

体験内容	7年度（人）	6年度（人）
土器パズル等	1,094	1,106
むかしのあそび	635	619
VR体験	466	531
鋳造体験（有料）	293	330
銅矛・銅剣	254	265
古代の衣装	217	87
瓦マグネット作り	131	177
トートバック作り	112	54
拓本	66	165
変身ミラー	3,607	899
計	6,875	4,233

7年度も、ボランティア内の「組紐グループ」を中心とした取組を継続し、グループ内での研修を通して技術力と指導力の向上を図った。その成果として、5月14日（水）に「大人組紐講座 基礎編」（22人参加）、9月17日（水）に「大人組紐講座 上級編」（19人参加）を実施した。また、3月1日（日）には例年好評を博している「MyおひなさまとMy組紐」を実施し、68人という多くの参加があった。さらに本年度は、季節の行事や多彩なテーマに合わせた体験イベントも積極的に展開した。5月4日（日）の「子どもの日工作イベント（兜・ペーパークラフト・水鉄砲）」には38人が参加したほか、10月5日（日）には「綿の摘み取り体験・手織りコースター作り」（24人参加）、2月15日（日）にはキッズミュージアム「弓矢体験・藍染体験」（38人参加）を実施し、家族連れを中心に幅広く歴史や文化に親しむ機会を提供した。11月23日（日）に開催した「古代体験まつり」においては、職員とボランティアが協働して多彩な体験ブースを運営し、465人も来館者を迎える盛況となった。

今後もこれらの普及活動を継続するとともに、多様な体験を組み合わせるなど、過去に体験した来館者にも改めて楽しんでもらえるような工夫を凝らし、ボランティア活動のさらなる活性化と来館者の増加に繋げていきたい。



古代体験祭りの様子



子どもの日工作イベントの様子

○ボランティア自主活動

当館ボランティアは、個々の興味・関心に基づき自主的なグループを結成し、調査研究や技術習得、普及活動に取り組んでいる。7年度は以下の4グループが中心となり、館内外で活発な活動を展開した。

【藍綿グループ】

中庭の畑における藍と綿の栽培・育成を軸に活動。収穫した綿を用いた「摘み取り体験」や、藍染め体験の支援など、季節に合わせたイベントの企画・運営を主体的に担っている。

【古墳探訪グループ】

地域の古墳や史跡の調査、巡検（フィールドワーク）を実施。メンバー間での知見の共有を通して地域の歴史遺産に対する理解を深め、さらなる探求活動へと繋げている。

【古代組紐グループ】

伝統的な「クテ打ち」技法の習得と研究を行う。技術・指導力の向上に努め、一般向けの組紐講座や体験イベントにおいて、メインの講師や指導補助として大きな役割を果たしている。

【古代山城懇話会】

県内の古代山城を主なテーマに、その謎の解明を目指して現地踏査を実施。会員との意見交換や情報共有を通して専門性を高め、歴史・文化財の魅力を深く伝えるための研鑽を積んでいる。



藍・綿グループの活動の様子



古代組紐グループの活動の様子

○ボランティア自主研究交流会

自主的に歴史の研究や調査を行っているボランティア同士の意見交換を通して、多角的な視点や知識を深め、研究意欲の向上を図ることを目的に開催している。本年度は、専門的な知見をより広めるために学芸員との意見交換の場を設けるとともに、高まった意欲や知識を、ボランティア活動を通じて県民や利用者に還元していくことを重視した。

7年度の交流会は令和8年2月21日（土）に開催した。当館ボランティアだけでなく、県内の博物館や史跡ガイドに携わる学外の希望者も広く募り、時代や分野を問わない広範な交流を目指した。

当日は発表者による研究報告の後、参加者や学芸員を交えた質疑応答・意見交換が行われ、個々の研究内容を深化させることができた。こうした活動は、ボランティア一人ひとりの専門性を高めるとともに、今後の普及活動の質的向上に繋がる有意義な機会となった。



自主研究交流会のようす

(6) 普及・活用事業

◎講座・講演会

○名誉館長講座

内容：西谷正名誉館長を講師とする、第4土曜日等を実施する連続講座である。通常は1年度1テーマで全12回を行う連続講座であるが、7年度は以前の西谷名誉館長の体調不良による一部開催分の延期の影響があり、上半期は6年度から実施していた「シルクロードの考古学」（平成28年度の再演）を引き続き行っている。下半期は全6回シリーズの「継体大王（天皇）と筑紫君磐井」を実施した。座席は全席指定制に復したが、下半期の一部については多数の応募があり、早々に募集定員に達した。そのため新たに第4展示室をサテライト会場とした受講を導入した。予約制の予約方法として、往復はがきに加えて電子申請も引き続き導入した。

開催日、演題、受講者数（下半期は映像受講も含む）は次のとおりである。

回	開催日	演 題	受講人数（人）
上半期：「シルクロードの考古学Ⅱ. 草原の道・Ⅲ. 海の道」			
第1回	4月26日	Ⅱ 草原の道 (1) 黄金のスキタイ遊牧文化	157
第2回	5月24日	(2) バジリク王墓の発掘	114
第3回	6月28日	(3) ツングース系民族の文化	141
第4回	7月27日	Ⅲ 海の道 (1) 中世北東アジアの交易	134
第5回	8月23日	(2) ベトナムの遺跡と遺物	139
第6回	9月27日	(3) タイの仏教遺跡と陶磁器	106
下半期：「継体大王三島王権論」			
第1回	10月25日	『日本書紀』継体紀を読む	179
第2回	11月22日	継体大王（天皇）の出自	173
第3回	12月20日	継体大王の諸宮	168
第4回	1月24日	継体大王の皇后と妃	177
第5回	2月28日	継体大王朝における争乱	162
第6回	3月28日	継体大王三島王権のヤマト入り	140
総数			1,790



名誉館長講座（研修室）の様子



同左サテライト会場の様子

○九歴講座

内容：主に毎月第2土曜日に当館学芸員や福岡県職員の他、市町村教育委員会等の外部講師を招いて実施する講座である。7年度は全12回を予定し、全ての回を予定とおり実施、延べ1,188人の方が受講した。7年度は全12回を4つに分け、それぞれ統一テーマを設定して開催した。また全席指定制に復し、予約方法として、往復はがきに加えて電子申請も引き続き導入した。



九歴講座の様子

開演日、演題、講師、受講者数は次のとおりである。

回	開催日	演題	講師（所属）	受講人数（人）
テーマ「明治日本の産業革命遺産・世界遺産登録10周年」（第1～3回）				
第1回	4月12日	世界遺産登録10周年を迎えた「明治日本の産業革命遺産」	久野 隆志（福岡県九州国立博物館・世界遺産室）	101
第2回	5月10日	官営三池鉱山の時代 三池における西洋の技術導入の過程	中野 浩志（大牟田市石炭産業科学館）	80
第3回	6月14日	遠賀川水源地ポンプ室・官営八幡製鐵所と八幡エリア	高山 英朗（中間市世界遺産推進室）	79
テーマ「戦後80年」（第4～6回）				
第4回	7月12日	九州の飛行機用掩体	森井 啓次（九州歴史資料館）	87
第5回	8月9日	本土決戦に向けた九州統括機関～戦時中の“大宰府再現”～	渡部 邦昭（九州歴史資料館）	95
第6回	9月13日	大戦末期西部軍の本土決戦態勢と司令部地下壕の構築	草場 啓一（元筑紫野市歴史博物館長）	103
テーマ「特別展開連講座」（第7～8回）				
第7回	10月11日	福岡のやきもの	遠藤 啓介（九州歴史資料館）	68
第8回	11月8日	古高取内ヶ磯窯跡の発掘調査とその意義	岸本 圭（九州歴史資料館）	69
テーマ「最新の研究成果」（第9～12回）				
第9回	12月13日	装飾古墳から筑紫の特質を探る	吉村 靖徳（九州歴史資料館）	128
第10回	1月10日	古代山城の築造技術を科学する～あなたの知らない“版築”の世界～	入佐 友一郎（九州歴史資料館）	123
第11回	2月14日	齋藤秋圃～人となりと人物描写の魅力～	國生 知子（九州歴史資料館）	128
第12回	3月14日	朝倉の鬼三選 ～鬼の実像に迫る～	小田 和利（九州歴史資料館）	127
総数				1,188

○九歴ゼミ

内容：第2・第4木曜日の夜18:30～20:00（18:00入場開始）まで実施する、当館の学芸員を講師とした連続講座である。7～9月、10～12月、1～3月の年間3期、各期6回ずつ開講するもので、6年度は全ての回を予定とおり開催した。引き続き事前予約制・座席指定制を導入している。申し込み方法として、往復はがき・電子申請を導入している。

開催期間、演題、講師、各期延べ受講者数は次のとおりである。

期	開催期間	演題	講師	延べ受講人数 (人)
第1期	7月10日～ 9月25日	万葉集を読む～大宰府の歴史と万葉筑紫歌壇～	松川 博一	338
第2期	10月9日～ 12月25日	江戸時代に華開いた福岡のやきもの	遠藤 啓介	178
第3期	1月8日～ 3月26日	大宰府・太宰府天満宮史料を読む～大宰府の歴史編～	酒井 芳司	304
総数				820

○記念講演会

内容：展示の開催を記念して講演会を実施した。7年度は以下の2回を開催している。九歴講座と同様、全席指定背に復し、予約方法にも、往復はがきに加えて電子申請も導入している。

開催日、演題、講師、受講者数は以下のとおりである。



特別展記念講演会の様子

開催日	演題	講師	受講者数 (人)
11月2日 (日)	特別展開催記念講演会「大名茶人と高取焼・上野焼」	梶山 博史 (大阪市立東洋陶磁美術館)	152
2月7日 (土)	企画展開催記念講演会「齋藤家伝来文書に見る秋圃と周辺の人々」	木村 純也 (太宰府市教育委員会)	134
総数			286

○タペのギャラリートーク

内容：当館では、他の観覧者の鑑賞の妨げにならないよう、第1展示室での展示解説を控え、その代わりに解説シートを無料で配布しているが、平成24年度からは、学芸員が担当した展示物について解説を行うギャラリートークを実施している。平成28年度までは、一旦閉館したのちに、18:30に再度開館、ギャラリートークは19:00から20:00までとしていたが、より参加者の層と利便性を考慮し、平成29年度から毎月最終金曜日の閉館直後である16:30からの実施とした。6年度は定員を設定せず、事前予約も不要としている。

開催日、内容、講師、受講者数は次のとおりである。なお下記の他に、常設展開催時の第1・3土曜日に、ミュージアムトークも別途開催している。また各種イベントに合わせ、ギャラリートークが開催されたこともある。

回	開催日	内容	講師	受講者数 (人)
第1回	7月25日	特集展示「新出薩摩塔と福岡の大陸系文物」	井形 進	10
第2回	8月29日	特集展示「木簡入門」	酒井 芳司	11

回	開催日	内容	講師	受講者数（人）
第3回	10月31日	「IPPIN紹介」	遠藤 啓介	7
第4回	11月28日	特別展関連「須恵焼について」	山下 啓之 (須恵町教育委員会)	11
第5回	12月19日	企画展「江戸時代の福岡の窯道具」	坂本 真一	3
第6回	1月30日	企画展「齋藤秋圃～人となりと人物描写の魅力～」	井形 進	13
第7回	2月27日	特集展示「仏像入門－仏像の種類・技法・修理－」	國生 知子	11
総計				66



タベのギャラリートークの様子

○出前講座

内容：当館職員が外部団体等の依頼を受けて館外の会場で実施する講座で、7年度は県民および県内外の文化財関係者等の要請を受けて計58回の講座に赴いた。7年度の実績は以下のとおりである。なお参加者数の一部にはオンラインによる受講者を含んでいる。

	開催日	依頼者	タイトル	会場	講師	参加者数（人）
1	4月10日（木）	北九州市立高須市民センター	大宰府史跡等について	北九州市立高須市民センター	宮地 聡一郎	13
2	4月27日（日）	茶道裏千家淡交会 北九州支部	大地に眠る茶の歴史を掘り起こす	リーガロイヤルホテル小倉	遠藤 啓介	232
3	4月29日 （火・祝）	太宰府茶道文化連盟	博多の茶陶について	太宰府いきいき情報センター	遠藤 啓介	31
4	5月11日（日）	岡垣歴史文化研究会	九州鉄道から鹿児島本線へ	岡垣町立東部公民館	渡部 邦昭	24
5	5月25日（日）	豊前市自然と歴史を守る会	山林寺院の神仏習合と神仏分離	豊前市総合福祉センター	國生 知子	40
6	6月15日（日）	たつの市立室津海駅館	室津賀茂神社の宋風獅子	たつの市立室津海駅館	井形 進	35
7	6月15日（日）	那珂川市図書館	福岡県の幕末維新	ミリカローデン那珂川	渡部 邦昭	59
8	6月22日（日）	田川市石炭・歴史博物館	福岡県の戦争遺跡について	田川市石炭・歴史博物館	森井 啓次	18

	開催日	依頼者	タイトル	会場	講師	参加者数 (人)
9	6月22日(日)	太宰府市文化ふれあい館	四王寺山ー大宰府の「まもり」と「いのり」ー	太宰府市文化ふれあい館	松川 博一	97
10	7月8日(火)	直方市立図書館	筑豊の鉄道史	ユメニティのおがた	渡部 邦昭	37
11	7月15日(火)	上津校区まちづくり振興会	久留米の近代 (VR体験も実施)	コミュニティセンター上津校区会館	渡部 邦昭 吉浦 貴則 佐久川 祐貴	15
12	7月16日(水)	久留米水曜会	九州北部の豪族と筑紫大宰	リベール	酒井 芳司	30
13	7月22日(火)	KBC UNIE	福岡市の鉄道史	JR博多シティ	渡部 邦昭	30
14	7月27日(日)	くるめ地名・古代史研究会	筑紫君磐井の乱とその後	久留米市役所	酒井 芳司	20
15	8月6日(水)	福岡東歴史の会	筑紫君磐井の乱と筑紫国造	並木スクエア	酒井 芳司	50
16	8月10日(日)	古賀市教育委員会	戦争を記憶する～福岡県の戦争遺跡 その保存と活用～	リーパスプラザこが	森井 啓次	20
17	9月3日(水)	九州北部税理士会筑紫支部	大宰府史跡等について	九州北部税理士会筑紫支部	宮地 聡一郎	36
18	9月10日(水)	久山町文化交流センター	薩摩塔と宋風獅子	レスポアール久山	井形 進	30
19	9月21日(日)	菊池川流域古代文化研究会	装飾古墳の伝播と開花～福岡県の事例から～	熊本県立装飾古墳館	吉田 東明	100
20	9月25日(木)	緑台区老人クラブ「グリーンクラ	筑紫君磐井とその時代	緑台区公民館	小田 和利	25
21	10月7日(火)	福岡ECO動物海洋専門学校高等課程	大宰府史跡等について	福岡ECO動物海洋専門学校	坂元 雄紀	30
22	10月8日(水)	日本非破壊検査工業会西日本支部	大宰府史跡等について	太宰府市中央公民館	宮地 聡一郎	51
23	10月9日(木)	まほろば市民大学	大宰府史跡等について	太宰府市中央公民館	宮地 聡一郎	29
24	10月18日(土)	萬葉学会	大宰府と万葉集ー木簡を手がかりにー	福岡女学院大学	松川 博一	130
25	10月19日(日)	大野城心のふるさと館	稲作文化の伝播と弥生時代開始期の社会	大野城心のふるさと館	宮地 聡一郎	55
26	10月21日(火)	つくし郷土史会	筑紫君磐井の乱	筑紫野市歴史博物館	酒井 芳司	20
27	10月22日(水)	久留米水曜会	大宰府の成立	リベール	酒井 芳司	30
28	10月24日(金)	福岡県立アジア文化交流センター	福岡のやきもの	九州国立博物館	遠藤 啓介	38
29	11月3日(月・祝)	首羅山遺跡月イチ登山会	薩摩塔	首羅山	井形 進	56
30	11月8日(土)	天草市教育委員会	九州の山岳信仰ー日本三大修験の山・英彦山を中心	天草文化交流館	松川 博一	40

	開催日	依頼者	タイトル	会場	講師	参加者数 (人)
31	11月11日(火)	東北大学大学院文学研究科	大宰府周辺史跡等巡検	大宰府周辺史跡等	松川 博一	22
32	11月13日(木)	宮若市ボランティア講座	仏像のみかたー宮若の仏像を通してー	宮若リコリス	井形 進	23
33	11月19日(水)	福岡県立アジア文化交流セ	やきものの基礎知識	九州国立博物館	遠藤 啓介	38
34	11月22日(土)	有馬記念館保存会	福聚寺の仏像	久留米市生涯学習センター	國生 知子	35
35	11月29日(土)	奈良県立橿原考古学研究所	保存科学が拓く文化遺産の世界	奈良県立橿原考古学研究所	加藤 和歳	170
36	12月5日(金)	福岡県立アジア文化交流セ	福岡のやきもの	九州国立博物館	遠藤 啓介	38
37	12月9日(火)	四王寺山勉強会	四王寺山三十三石仏の健康診断	四王寺県民の森センター	加藤 和歳	50
38	12月14日(日)	嘉麻市立図書館	鉄道大好き！上山田線の歴史と幻の鉄道計画を探る	嘉麻市山田生涯学習館	渡部 邦昭	30
39	12月22日(月)	福岡ECO動物海洋専門学校高等課程	筑紫君磐井とその時代	福岡ECO動物海洋専門学校	吉村 靖徳	20
40	1月17日(土)	八女市岩戸山歴史文化交流	筑後の軌道と鉄道ー三井電気軌道を中心にー	八女市岩戸山歴史文化交流館	渡部 邦昭	63
41	1月17日(土)	粕屋町教育委員会	大宰府史跡について	サンレイクかすや	坂元 雄紀	50
42	1月22日(木)	古都大宰府保存協会(くす)	古代山城の築造技術を科学する	太宰府館	入佐 友一郎	40
43	1月22日(木)	関西大学先端科学技術推進	子どもたちを対象としたVRを活用した教育プ	関西大学	加藤 和歳	300
44	1月28日(水)	糟屋歴史文化講座	筑紫君磐井の乱	サンレイクかすや	酒井 芳司	30
45	2月7日(土)	宗像市教育委員会	近現代宗像の交通～鹿児島本線の歴史とまぼ	海の道むなかた館	渡部 邦昭	47
46	2月21日(土)	古都大宰府保存協会	大野城について	プラム・カルコア太宰府	宮地 聡一郎	68
47	3月10日(火)	つくし郷土史会	幻の九州地方総監府ー昭和の大宰府再現ー	筑紫野市歴史博物館	渡部 邦昭	30
48	3月14日(土)	北九州市立自然史・歴史博	福岡の茶陶	北九州市立自然史・歴史博物館	遠藤 啓介	74
49	3月28日(土)	古都大宰府保存協会	古代山城・大野城を歩く	大野城跡	宮地 聡一郎	16
総数						2,565

◎一般来館者対応事業

当館の施設や事業内容を知っていただき、文化財やその保護・保存の重要性をより深く理解していた

だくために、来館者の展示資料に関する質問や、館外からのレファレンスへの対応のほか、来館者対応事業として館独自のサービスを職員が行っている。

○来館者への施設解説

学校団体以外の一般来館者に対しても、より深く当館を理解していただくために、事前申し込みのあった団体に対しては職員による施設解説を行っている。6年度は、36団体約900人に対して案内を行っている。

○ミュージアムトーク

特別展の開催期間中を除く毎週日曜日に、展示室内にてミュージアムトークを実施した。来館者と学芸員が向き合いながら展示について対話する場で、仏教美術や古文書、工芸品、考古資料、保存科学など、様々な分野のスタッフが、解説や質疑応答を交えながら展示について紹介した。

試みを開始したのは5年度である。はじめ第1・3土曜日に実施していたが、開催時期が分かりにくいという意見もあり、6年度からは毎週日曜日の15時からに変更、7年度もこれを継続した。

7年度の開催計画は36回、うち31回を実施し、計169人の参加があった。1回毎の参加人数は多くはなく、また天候等によって展示室に来館者がおらず実施しない日もあったが、展示品を前に親しく対話する場は貴重であり、参加した人からは「話を聞かなければ気づかなかった」など好評の声を得ている。また、話をする学芸員にとっても、来館者の反応に直接触れることのできる有意義な場となっている。

今後も来館者の要望に沿うことを意識しながら、よりよい形を模索していきたい。

○バックヤードツアー

本事業は、来館者に公開されていない博物館の裏側、いわゆるバックヤードを紹介するものである。普段見ることのできない発掘調査の出土品の報告書作成、収蔵庫に収蔵されるまでの流れなどを紹介するツアーである。毎週日曜日14:00～の実施をした。特別感のあるツアーであり、参加者にとって非常に満足度の高いものであった。50回実施して333人の参加を得た。

○古代衣装変身ミラー

コロナ禍以降、デジタルで古代衣装試着ができるコンテンツを制作し、代替とするとともに館のアミューズメント性を高めたものとして「古代衣装変身ミラー」を導入している。

これはインタラクティブサイネージを利用して、デジタル化した古代衣装を試着できるようにしたもので、縄文時代の貫頭衣・弥生時代の貫頭衣・古墳時代の胡服・古墳時代の巫女衣装・奈良時代の貴族の衣装・奈良時代の女官の衣装・平安時代の狩衣・平安時代の女房装束の計8種を選択できる。職員がいなくても体験でき、手をかざすだけで操作できるため、多くの来館者が試着映像を楽しんだり、またその姿を写真に収めたりしていた。

運用当初は実際に古代衣装を試着する「古代衣装着付け体験」の代替案として運用を始めたものである。5年度から再開し、7年度は「古代衣装着付け体験」を隔週で行っている。それに伴い、「古代衣装変身ミラー」を楽しんだ来館者が、その流れで古代衣装着付け体験を楽しんだり、平日の場合はまた別日に来館して古代衣装着付け体験を楽しんだり、相互に関連付けながら楽しむ機会となっている。撮影回数3,607回、延べ利用回数10,821人（1人当たり2種類試着、2人に1人が撮影するも



古代衣装変身ミラー

のとして算出)

○来館者環境改善

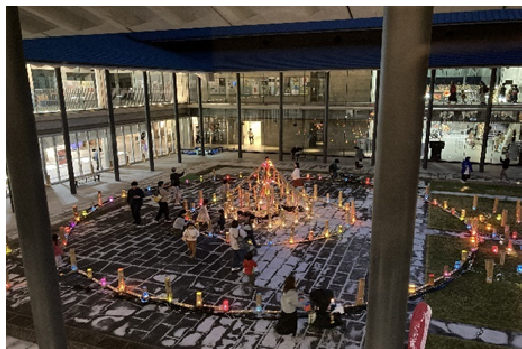
西鉄三国が丘駅から九州歴史資料館に向かう導線をわかりやすくするために、三国が丘駅前ロータリー付近にある小郡市敷地内のフェンスに横断幕を設置した。来館者の利便性の向上について協議するため、来館者環境改善部会を設置し、各室から改善内容を集約し改善に取り組んだ。コーヒー店は月2回程度出店しており、来館者に好評であった。

◎体験教室・イベント等

○集客イベント

地域に根差した博物館として、近隣住民や今までに来館されたことのない方（通常の営業時間帯に来館できない方）など新たな客層を取り込むために、7年度は昼間イベントを2回、特別夜間営業を1回、実施した。イベントでは、通常日曜日に実施しているバックヤードツアーやミュージアムトーク、土器パズル体験等を行った。これに加えて、6月はあじさい祭りをを行い、11月はミュージアムナイトを行った。2月は鬼×福まつりを行った。3回とも来館者については前年度を下回ったが、イベントは好評であった。

開催日時	イベント名	内容	参加者数(人)
6月8日(日) 10:00～15:30	あじさい祭り	古代体験・九歴クイズ・あじさいイベント等	820
11月1日(土) 15:00～19:30	ミュージアムナイト	夜間営業・中庭イルミネーション・生演奏等	518
2月1日(日) 10:00～15:30	鬼×福まつり	節分イベント・古代体験・お面づくり等	489
合計			1,827



11月1日の中庭イルミネーション



節分イベントでは子どもを対象に展示品の説明した

○キッズミュージアム

当時のくらしの体験を通して、歴史・文化などに対する興味を高め、歴史や文化財を大切にする実践意欲や態度を養うことを目的に毎年実施している小学生向けの体験イベントである。7年度も弓矢体験や藍染体験を取り入れ、当時のくらしや文化としての藍の歴史を知り、実際の体験活動では来館者の満足度も高かった。また、青少年科学館との共催や九歴脱出ゲームでは、普段体験できない企画で大変満足度が高かった。7年度の内容は以下のとおりである。(引率の家族を含む)

期 日	内容	参加者(人)
1月17日(土)	青少年科学館サイエンスショー・九歴脱出ゲーム	120
2月15日(日)	弓矢体験・藍染体験	38



青少年科学館サイエンスショーの様子



九歴脱出ゲームの様子



弓矢体験の様子



藍染体験の様子

○古代体験まつり

期日：令和7年11月23日（日・祝）

内容：今年度も、過去に九歴ボランティアのバス研修で訪問した3つの資料館・博物館（糸島市立伊都国歴史博物館・八女市岩戸山歴史文化交流館・宗像市海の道むなかた館）と近隣の施設（九州国立博物館、小郡市埋蔵文化財調査センター、春日市奴国の丘歴史資料館）に参加を呼びかけ、それぞれの施設の古代体験ができるイベントを開催した。九州国立博物館のきゅーはく号は別のイベントで不在となり、キッチンカーを依頼した。

昨年度は来館者数が438人、体験者のべ人数が1,917人でほぼすべての来館者に体験を楽しんでもらった。今年度も来館者数が465人、延べ体験者数が1,000人を超え、事前予約制も導入したことから、来館者は待たずにスムーズに体験することができた。九州歴史資料館の体験としては、通常実施している古代体験のほかに、埋蔵文化調査室による発掘体験を実施し盛況だった。



古代体験まつりの様子

○親子歴史教室

期日：令和7年7月29日（火）・30日（水）

内容：体験型学習イベントを通して、子ども達の歴史・文化に対する興味・関心を高め、歴史や文化財を大切にする実践意欲や態度を養うことを目的に開催している。保護者もともに歴史を学ぶ楽しさを知る体験をすることで今後の継続的な来館や利用に繋げるために本物の遺物を使った体験講座や装飾古墳についてVRやトートバックづくりなどの体験活動を行った。



親子歴史教室の様子

○こども絵画教室

期日：令和7年8月3日（日）

内容：例年夏休みに合わせて、夏休みの宿題や自由研究と関連付けたイベントとして開催している。子ども達は文化財を見ながら、それぞれの特徴や文化的背景について学芸員の話聞き、中でも気になった文化財をスケッチし、その後当館職員の指導の下、思い思いの画材や色で着色を楽しんだ。描いた作品については、その後2か月間、館内で展示を行った。



下絵制作の様子



展示解説の様子

◎その他関連機関・団体との共催事業

○桜コンサート

期日：令和7年4月20日（日）10：30～16：00

主催：桜コンサート実行委員会

共催：九州歴史資料館・三国中校区なかよし地域ネット人権のまちづくり推進連絡会

内容：平成28年度から共催で実施しているイベントである。地域のまちづくり協議会が共同で立ち上げた実行委員会が開催するもので、地域の個人や団体の参加型コンサートである。数々の音楽グループの方々が、第4展示室および中庭で素晴らしい演奏やパフォーマンスを繰り広げた。第12回となる7年度は、450人以上の来館者を得た。



桜コンサート風景

○特別展開催記念茶会

期日：令和7年10月26日（日）10：00～15：00

内容：小郡市文化協会裏千家との共催で平成25年度から特別展開催期間中に実施しているもので、連携企画の相乗効果により例年多数の参加者を得ている。7年度は特別展「江戸時代に華ひらいた福岡のやきもの」の開催を記念して企画したもので、茶陶も多く出陳された特別展との親和性も高く、例年にも増して好評で、合計192人の参加があった。

なお、記念茶会と並行して、特別展ギャラリートークを2回開催し、展示をより多くの方に観覧いただく契機とした。また昨年度に引き続き1階エントランスにて、甘木絞り連絡協議会による甘木絞りの物品販売も行い、イベント性を高めるとともに、地域の伝統工芸の披露も行った。



記念茶会の様子



甘木絞りの物販の様子

○アクロスミュージックキャラバン in 九州歴史資料館

期日：令和7年11月9日（日）13：30～15：30

内容：特別展の記念イベントとして位置づけ、公益財団法人アクロス福岡と共催で実施する音楽イベント。歴史に触れる機会の少ない来館者の方に、音楽を通じて当館に親しみを持っていただくとともに、展示を見ていただく事で、本県の歴史や文化への興味や理解を深め、文化財保護思想を普及させることを目的としている。

7年度はいずれも九州交響楽団に所属し活躍中の2人のヴァイオリン奏者を迎えた。バッハの「G線上のアリア」や映画『サウンド・オブ・ミュージック』の挿入歌であるR. ロジャー「私のお気に入り」、アンコールでは「ふるさと」など著名で親しみのある曲が演奏され、来館者を魅了した。

コンサートは2部構成で実施し、天気は生憎の雨だったものの、両部合わせて昨年を越える169人の参加者があり、好評のうちに終演を迎えた。



アクロスミュージックキャラバン in 九州歴史資料館の様子



アクロスミュージックキャラバン in 九州歴史資料館のポスター

日程	プログラム
13：30～14：00	アクロスミュージックキャラバン 第1部
15：00～15：30	アクロスミュージックキャラバン 第2部

○きゅうれき農園 ちびっこ「いも」発掘体験！

期日：令和7年11月8日（土）、12月7日（日）会場：第3駐車場横「九歴ふれあい農園」

内容：未就学児とその保護者を対象に、ふれあい農園での収穫体験を通して当館に親しみを持ってもらうとともに、土に触れる楽しさや収穫の喜びから食や歴史への興味・関心を高めることを目的に開催した。本事業は、近隣のあすみ地域住民への文化的な還元活動の一環であり、今後の継続的な来館に繋げることを目指した。

当日は、学芸員による周辺の植物や木の実を観察する「九歴の自然たんけん」を行った後、メインプログラムである「いも発掘体験」を実施し、親子で協力して収穫の喜びを共有する体験活動となった。

参加人数：計22人（サツマイモ編：12人、ジャガイモ編：10人）

◎その他関連機関・団体との共催事業

○三沢遺跡の森を育む会との共同イベント

NPO法人「三沢遺跡の森を育む会」が開催しているイベントにおいて、当館職員が三沢遺跡の案内・解説等を行った。12月のイベントでは、当館職員が「ハゼ蠟と和ろうそくの歴史」の説明を行った。

開催日	イベント
4月27日（日）	「春の樹木と山野草を楽しむ会」
7月27日（日）	「三沢遺跡の森 生き物探検隊」
12月7日（日）	「はゼロウでボタニカル クリスマスキャンドルを作ろう」

○文化財めぐり

講師：遠藤啓介（当館学芸員）

期日：令和7年11月15日（土）

内容：特別展「江戸時代に華ひらいた福岡のやきもの」の関連イベントとして、バスツアー「小石原周遊。手びねり体験あり！」を企画した。本展覧会で作品を展示する、高取焼や小石原焼について、当館職員が解説しながら現地をめぐり、体験も実施することで、展示と実際の陶磁器や窯との結びつきを実感していただき、そのことによって、県民の福岡県の歴史や福岡県の近世陶磁器への理解の深化に資するものとした。



文化財めぐりの様子

秋月美術館で高取焼の歴史を概観した後、高取焼の窯跡の一つである東峰村の県指定史跡一本杉窯跡を見学した。さらに小石原焼伝統産業会館で、スタッフの指導のもと、手びねりで陶器を制作する体験を行い、あわせて展示を見学した。参加者が制作した陶器は、スタッフが釉薬をかけて小石原焼伝統産業会館の登り窯で焼き、後日参加者のもとに送付された。27人参加。

○全国歴史民俗系博物館協議会

全国歴史民俗系博物館協議会（歴民協）は、平成23年3月11日の東日本大震災をきっかけに設立され、全国を9つのブロックに分け、館長が設立の呼びかけ人となった12館が、各ブロックの幹事館となった。九州ブロックは、九州国立博物館と九州歴史資料館が幹事館を務めている。

歴民協の第11回年次集会は、香川県立ミュージアムにて、7月10日に研究集会が開催された。幹事館会議はオンライン会議で行われ、8年度の研究集会が山梨県笛吹市の山梨県立博物館で開催されること、また代表幹事館を同じく山梨県立博物館が務めることが承認された。また第11回総会は事前にメール会議にて開催され、事務局から提案された議題は、すべて承認された。また7年度の幹事館についても、今年度の幹事館が再任されることも承認された。研究集会において、幹事館会議の結果と総会議案の承認が、あわせて事務局から報告された。研究集会は「何を集めるか、どうのこすかー博物館資料と社会ー」をテーマとして開催された。社会状況の変化によって、地域社会や家で保存されてきたモノとコト（様々な実物資料や記録）が急速に失われつつある。これらを博物館資料として収集する場合、そのすべてを受け入れることは難しい。どこまで収集するべきか、これからも集め続けるのか、どう残していくのかが大きな課題である。これについて、四国地方の4県の資料館、文書館などの学芸員が事例報告を行い、討論を行った。2日目は施設見学で、会場でもあった香川県立ミュージアムの常設展示を見学した。

○九州山岳霊場遺跡研究会

九州山岳霊場遺跡研究会は、九州山岳霊場遺跡研究会が主催し、九州歴史資料館が事務局として共催し、あわせて九州各地の霊山が所在する現地において、地元自治体や寺社、日本山岳修験学会等の共催や後援を得て、毎年8月末に開催されて来た。

令和7年3月16日（日）に、第11回までの研究会の総括として九州の山岳霊場研究の成果と課題について考える第12回研究会「九州の山岳霊場 成果と課題」を九州歴史資料館研修室にて開催した。その後、11回の研究会の総括的な論文集として、古代・中世・近世・近代の歴史はもとより、現代社会に生きる私達が山とどう向き合っていくかを問いかける九州山岳霊場遺跡研究会編『九州の山岳霊場』を高志書院から令和7年12月10日に刊行した。この論文集の刊行をもって、平成23年から継続して来た研究会の事業に一区切りを付けた。

（7）重点施策

◎九州歴史資料館古代史研究事業

○全体概要

当館は昭和48年の開館以来、日本古代最大の地方官衙遺跡である大宰府史跡の調査を中心に、福岡県に限らない地域での研究を行い、長きにわたり律令期を中心とした学際的研究をリードしてきた。3年

度から当館の強みである博物館機能と埋蔵文化財の調査機能を併せ持つ機能を活かした「古代史研究事業」を立ち上げ、全館一体となって福岡県の古代についての研究を行うことになり、第1期「古代史研究」事業として、福岡県の古墳時代をテーマに特別展やフォーラムの開催や、研究報告書の刊行を行った上で6年度末に一連の事業を終了した。

7年度からは第2期事業として実施するテーマの検討を行い、10年度にかけて「大宰府」を中心とした研究を行うための協議や検討会を実施した。本事業にかかる研究成果については、展示等を通じて次年度以後に公表する予定である。

◎ふくおか未来文化財DX推進事業

○全体概要

教育庁教育総務部文化財保護課では7年度から新規重点施策として「ふくおか未来文化財DX推進事業」を9年度までの3ヶ年をかけて実施することとなった。文化財保護課との作業分担により、当館では「九州歴史資料館収蔵品デジタル化・公開費事業」及び「埋蔵文化財DX事業」を担当することとなり、前者は文化財企画推進室、後者は埋蔵文化財調査室が主担当として事業を実施した。

○九州歴史資料館収蔵品デジタル化・公開事業

70年ぶりに単独法律改正がなされ、令和4年4月に改正された博物館法において、博物館が所蔵する資料のデジタル・アーカイブ化とその公開が追加され、博物館同士が連携・協力し、事業を実施する努力義務規定も盛り込まれた。

法改正を受け、電子化された収蔵資料のデータベースを7年度から9年度まで3ヶ年かけて整備し、当館HP上で公開することとした。まず、7年度前半に使用するシステムについての整備を行い、年度後半から入力作業を開始して、令和8年1月末から「収蔵品データベース」として当館HPにて公開を開始した。7年度末現在、約14,000点の資料を公開し、条件が整った資料から順次追加公開することとしており、8年度には22,000点を追加実装する予定である。

収蔵品のデータベース整備に加え、重要文化財に指定された考古資料や通常観ることが出来ない装飾古墳内部をHP上で観る事ができるよう、文化財3D画像40点を新たに制作し、実装した。デジタル化の進展に伴う質の高い鑑賞体験を提供するとともに、デジタルアーカイブを広く公開する事で、引き続き学習機会の提供や創造的活動への支援を図る。

○埋蔵文化財DX事業

埋蔵文化財の発掘調査現場では、これまで記録の作成に膨大な時間を要していたが、近年は全国的にデジタル技術を導入し効率化をはかる動きが進んでいる。特に遺構の実測図作成は、デジタル技術を導入することで現場作業の省力化につながり、その分、遺構や土層、遺物の出土状況の観察に注力することで、調査精度を高めることが期待される。

7年度は、大野城跡第63次調査や、垣生遺跡第1次調査において、FJD社のTrion SurveyアプリとRTK受信機を活用し、衛星を使用した座標点の測定を行った。特に大野城跡は、高低差のある山中での現場であったため、通常の方法よりも大幅な時間短縮につながった。

(8) 広報活動

◎一般向け広報

当館では、幅広い手段や媒体を活用して広報活動を行っている。例年、予算上有料広告を用いた大々的な広報は難しく、7年度は特別展の西鉄駅のポスター掲示も含め、有料広報は実施できなかった。それに代えて、規模の大きい集客イベントについてはチラシをカラーで業者印刷して発送した。無料広報としては、ホームページやポスター・チラシ、X（旧 Twitter）などのSNS媒体はもとより、公共の広報誌や民間のフリーペーパー、インターネット情報サイトなど様々な媒体を活用している。また、近隣の商業施設や駅の待合室には直接訪れて広報資料の掲示協力を依頼するなどして展示やイベントの周知を行っている。特に平成30年度からは近隣の3つの公民館では回覧板に添付してもらうことにしている。県の広報媒体である「福岡県だより」・新聞定期広告「福岡県からのお知らせ」等も積極的に活用している。

これらの周知方法においては、展示やイベントの企画内容や対象とする世代に合わせて、毎企画ごとに配布先、周知方法を考慮するなどの工夫もしている。さらに、マスコミ関係には展示等の情報を提供するとともに、取材と情報紹介について依頼を行い、6年度からは旅行業者に次年度展示計画を送付し、団体旅行利用促進に努めている。

また、来館者の利便性を考慮した広報を心がけ、文化情報広場に講座関係のチラシや資料を集めて。当館が展示と講座の情報の発信源となるよう工夫を行っている。

○ホームページ

令和3年5月の独自ドメイン（<https://kyureki.jp/>）への移行後、SNSと連動した速報性の高い情報発信を継続している。ホームページでは、展示やイベントの告知、講座・講演会の案内、最新の発掘調査情報、各種資料の紹介などを幅広く掲載しており、7年度は文化財企画推進室を中心に複数名体制で迅速な情報更新に努めた。また、公式YouTubeチャンネルを活用した特別展の紹介動画等も順次公開し、視覚的な魅力発信にも注力している。

子供向けイベントの参加申し込みについては、利便性の向上と事務の効率化を図るため、原則として電子申請方式を採用している。これにより、参加者の集計や定員管理、情報共有が大幅に簡素化され、職員の事務負担軽減に大きく寄与している。大人向けの講座・講演会についても、往復はがきと電子申請を併用することで、幅広い世代のニーズに対応した。

さらに、学校向けの学習資料やコンテンツの充実を図ったことで、事前の資料確認や来館計画の策定にホームページを活用する教育機関が増えており、団体利用を促進する重要なツールとなっている。

7年度の総アクセス数は298,613回であった。

○SNS（X（旧 Twitter）・Instagram）



ホームページのトップ画面

当館に関する様々な取組を紹介し、館の魅力をPRするために、情報の速報性に特化したX (Twitter) での情報発信をおこなった。投稿内容は、展示・イベントの告知や実績報告、季節の話題などで、「ぼく、きゅうおに」という一人称を用いながら、親しみやすい内容でのリアルタイム発信を心掛けた。また、情報の蓄積や深化に特化したInstagramの投稿もおこなった。投稿内容は、館蔵品や文化財などの写真を中心に解説も添えて発信した。



九州歴史資料館のXのホーム画面

なお、平成28年度から運用を開始したX (Twitter) は、本年度253件の投稿をおこない、7年度末までに3,070のフォロワーを獲得した。また、4年度9月から本格運用を開始したInstagramは、本年度56件の投稿をおこない、7年度末までに841のフォロワーを獲得し、順調に情報発信の基盤を広げている。

SNS名	年間投稿数	年間閲覧数 インプレッション	年間フォロワー	累計フォロワー
X:Twitter	253	—	387	3,070
Instagram	56	—	214	841

○YouTube

7年度は特別展・企画展・特集展示の告知映像を作成し、YouTubeに投稿した上で開催期間中にあわせ公式HPに掲載した。古代史研究チャンネル「筑紫君磐井の乱の実像に迫る」シリーズは昨年度で完結し新規作品登録はなかったが、視聴回数は引き続き好調で、一年間で232,859回再生を記録した。

公式HPのほかXやInstagramを活用し相互に広報を行った他、独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所・島根大学附属図書館が運営する「全国文化財総覧」にも掲載し、より多くの視聴に供するよう努めている。

◎他施設等との相互広報

他施設や団体との連携については、県内各市町村の博物館・資料館を紹介することを目的として、各館にご協力いただき統一的な各館の紹介チラシを掲示している。予算の関係で配布はできないものの、当館ホームページや館内で紹介し、県内施設での相互広報などのネットワークの構築を進めている。また、講座での広報資料の共有なども進めている。

○県政PR展示

会期：令和7年10月21日（火）～11月2日（日）
 令和8年1月27日（火）～2月8日（日）
 会場：福岡県立図書館1階第1閲覧室
 主催：福岡県立図書館
 内容：福岡県立図書館では、第1閲覧室で県の機関のイベントや施策を紹介する展示を募集している。7年度は10月～11月に「江戸時代に華ひらいた福岡のやきもの」



県政PR展示の様子

及び「福岡県の近世窯業」等に係るチラシ・ポスターの展示、ミュージアムナイトやアクロスミュージックキャラバンのお知らせを掲示した。1月～2月には「齋藤秀圃」「特集展示仏像入門」「日本遺産・西の都」等に係るチラシ・ポスターの展示、鬼福まつりのお知らせを掲示した。

○よかもんひろば利用広報

会期：令和7年9月1日（月）～9月26日（金）

会場：福岡県庁11階物産観光展示室「福岡よかもんひろば」
回廊

主催：物産観光展示室「福岡よかもんひろば」

内容：福岡県観光政策課では、県庁11階物産観光展示室「福岡よかもんひろば」で県内市町村、庁内各課及び各種団体が主催する観光・物産PRイベント等を行っている。7年度は、10月に特別展「江戸時代に華ひらいた福岡のやきもの」に係る展示や、イベントのお知らせを掲示した。



よかもんひろば利用広報の展示の様子

○アクロス福岡コミュニケーションエリア利用広報

会期：令和7年11月17日（月）～11月23日（日・祝）

主催：公益財団法人 アクロス福岡

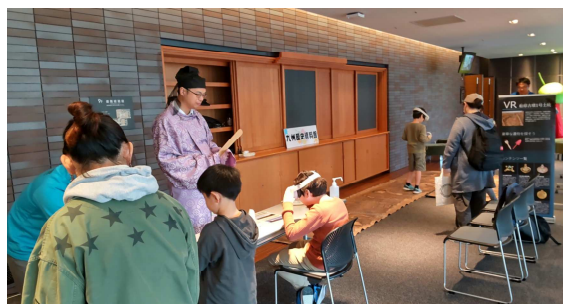
内容：アクロス福岡では、コミュニケーションエリアで自治体や文化施設の企画展示やイベントを実施している。7年度は特別展「江戸時代に華ひらいた福岡のやきもの」と、同時期以降に開催の講座やイベント等の催し物ポスターを掲示した。

○イベント出展広報

復元作業体験の土器パズルやVR体験など各地でイベント出展を行った。また、開催時期に応じたイベントや講座等のチラシ配布やポスター掲示を実施している。

7年度に実施した広報は以下のとおりである。

開催日時	場所	イベント名
5月 5日（月・祝）	熊本県	古墳館へ5・5 GoGo！ 熊本県立装飾古墳館
7月15日（火）	久留米市	出張講座・VR体験 コミュニティセンター上津校区会館
10月 9日（木）	太宰府市	筑紫台高等学校（文化祭VR出展によるレクチャー）
11月 3日（月・祝）	添田町	施設開放事業出展 VR・トートバック作り 英彦山青年の家
11月30日（日）	柳川市	やながわトライアルキャンパス事業出展 VR
1月18日（日）	福岡市	HAKATA Kids EXPO 2026 出展 VR・缶バッジ作り 国立夜須高原青少年自然の家



イベント出展の様子

◎学習支援・博学連携に向けた広報

博学連携への観点から、広報普及班の在籍教員を中心に学校への広報活動を行っている。従来から行っていた校長会や研修会での当館の教育普及事業の説明や教育委員会を通じた広報資料の配付に加え、ホームページを活用した広報活動に力を入れている。具体的にはウェブ上で、学校の先生方向けに研修会等で配付している事業説明資料を閲覧できるようにした。また、電子申請システムでのお問い合わせ・お申し込みフォームも多く活用して頂いている。今後も効果的な広報活動を図り、多くの学校の活用につなげていきたい。



博学連携広報資料

このほか7年度に行った主な広報は以下のとおりである。

- ・ポスター・チラシの配布：歴史関係施設・団体、企画内容に則した団体、主催・共催や講師派遣先の講演会・講座参加者、他機関の講演会・イベント等、書店等の店舗
- ・県・市の広報媒体への情報掲載：教育福岡・福岡県だより・グラフ福岡・広報おごおりほか
- ・歴史系専門雑誌、イベント情報雑誌への情報掲載：「博物館研究」「古代文化」ほか
- ・情報サイトへの情報提供：イベントバンク・いこーよ ほか
- ・特別展・企画展開催直前のマスコミ向け内覧会の開催など情報提供
- ・県が利用するデジタルサイネージの掲示

なお、館のアピールを行うため、平成29年度から継続して「福岡県観光パスポート（ふくおかよかとこパスポート）」と「ミュージアム周遊パス」に参加した。

「福岡県観光パスポート（ふくおかよかとこパスポート）」は福岡県が、株式会社日本旅行へ委託し、観光客の動向調査及び県内周遊を目的として実施する事業である。「ミュージアム周遊パス」は大規模スポーツ国際大会の開催を契機として、九州各県の美術館・博物館等文化施設への周遊を促進する取組で、参加して施設情報を掲載した。

(9) 実習・研修

◎博物館実習

7年度は、12大学から16人の実習生を受け入れ、8月18日(月)～8月28日(木)の10日間(8月24日はお休み)で実施した。なお、受入大学及びカリキュラムは、以下のとおりである。

受入大学一覧

大学名	学部名	学科名	実習生数(人)
九州産業大学	芸術学部	科目等履修生	1
八洲学園大学	生涯学習学部	生涯学習学科	1
佐賀大学	芸術地域デザイン学部	地域デザインコース	3
久留米大学	文学部	情報社会学科	1
福岡大学	人文学部	歴史学科	2
京都橘大学	文学部	歴史遺産学科	1
筑紫女学園大学	文学部	日本語・日本文学科	2
奈良大学	文学部	史学科	1
九州医療科学大学	薬学部	動物生命薬学科	1
国士館大学	21世紀アジア学部	21世紀アジア学科	1
京都精華大学	マンガ学部	アニメーション学科	1
鹿児島大学	理学部	理学科	1
総数			16

博物館実習カリキュラム

日(曜)		内容(午前)	内容(午後)	担当班
1	8月18日(月)	オリエンテーション・開講式 西谷正名誉館長講話	講義「学芸員の実務」 館の概要・施設見学	企画推進班 学芸研究班
2	19日(火)	考古資料の取り扱い	教育普及①	学芸研究班 広報普及班
3	20日(水)	大宰府史跡の見学	出土遺物の洗浄	大宰府調査班
4	21日(木)	出土遺物の整理		文化財調査班
5	22日(金)	歴史資料の取り扱い		学芸研究班
6	23日(土)	広報普及①	名誉館長講話受講	教育普及班 企画推進班
7	25日(月)	美術工芸資料の取り扱い		学芸研究班
8	26日(火)	広報普及②	図書資料整理	教育普及班 企画推進班
9	27日(水)	資料の保存修復と保管		文化財科学班
10	28日(木)	博物館の保存環境	実習のまとめ 閉講式	文化財科学班 企画推進班

◎九州歴史資料館文化財研修

本県は、『福岡県文化財大綱』を策定し、市町村と県とが連携した文化財保護の充実に取り組んでいる。これに基づく具体的な施策として、市町村の文化財行政担当職員を対象とした研修を文化財保護課と協働で行っている。本研修の目指すところは、業務遂行上必要な知識や技術を習得して職員の資質向上を図るとともに、職員相互の情報交換の場を設けて市町村と県、市町村相互の連携を密にしてこれまでの関係性を維持し、以て文化財保護を推進していく事にある。

4年度から、文化財保護行政の体系と仕組みを学ぶための「文化財基礎研修」と各種文化財の業務を行う上で必要な基礎知識及び技術を習得するための部門別の研修を行っている。なお、部門別研修には、毎年開催している研修と隔年毎に開催している研修の他、埋蔵文化財に係る「埋蔵文化財発掘調査基礎研修」（年7回開催）、「埋蔵文化財安全衛生講習会」を実施している。

7年度に実施した文化財研修は下表のとおりで、総数118人の市町村職員の参加があった。



文化財研修のようす

○文化財基礎研修及び部門別研修

研修名	開催日	場所	内 容		人数（人）
文化財基礎研修	7月11日（金）	当館研修室	講義	福岡県における文化財保護行政の取組	39
				文化財の体系と文化財保護制度の歴史	
				各種文化財の保護と補助制度	
				埋蔵文化財の保護と補助制度	
民俗文化財基礎研修	10月3日（金）	当館研修室	講義	定義と歴史・福岡県の保護の取組み・保護と活用・補助と助成メニュー	26
有形文化財（美術工芸品）基礎研修	11月14日（金） ・17日（月）	当館研修室	講義・演習	〔彫刻〕・仏像の基礎知識・仏像の調査・仏像の清掃と概要調査	30
				〔工芸品〕基礎知識・基本的な展示、梱包方法・美術工芸品の補助・助成メニュー	
記念物等基礎研修	12月12日（金）	当館研修室	講義	記念物保護行政概要、史跡等の保存活用計画の策定、名勝と天然記念物の保存・活用、記念物に係る補助メニュー	23
参加者数					118

○埋蔵文化財発掘調査基礎研修

平成29年度から、県内市町村文化財担当職員の埋蔵文化財の調査・事務処理の知識および技術の向上を目的として、発掘調査等の実務経験が少ない新採職員等を対象とした基礎研修を実施している。

7年度は実資料の観察や実測の時間を増やす等、一部内容を更新して全7回の講座を実施した。



埋蔵文化財発掘調査基礎研修のようす

「埋蔵文化財発掘調査基礎研修」研修内容

開催日		テーマ		内容	
1	6月20日（金）	埋文事務手続き	埋蔵文化財に関する法律	講義	I 文化財保護法・関連法令
			埋蔵文化財事務手続き		II 事務手続きの流れ
					III 事前審査
					IV 試掘確認調査
					V 埋蔵文化財関連国庫補助事業
2	7月18日（金）	発掘調査	事前準備	講義	I 発掘調査着手にかかる諸手続き
					II 着手前の現地確認
					III 調査計画の策定
					IV 作業員の募集と雇用
					V 安全衛生管理
			本調査	講義	VI 機材搬入
					VII 表土剥ぎ
					VIII 遺構検出
					IX 遺構掘り下げ
					X 図化
					XI 写真撮影
					XII 撤収・埋め戻し～引渡し
			図化実習	実習	XIII 測量機器の取り扱い
3	9月19日（金）	整理・報告書作成	整理・報告書作成	講義	I 整理作業の流れ
				II 文章の作成、編集、入稿、校正	
	10月17日（金）	発掘	発掘調査実習	実習	III 遺構割付、遺物割付
4	10月17日（金）	整理・報告書作成	実測①（土器）	実習	XIV 遺構検出・掘削の基礎、図化
5	11月21日（金）			実習	IV 遺物の見方（土器）
6	12月19日（金）		実測②（石器）	実習	V 土器実測
				実習	VI 遺物の見方（石器）
7	1月16日（金）		保存管理	陶磁器の見方	講・実
		特殊遺物の対応		講義	VIII 陶磁器の見方
		遺物の保存管理			I 特殊遺物の対応
					II 遺物の保存処理・科学分析の方法と外注の実際

○埋蔵文化財安全衛生講習会

埋蔵文化財安全衛生講習会は、県内市町村を含めた埋蔵文化財発掘調査担当職員等を対象に、労働安全・衛生管理に関する意識を喚起するとともに、知識・技術の習得によって、担当職員の資質向上と埋蔵文化財発掘調査現場の適正な運営等に資することを目的としている。7年度は「熱中症について」というテーマで6月25日に開催した。労働安全衛生規則が改正されたのに合わせ、産業医科大学産業生態科学研究所の堀江正知教授を招聘し、熱中症の基礎的な知識から事業者として行うべきこと等について受講した。

(10) 市町村支援

◎文化財保護に係る技術支援

当館では、2年度に策定された『福岡県文化財保護大綱』に基づき、福岡県文化財保護課と連携して市町村への専門的な技術支援を行っている。これは、「九州歴史資料館文化財研修」と一連の施策で、研修で得た知識のみでは解決できない課題を現地での支援により対処するものである。

7年度に市町村から派遣依頼を受けて技術支援等に当館職員を派遣した件数は、68件であった。なお、1件の派遣依頼文書で複数回の支援を行っている事例が多々あることから、派遣実数としては下表より多いのが実情である。

市町村等への技術支援一覧表（派遣依頼文書受理分）

	期間	依頼元	依頼内容	担当	
				所属	氏名
1	4月～3月	「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群保存活用協議会	「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群調査研究事業	学芸調査室	松川 博一
2	4月～3月	「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群保存活用協議会	「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群調査研究事業	学芸研究班	酒井 芳司
3	4月～3月	「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群保存活用協議会	「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群調査研究事業	文化財科学班	加藤 和歳
4	4月～3月	「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群保存活用協議会	「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群調査研究事業	企画推進班	吉村 靖徳
5	5月14日（水）	糸島市地域振興部文化課	伊都国歴史博物館の展示・収蔵環境の改善に関する指導	文化財科学班	加藤 和歳
6	5月20日（火）	那珂川市文化財専門委員会	那珂川市文化財専門委員会への出席	学芸調査室	松川 博一
7	5月20日（火）	久山町教育委員会	第1回久山町文化財保護審議会への出席	学芸研究班	井形 進
8	5月23日（金）	うきは市教育委員会	屋形古墳群（古畑古墳）保存整備工事にかかる指導・助言	埋蔵文化調査室	入佐 友一郎
9	5月24日（土）	豊前市自然と文化財を守る会	豊前市自然と文化財を守る会記念講演会への出席	学芸研究班	國生 知子
10	5月28日（水）	久山町教育委員会	第1回首羅山遺跡調査整備指導委員会への出席	学芸研究班	井形 進
11	5月31日（土）～6月1日（日）	国際日本文化研究センター	共同研究会への出席	学芸研究班	井形 進

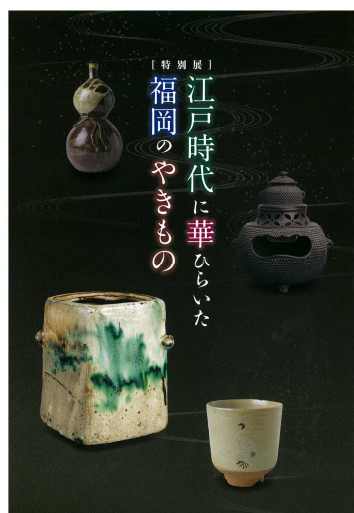
	期間	依頼元	依頼内容	担当	
				所属	氏名
12	6月 4日（水）	朝倉市秋月博物館	朝倉市秋月博物館協議会への出席	学芸調査室	松川 博一
13	6月11日（水）	福岡市史跡整備活用課	第1回鴻臚館跡整備検討委員会への出席	埋蔵文化財調査室	入佐 友一郎
14	6月11日（水）	福岡市史跡整備活用課	第1回鴻臚館跡整備検討委員会への出席	大宰府調査班	宮地 聡一郎
15	6月20日（金）	築上町教育委員会	船迫窯跡整備基本計画策定委員会	埋蔵文化財調査室	入佐 友一郎
16	6月27日（金）	春日市協働推進部文化財課	春日市文化財専門委員会会議への出席	埋蔵文化財調査室	入佐 友一郎
17	7月 8日（火）	公益財団法人古都大宰府保存協会	機関誌「都府楼57号第1回編集委員会への出席	学芸研究班	井形 進
18	7月10日（木）	行橋市教育委員会	行橋市文化財保護審議会への出席	学芸研究班	井形 進
19	7月22日（火） ・ 7月23日（水）	独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所	研究会「遺跡の風景—その変容と創造」への出席・議論への参加、報告書掲載コメント執筆	埋蔵文化財調査室	入佐 友一郎
20	7月22日（火）～ 3月31日（火）	福津市教育委員会	新原・奴山古墳群の調査等に係る指導及び助言	企画推進班	吉村 靖徳
21	7月23日（水）	八女市教育委員会	八女市岩戸山歴史文化交流館常設展示室内の資料保管状況に関する指導・助言	文化財科学班	加藤 和歳
22	7月24日（木）	志免町教育委員会	第1回志免町文化財保護審議会への出席	学芸研究班	國生 知子
23	7月24日（木）	太宰府市史跡整備検討委員会・太宰府市教育委員会	第1回太宰府市史跡整備検討委員会への出席	埋蔵文化財調査室	入佐 友一郎
24	7月27日（日）	国際日本文化研究センター	「異文化媒介者たちの比較史」共同研究会への出席	学芸研究班	井形 進
25	7月30日（水）	桂川町教育委員会	王塚古墳王室内の保存に関わる現地指導および協議	埋蔵文化財調査室	入佐 友一郎
26	7月31日（木）	桂川町教育委員会	第1回特別史跡王塚古墳整備指導委員会における指導	埋蔵文化財調査室	入佐 友一郎
27	7月31日（木）	桂川町教育委員会	第1回特別史跡王塚古墳整備指導委員会における指導	文化財科学班	加藤 和歳
28	7月31日（木）	八女市教育委員会	八女市岩戸山歴史文化交流館協議会（第1回）会議への出席	学芸調査室	松川 博一
29	8月 8日（金）	行橋市教育委員会	市指定文化財木造如意輪観音坐像の展示業務	学芸研究班	井形 進
30	8月19日（火）	糸島市地域振興部	第1回糸島市文化財保護審議会への出席	学芸研究班	國生 知子
31	8月25日（月）	大野城市史跡対策委員会	大野城市史跡対策委員会への出席	埋蔵文化財調査室	入佐 友一郎

	期間	依頼元	依頼内容	担当	
				所属	氏名
32	8月26日（火）	糸満市教育委員会	史跡具志川城跡保存整備検討委員会への出席	埋蔵文化財調査室	入佐 友一郎
33	8月28日（木）	宗像市教育委員会	第1回宗像市文化財保護審議会への出席	学芸研究班	國生 知子
34	8月28日（木）	久山町教育委員会	国立歴史民俗博物館共同研究における国指定史跡首羅山遺跡の視察	学芸研究班	井形 進
35	8月29日（金）	久留米市教育委員会	史跡筑後国府跡整備基本計画の策定	埋蔵文化財調査室	入佐 友一郎
36	9月 3日（水）	美里町教育委員会	第1回堅志田城跡保存整備検討委員会への出席	埋蔵文化財調査室	入佐 友一郎
37	9月26日（金）	長崎県教育庁学芸文化課	第1回長崎県文化財保護審議会への出席	学芸研究班	井形 進
38	9月29日（月）	行橋市教育委員会	市指定文化財木造如意輪観音坐像の展示撤収	学芸研究班	井形 進
39	9月30日（火）	福岡市経済観光文化局文化財活用部史跡整備活用課	第4回国指定史跡比恵遺跡整備基本計画策定検討委員会への出席	埋蔵文化財調査室	入佐 友一郎
40	10月 1日（水）	久留米市教育委員会	久留米市文化財保護課書所管施設の環境管理に関する指導	文化財科学班	加藤 和歳
41	10月 3日（金）	筑後市文化財専門委員会	筑後市文化財専門委員会への出席	大宰府調査班	小田 和利
42	10月 3日（金） ～ 10月 5日（日）	大学共同利用機関法人人間文化研究機構 国立民族学博物館	日蘭交流国際セミナー、日蘭交流国際シンポジウム参加	文化財科学班	加藤 和歳
43	10月 8日（水）	太宰府天満宮文化研究所	薬師如来像の調査	学芸研究班	井形 進
44	10月 9日（木）	みやま市教育委員会	第2回女山神籠石保存活用計画策定委員会出席	埋蔵文化財調査室	入佐 友一郎
45	10月14日（火）	築上町教育委員会	船迫窯跡整備基本計画策定委員会への出席	埋蔵文化財調査室	入佐 友一郎
46	11月 5日（水）	福岡市経済観光文化局文化財活用部史跡整備活用課	第2回鴻臚館跡整備検討委員会出席	埋蔵文化財調査室	入佐 友一郎
47	11月12日（水） ～ 12月10日（水）	うきは市教育委員会	史跡 屋形古墳群（鳥船塚古墳）の整備工事にかかる指導・助言	文化財科学班	加藤 和歳
48	11月17日（月）～ 3月31日（火）	岡垣町教育委員会	発掘調査支援	企画推進班	吉村 靖徳
49	11月27日（木）～ 11月28日（金）	那珂川市文化財専門委員会	大分県国東市への視察研修	埋蔵文化財調査室	入佐 友一郎
50	12月 5日（金）	久留米市教育委員会	史跡筑後国府跡整備基本計画の策定	埋蔵文化財調査室	入佐 友一郎

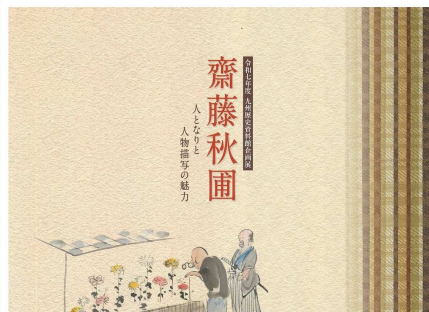
	期間	依頼元	依頼内容	担当	
				所属	氏名
51	12月 5日(金)	久留米市教育委員会	久留米市文化財収蔵資料審議会への出席	学芸研究班	國生 知子
52	12月15日(月)	直方市教育委員会	第1回直方市文化財等に関する有識者委員会への出席	埋蔵文化財調査室	入佐 友一郎
53	12月19日(金)	八女市教育委員会	八女市岩戸山歴史文化交流館協議会への出席	学芸調査室	松川 博一
54	12月22日(月)	小郡市教育委員会	小郡市文化財保存活用地域計画協議会への出席	企画推進班	森井 啓次
55	12月24日(水)	北九州都市ブランド創造局	北九州市文化財保護審議会への出席	学芸調査室	松川 博一
56	1月14日(水)～ 3月25日(水)	荏田町教育委員会	荏田町歴史博物館建築・展示基本設計委託プロポーザル方式操作委員会への出席	学芸調査室	松川 博一
57	1月26日(月)	糸満市教育委員会	史跡具志川城跡保存整備検討会への出席	埋蔵文化財調査室	入佐友一郎
58	2月 6日(金)	築上町教育委員会	船迫窯跡整備基本計画策定委員会への出席	埋蔵文化財調査室	入佐友一郎
59	2月17日(火)	宗像市教育委員会	第2回宗像市文化財保護審議会への出席	学芸研究班	國生 知子
60	2月26日(木)	糸島市地域振興部	糸島市文化財保護審議会への出席	学芸研究班	國生 知子
61	2月26日(木)	桂川町教育委員会	特別史跡王塚古墳石室内の保存に関わる現地指導・調査	文化財科学班	加藤 和歳
62	3月12日(木)	春日市協働推進部文化財課	春日市文化財専門委員会会議への出席	埋蔵文化財調査室	入佐 友一郎
63	3月17日(火)	中津市教育委員会	中津市歴史博物館協議会への出席	学芸調査室	松川 博一
64	3月23日(月)	大野城市史跡対策委員会	大野城市史跡対策委員会への出席	埋蔵文化財調査室	入佐 友一郎
65	3月24日(火)	福岡県立アジア文化交流センター	修理候補文化財の請負候補者選定	学芸研究班	國生 知子
66	3月24日(火)	桂川町教育委員会	特別史跡王塚古墳石室内照明改善に伴う現地指導	埋蔵文化財調査室 文化財科学班 文化財科学班	入佐 友一郎 加藤 和歳 小林 啓
67	3月24日(火)	うきは市教育委員会	史跡屋形古墳群(鳥船塚古墳)の整備工事にかかる指導・助言	埋蔵文化財調査室	入佐 友一郎
68	3月24日(火)	那珂川市文化財専門委員会	第3回那珂川市文化財専門委員会への出席	学芸調査室	松川 博一

(11) 刊行物

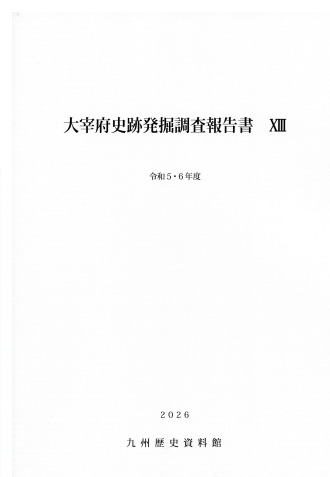
No.	書名	刊行月
1	『九州歴史資料館研究論集 51』	3 月
2	『九歴だより NO. 61』	4 月
3	『九歴だより No. 62』	10 月
4	『特別展 江戸時代に華ひらいた福岡県のやきもの』	10 月
5	『企画展 齋藤秋圃 - その人となりと人物描写の魅力』	1 月
6	『九州歴史資料館解説シート 97 新出薩摩塔と福岡の大陸系文物』	6 月
7	『九州歴史資料館解説シート 98 シルクロードの文化遺産 2 - 草原の道 -』	7 月
8	『九州歴史資料館解説シート 99 木簡入門』	7 月
9	『九州歴史資料館解説シート 100 仏像の修理 - 木彫像の場合 -』	1 月
10	福岡県文化財調査報告書第 289 集『久富古墳群』	3 月
11	福岡県文化財調査報告書第 290 集『坂本町遺跡 I』	3 月
12	大宰府史跡発掘調査報告書 XⅢ『大宰府史跡 令和五・六年度』	3 月
13	『高良玉垂宮の仏教美術の研究 - 九州山岳霊場における神仏習合と神仏分離の一樣相 -』	3 月
14	『有機物痕跡を用いた考古遺物の復元的研究』	3 月
15	『大宰府史跡出土品の重要文化財指定に向けた保存と活用の為の三次元データベースの構築』	3 月
16	『版築技法により構築された土塁の安定機構に関する地盤工学的研究』	3 月



特別展 「江戸時代に華ひらいた
福岡県のやきもの」 図録



企画展 「齋藤秋圃 - その人とな
りと人物描写の魅力」 図録



大宰府史跡発掘調査報告書 XⅢ
『大宰府史跡 令和五・六年度』

(12) 学術交流

◎日韓学術文化交流事業

福岡県教育委員会では、百済・新羅等の調査研究を行っている、韓国国立文化遺産研究院との間で学術交流事業を行っており、5年度には窓口となる国立羅州文化遺産研究所と「日・韓文化交流史に関する共同研究」についての覚書を取り交わし、相互派遣を行うこととしている。

7年度は、国立羅州文化遺産研究所学芸研究士の安耿鉢氏を5月19日（月）～6月2日（月）に招聘し、「韓国南西部地域と日本九州地域における古墳の比較研究」というテーマで、福岡県をはじめ九州各地の特に古墳を中心に調査を行った。5月30日（金）には日韓文化交流事業講演会を開催し、安耿鉢氏に「羅州・伏岩里古墳群を中心とした三国時代の研究」と題した発表をいただいた。

また韓国へは、埋蔵文化財調査室長の吉田東明を、11月6日（木）～11月17日（月）に派遣した。山城や古墳出土玉類を中心に調査したほか、各地の遺跡や博物館等の視察を行った。11月11日（火）には、羅州文化遺産研究所にて、「大宰府の防衛と古代山城について」と題した発表を行った。

(13) 協議会等

◎九州歴史資料館協議会

令和7年8月4日（月）に木川会長 外11人の委員が出席して協議会を開催した。

○協議・報告事項

- 1 報告事項 6年度事業報告 6年度九州歴史資料館自己評価表（実施段階）
- 2 協議事項 7年度事業計画、7年度九州歴史資料館自己評価表（計画段階）

九州歴史資料館協議会委員名簿 令和7年6月1日現在

	氏 名	所 属
(会長)	木川 りか	九州国立博物館博物館科学課長
(副会長)	中野 等	福岡市博物館総館長
委 員	秋永 晃生	小郡市教育委員会教育長
	植野 かおり	公益財団法人立花財団 立花家史料館長
	山野 善郎	有限会社建築史塾Archist代表取締役
	石田 智子	鹿児島大学准教授
	河上 麻由子	大阪大学大学院教授
	井上 和信	太宰府市教育委員会教育長
	富岡 優子	北九州市立自然史・歴史博物館学芸員
	辻 未央	特定非営利活動法人宇美こども子育てネット・うーみん副代表理事
	角 浩行	元伊都国歴史博物館館長
	馬場 基	奈良文化財研究所埋蔵文化財センター長
	山本 拓	小郡市立小郡中学校長
	高橋 明子	春日市立春日東小学校長

2 九州歴史資料館概要

(1) 沿革

昭和43年7月1日	大宰府史跡発掘調査指導委員会が発足し、第1回委員会が開催される。
昭和44年9月5日	福岡県が、九州歴史資料館設置計画の基本構想を発表
昭和46年3月8日	大宰府天満宮が九州歴史資料館・国立博物館用地として社有地約14万㎡を寄贈
	福岡県は九州歴史資料館を建設することとし、建設工事に着手
昭和47年3月	建設工事竣工（落成式）
昭和47年4月	「福岡県公の施設及び管理に関する条例」に基づき九州歴史資料館設置
	「九州歴史資料館組織規則」制定 副館長以下19名発令
昭和47年5月	鏡山猛、初代館長に就任
昭和47年11月	「九州歴史資料館協議会規則」制定（委員15名を委嘱）
昭和48年2月	「九州歴史資料館の利用に関する規則」制定
2月24日	九州歴史資料館開館（展示室一般公開開始まる）
昭和49年8月	求菩提資料館開館昭和50年9月4日 博物館相当施設（相当施設第9号）
昭和53年10月	大宰府史跡発掘調査10周年記念特別展「一甦る遠の朝廷一大宰府」開催
昭和56年4月	田村圓澄、第二代館長に就任
昭和59年2月	開館10周年記念特別展「国宝観世音寺鐘・妙心寺鐘とその時代」開催
	開館10周年記念シンポジウム「古代の西海道と大宰府」開催
昭和60年4月1日	「九州歴史資料館条例」施行
	求菩提資料館・甘木歴史資料館・柳川古文書館を分館とする
昭和60年5月25日	甘木歴史資料館開館
昭和60年10月1日	柳川古文書館開館
昭和63年9月	大宰府史跡発掘調査20周年記念特別展「発掘が語る遠の朝廷一大宰府」開催
平成2年9月	「とびうめ国体」の本県開催に並行し、特別展「古代の福岡」開催（～11月）
平成5年4月	吉久勝美、第三代館長に就任
平成5年10月	開館20周年記念特別展「日本の鬼瓦」開催
平成8年4月	高橋良平、第四代館長に就任
平成8年12月26日	公開承認施設（第51号）
平成9年6月	福岡県教育委員会教育長 光安常喜、九州歴史資料館長に兼務発令
平成10年10月	大宰府史跡発掘調査30周年記念特別展「大宰府復元」開催
平成14年4月	福岡県教育委員会教育長 森山良一、九州歴史資料館長に兼務発令
平成15年1月	開館30周年企画展示「大宰府へ、こころが動き、ものが動く」開催
平成15年8月	特別展「大宰府へ、ひとが動き、ものが動く」開催
平成16年4月	特別展「大宰府へ、くが動き、ものが動く」開催
平成18年11月	特別展「観世音寺」開催
平成20年4月	西谷 正、第七代館長に就任
	組織規則の一部改正；課制を廃止し、室・班制とする
	小郡市三沢に新九州歴史資料館建設工事着手

平成 20 年 10 月	大宰府史跡発掘調査 40 周年記念事業開催（～12 月） 『都府楼』刊行記念講演会、シンポジウム、企画展示など
平成 21 年 6 月	新九州歴史資料館建設工事竣工
平成 22 年 3 月	特集展示「九歴の歩み」開催
平成 22 年 7 月	組織移転（太宰府市→小郡市）
平成 22 年 11 月 20 日	開館記念式典・一般公開開始（21 日～） 開館記念特別展「大宰府ーその栄華と軌跡ー」開催（～1 月）
平成 22 年 12 月	開館記念シンポジウム「大宰府と西海道ー古代の役所と人々の暮らしー」 開催
平成 23 年 2 月	常設展公開開始
平成 23 年 4 月	文化財調査室（文化財調査班、保存管理班）設置
平成 23 年 7 月 25 日	登録博物館（第 22 号）
平成 23 年 11 月	特別展「発掘された日本列島 2011」開催（～12 月）
平成 24 年 1 月	移転開館 1 周年記念企画展「北部九州の霊山と経塚」開催（～2 月）
平成 24 年 10 月	特別展「長崎街道ー世界とつながった道ー」開催（～12 月）
平成 25 年 1 月	企画展「聖地四王寺山」開催（3 月）
平成 25 年 4 月	荒巻俊彦、第八代館長に就任 学芸調査室に広報普及班設置、学芸普及班は学芸研究班に名称変更、総務 室に総務班設置
平成 25 年 9 月	開館 40 周年・移転開館 3 周年記念特別展 「戦国武将の誇りと祈りー九州の覇権のゆくえー」開催（～11 月）
平成 25 年 10 月	開館 40 周年・移転開館 3 周年記念イベント開催
平成 26 年 1 月	企画展「五卿と志士ー維新前夜の太宰府ー」開催（～2 月）
平成 26 年 4 月	杉光 誠、第九代館長に就任
平成 26 年 8 月	企画展「黒田官兵衛と城」開催（～9 月） 企画展「水城築堤 1350 年記念企画展「徹底解説!! 水城のすべて」開催（～ 9 月）
平成 26 年 10 月	特別展「福岡の神仏の世界ー北部九州に華ひらいた信仰と造形ー」開催（～ 11 月）
平成 26 年 11 月	入館者 10 万人達成記念式典
平成 27 年 9 月	企画展「貝原益軒ー大宰府研究の先賢たちー」開催（～10 月）
平成 27 年 10 月	大野城築城 1350 年記念・移転開館 5 周年記念特別展 「四王寺山の 1350 年ー大野城から祈りの山へー」開催（～12 月）
平成 27 年 10 月	移転開館 5 周年記念イベント開催
平成 28 年 9 月	特別展「八女の名宝」開催（～11 月）
平成 28 年 11 月	企画展「大宰府の役人と文房具」開催（～1 月）
平成 29 年 8 月	特別展「霊峰英彦山」開催（～9 月）
平成 29 年 10 月	企画展「福岡県の城」開催（～12 月） 企画展「大宰府を探るサイエンス」開催（～12 月）
平成 30 年 2 月	企画展「堅粕薬師と東光院の古仏たち」開催（～4 月）
平成 30 年 4 月	特別展「大宰府への道」開催（～6 月）

平成 30 年 6 月	企画展「幕末の城―近世の沿岸警備と幕末期城郭―」開催（～8 月）
令和元年 10 月	特別展「久留米―その歴史と文化―」（～12 月）
令和 2 年 1 月	企画展「太宰府天満宮の境内絵図―さいふまいるの江戸・明治―」（～2 月）
令和 2 年 2 月	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館（～5 月）
令和 2 年 4 月	吉田法稔、第十代館長に就任
令和 2 年 10 月	移転開館 10 周年記念特別展「福岡の至宝に見る信仰と美」開催（～11 月）
令和 2 年 11 月 8 日	移転開館 10 周年記念イベント開催（感染症拡大防止のため式典は縮小実施）
令和 2 年 12 月	企画展「朝鮮通信使と福岡―福岡県朝鮮通信使総合調査成果展―」開催（～2 月）
令和 3 年 4 月	組織改編により文化財企画推進室を新設し、企画推進班を設置 保存管理班を学芸調査室から文化財企画推進室に移設 文化財調査室を埋蔵文化財調査室に名称変更
令和 3 年 4 月 28 日	城戸秀明、第十一代館長に就任
令和 3 年 5 月	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館（～6 月）
令和 3 年 8 月	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館（～9 月）
令和 3 年 10 月	特別展「九州山岳霊場遺宝―海を望む北西部の山々から―」（～12 月）
令和 4 年 4 月	組織改編により、広報普及班を学芸調査室から文化財企画推進室へ移設 保存管理班を文化財科学班に名称変更し、文化財企画推進室から学芸調査室へ移設、調査研究班を大宰府調査班へ名称変更
令和 4 年 10 月	特別展「京都平野と豊の国の古代」開催（～12 月）
令和 5 年 1 月	企画展「尾形家三代―探幽に学んだ福岡藩お抱え絵師―」開催（～3 月）
令和 5 年 8 月	開館 50 周年記念講演会「歴史の視点から九州 そして日本の未来を考える」開催
令和 5 年 10 月	特別展「船原古墳とかがやく馬具の精華」開催（～12 月）
令和 5 年 12 月	企画展「重要文化財が語る古代大宰府」開催（～3 月）
令和 6 年 4 月 28 日	吉田法稔、第十二代館長に就任
令和 6 年 10 月	特別展「筑紫君一族史」開催（～12 月）
令和 7 年 1 月	企画展「高良山の仏教美術」開催（～3 月）
令和 7 年 10 月	特別展「江戸時代に華ひらいた福岡のやきもの」開催（～12 月）
令和 8 年 1 月	企画展「齋藤秋圃一人となりと人物描写の魅力―」開催（～3 月）

(2) 施設概要

- | | |
|-----------|---|
| 1) 本館棟 | 鉄筋コンクリート造・一部鉄骨造、地上2階展示室、図書閲覧室、研修室、会議室、保存科学諸室、文化財整理諸室、特別収蔵庫、図書収蔵庫、調査研究室、写真室、文化情報広場 |
| 2) 一般収蔵庫棟 | 鉄骨造、地上2階
木器保存処理室・一般収蔵庫 |
| 3) 新収蔵庫棟 | 軽量鉄骨造、地上1階新収蔵庫 |
| 4) 敷地面積 | 43,438.62 m ² |
| 5) 延床面積 | 13,840.79 m ² (本館:9,475.92 m ² 、一般収蔵庫:2,326.15 m ² 、新収蔵庫:2,038.72 m ²) |
| 6) 建設費 | 約36億円 (本館・一般収蔵庫) |

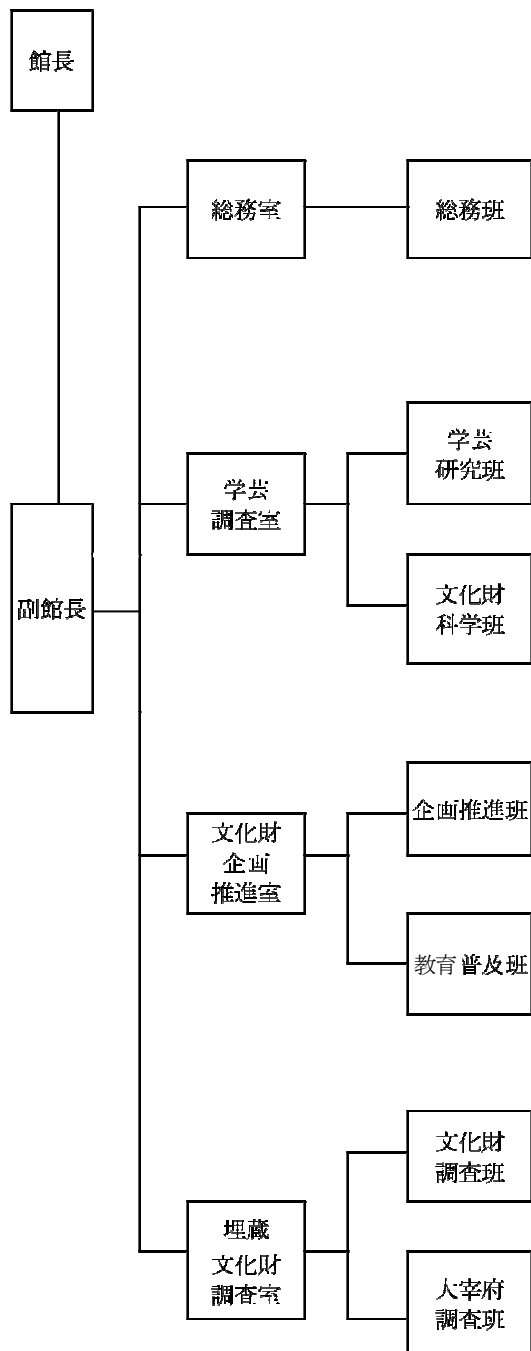
(3) 予算(7年度)

当館の事業費総額は382,496千円で、内訳別にみると次のとおりである。

- | | |
|--------------|------------|
| 1 九州歴史資料館費 | 340,010 千円 |
| 九州歴史資料館運営費 | 146,963 千円 |
| 歴史資料調査研究費 | 1,934 千円 |
| 歴史資料等収集整備費 | 927 千円 |
| 九州歴史資料館展示費 | 1,795 千円 |
| 特別展示事業費 | 9,076 千円 |
| 県史史料管理公開事業費 | 9,187 千円 |
| 九州歴史資料館整備費 | 155,529 千円 |
| 収蔵品デジタル化・公開費 | 14,599 千円 |
| 2 文化財保護費 | 42,486 千円 |
| 大宰府史跡発掘調査費 | 42,486 千円 |
- ※受託・執行委任事業は除く。

(4) 組織・職員（7年4月1日現在）

①九州歴史資料館



所 属	職 名	氏 名	摘 要
館 長		吉 田 法 稔	
副館長		小 宮 春 光	
総務室	企画主幹		野美山 智美 総務室長
	総務班	企画主査	岡 本 裕 子 総務班長
		事務主査	徳 永 裕 美
		事務主査	池松 幸一郎
		主事	高 畑 桃 子
学芸調査室	企画主幹		松 川 博 一 学芸調査室長
	学芸研究班	参事補佐	井 形 進 学芸調査室長補佐兼学芸研究班長
		参事補佐	酒 井 芳 司
		参事補佐	國 生 知 子
		企画主査	遠 藤 啓 介
	文化財科学班	参事補佐	加 藤 和 歳 文化財科学班長
		企画主査	小 林 啓
文化財企画推進室	参 事		秦 憲 二 文化財企画推進室長
	企画推進班	企画主幹	森 井 啓 次 文化財企画推進室長補佐兼企画推進班長
		主 幹	吉 村 靖 徳
		技術主査	渡 部 邦 昭
	教育普及班	指導主事兼企画主査	吉 浦 貴 則 教育普及班長
		指導主事兼事務主査	佐久川 祐貴
		長期研修員	岩 本 勇 太
埋蔵文化財調査室	企画主幹		吉 田 東 明 埋蔵文化財調査室長
	企画主幹		入佐 友一郎 埋蔵文化財調査室長補佐
	文化財調査班	参事補佐	進 村 真 之 文化財調査班長
		企画主査	坂 本 真 一
		技 師	出 見 優 人
	大宰府調査班	参事補佐	宮地 聡一郎 大宰府調査班長
		企画主査	坂 元 雄 紀
		技術主査	小 田 和 利

②九州歴史資料館研究論集編集委員会

委員長	副館長	小宮 春光	委 員	総務室長	野見山 智美
委 員	学芸調査室長	松川 博一	委 員	埋蔵文化財調査室長	吉田 東明
委 員	文化財企画推進室長	秦 憲 二	事務局長	大宰府調査班長	宮地 聡一郎

(5) 関係法規

○九州歴史資料館条例

(昭和60年1月21日福岡県条例第4号)
最終改正 令和5年福岡県条例第5号

(設置)

第1条 地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第30条の規定に基づき、歴史資料の収集、保管、調査及び研究を行うとともに、併せてこれを展示し、もって文化財の保護と文化財愛護思想の普及に資するため、歴史資料館を設置する。

(名称及び位置並びに分館の設置)

第2条 歴史資料館の名称及び位置は、次のとおりとする。

名 称	位 置
九州歴史資料館	小郡市

2 九州歴史資料館に分館を置き、その名称及び位置は、次のとおりとする。

名 称	位 置
求菩提資料館	豊前市
甘木歴史資料館	朝倉市
柳川古文書館	柳川市

(利用の承認等)

第3条 福岡県公の施設の設置及び管理に関する条例(昭和39年福岡県条例第5号)第3条から第6条まで及び第9条の規定は、九州歴史資料館の利用の承認等について適用する。この場合において、第4条第1項中「知事若しくは委員会から公の施設の管理に関し委任を受けた者」とあるのは、「指定管理者」と読み替えるものとする。

(九州歴史資料館協議会)

第4条 博物館法(昭和26年法律第285号)第23条第1項の規定に基づき、九州歴史資料館協議会(次項及び第六項において「協議会」という。)を置く。

2 協議会の委員(以下この条において単に「委員」という。)は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から任命する。

3 委員の定数は、15人以内とする。

4 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

5 委員は、再任されることができる。

6 前各項に定めるもののほか、協議会に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

(使用料)

第5条 九州歴史資料館を利用する者は、別表第1各表の区分に応じ、当該各表に掲げる金額の使用料を納めなければならない。

2 前項の規定により納付した使用料は、還付しない。ただし、規則で定める場合に該当するときは、その全部又は一部を還付することができる。

(手数料)

第6条 資料の複写を依頼しようとする者は、別表第2の区分に応じ、同表に掲げる金額の手数料を納めなければならない。

(使用料又は手数料の減免)

第7条 知事は、規則で定める場合に該当するときは、使用料又は手数料を減額し、又は免除することができる。

(適用除外)

第8条 前3条の規定は、第2条第2項に規定する分館(以下単に「分館」という。)については、適用しない。

(指定管理者による管理)

第9条 分館の管理に関する業務のうち次に掲げるものは、地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条の2第3項の規定により、法人その他の団体であって教育委員会が指定する者(以下「指定管理者」という。)に行わせるものとする。

一 分館の利用の許可に関する業務

二 分館の諸施設の維持及び保守に関する業務

三 前2号に掲げるもののほか、教育委員会が別に定める業務

(指定管理者の指定の手続)

第10条 指定管理者の指定を受けようとする者は、教育委員会規則で定める申請書に、次に掲げる書類を添えて、教育委員会に提出しなければならない。

一 事業計画書

二 前号に掲げるもののほか、教育委員会規則で定める書類

2 教育委員会は、前項の規定による申請があったときは、次の各号のいずれにも該当する者の中から最も適切に分館の管理を行うことができると認めた者を指定管理者として指定するものとする。

一 事業計画の内容が、住民の平等な利用を確保することができるものであること。

二 事業計画の内容が、分館の効用を最大限に発揮させるとともに、効率的な管理ができるものであること。

三 分館の管理を安定して行うために必要な人員及び財政的基盤を有しているものであること。

四 法令並びに関係条例及び規則の規定を遵守し、適正な管理ができるものであること。

五 その他教育委員会が分館の設置の目的を達成するために必要と認めるものとして別に定める事項

- 3 教育委員会は、指定管理者の指定をしたとき、及び指定を取り消したときは、遅滞なく、その旨を公示するものとする。
(秘密保持義務)

第11条 指定管理者及び分館の管理に関する業務に従事する者(以下「従事者」という。)は、個人情報適切に保護されるよう配慮するとともに、分館の管理に関し知り得た秘密を他に漏らし、又は自己の利益のために利用してはならない。指定管理者の指定の期間が満了し、又は指定を取り消され、及び従事者の職務を退いた後においても、同様とする。
(協議)

第12条 この条例に定めるもののほか、管理に要する経費その他必要な事項は、教育委員会と指定管理者が協議して定める。
(規則への委任)

第13条 この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則(抄)

(施行期日)

この条例は、昭和60年4月1日から施行する。

附 則 (令和5年福岡県条例第5号)

(施行期日)

この条例は、令和5年4月1日から施行する。

別表第1 (第5条関係)

1 九州歴史資料館が主催して展示する歴史資料の観覧料

区 分		金額 (1回につき)
個人で観覧する場合	一般	210円
	大学生・高校生	150円
20人以上の団体で観覧する場合	一般	150円
	大学生・高校生	100円

備考

- この表において「大学生・高校生」とは、大学、高等専門学校、高等学校、中等教育学校の後期課程、特別支援学校の高等部、専修学校又はこれらに準ずるものに在学する者をいう。
- この表において「一般」とは、大学生・高校生及び中学生(中学校、義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程、特別支援学校の中学部又はこれらに準ずるものに在学する者をいう。)以外の者であって、15歳以上の者をいう。

2 展示室の使用料

区 分	金額 (1日につき)
-----	------------

入場料を徴収しない場合	第2展示室	3,510円
	第4展示室	8,500円
入場料を徴収する場合	第2展示室	5,260円
	第4展示室	12,750円

3 会議室及び研修室の使用料

区 分	金額 (1時間につき)
会議室	390円
研修室1	390円
研修室2	390円
研修室3	390円

備考 使用時間に1時間に満たない端数があるときは、当該端数を1時間として計算する。

別表第2 (第6条関係)

区分	金額 (1枚につき)
電子式複写 (白黒)	10円
マイクロフィルムからの引き伸ばし	10円

○九州歴史資料館の利用、指定管理者の指定等に関する規則

(昭和48年2月20日教育委員会規則第4号)

最終改正 令和6年教育委員会規則第5号

(目的)

第1条 この規則は、九州歴史資料館条例(昭和60年福岡県条例第4号。以下「条例」という。)第13条の規定に基づき、九州歴史資料館(以下「資料館」という。)の利用、指定管理者の指定等について定めることを目的とする。

(休館日)

第2条 資料館の休館日は、次のとおりとする。

- 月曜日。ただし、その日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日に当たるときは、その日後においてその日に最も近い休日でない日
- 12月28日から翌年1月4日まで

2 前項の規定にかかわらず、九州歴史資料館長等(分館にあっては指定管理者。以下「館長等」という。)が必要と認めた場合は、臨時に休館又は開館することができる。ただし、この場合は、館長等がその都度あらかじめ日時を公示しなければならない。

3 前項の規定により、指定管理者が分館を臨時に休館又は開館しようとするときは、あらかじめ教育委員会の承認を受けるものとする。

(開館時間)

第3条 資料館の開館時間は、午前9時30分から午後4時30分までとする。ただし、入館は、午後4時までとする。

2 館長等は、特別の事情があるときは、前項に規定する開館時間を変更することができる。

3 前項の規定により、指定管理者が分館の開館時間を変更しようとするときは、あらかじめ教育委員会の承認を受けるものとする。

(利用の申込)

第4条 資料館(分館を除く。)の展示室、会議室及び研修室を利用しようとする者は、別に定める利用申込書を、事前に九州歴史資料館長に提出しなければならない。

(利用申込の取消又は変更)

第5条 前条の申込みをした者が、利用を中止し、又は利用内容を変更しようとするときは、直ちに九州歴史資料館長にその旨を通知しなければならない。

(利用の承認)

第6条 九州歴史資料館長は、第4条の使用申込が提出されたときは、速やかにこれを審査して使用の承認又は不承認を決定し、申込者に通知しなければならない。

(資料の複写)

第7条 資料の複写を必要とする場合は、九州歴史資料館長が別に定めるところにより、これを依頼することができる。ただし、次の各号の一に該当する場合は、九州歴史資料館長は、複写を認めないことがある。

一 著作権法(昭和45年法律第48号)に違反するおそれがあると認められるとき。

二 資料館の管理上支障があると認められるとき。

三 その他九州歴史資料館長が複写を不相当と認めたとき。

2 前項の複写は、九州歴史資料館に設置された複写機器により行うものとする。

(禁止行為)

第8条 館内(建物内及びその用地内をいう。以下同じ。)においては、次の各号に掲げる行為をしてはならない。

一 面会若しくは寄付の強要、乱暴な言動又はけん悪の情を催す行為

二 示威又はけん騒にわたる行為

三 施設設備等の物件を汚損し、若しくはき損する行為又は館内の美観を損ずる行為

四 通行の妨害となる行為

五 爆発又は引火のおそれがあるものの付近において火気を取り扱う行為

六 指定された場所以外で喫煙する行為

七 その他館内管理上不相当と認められる行為

(違反に対する措置)

第8条の2 館長等は、前条に掲げる禁止行為を行った違反者に対し、違反事項の是正、館内への入場の拒否及び館内からの退去を命じ、又はその他必要な措置をとることができる。

(資料の館外貸出し)

第9条 資料の館外貸出しは、原則として行なわないものとする。ただし、博物館、図書館、学校、官公署、その他館長等が適当と認めたものに対しては、この限りでない。

2 前項ただし書に掲げるものが資料の館外貸出を受けようとする場合は、別に定めるところにより、館長等の許可を受けなければならない。

3 資料の館外貸出しを受けたものは、館長等の指示するところにより、管理に当らなければならない。

4 館外貸出しを受けた資料は、これを他に転貸してはならない。

5 資料の貸出期間は、品目によって館長等がその都度定めるものとする。

(損害の賠償)

第10条 観覧者、利用者又は資料の館外貸出しを受けたものが、自己の責に帰すべき理由により、施設設備、展示品又は資料を損傷し、又は滅失したときは、館長等の指示を受けてこれを原形に復し、又は館長等が定める相当の代価をもって損害を賠償しなければならない。

(寄贈又は寄託)

第11条 資料館は、資料の寄贈又は寄託をうけることができる。

2 資料館に資料を寄贈又は寄託しようとする者は、別に定めるところにより、館長等にその旨申出るものとする。

3 館長等が寄贈又は寄託を受けることを決定した場合は、本人にこの旨を通知するものとする。

(寄贈資料の取扱い)

第12条 寄贈を受けた資料には、寄贈者の氏名及び寄贈年月日を標記し、永くその篤志を伝えるものとする。

(寄託資料の取扱い)

第13条 寄託を受けた資料(以下「寄託資料」という。)の寄託期間は、その都度館長等が寄託者と協議して定めるものとする。

2 寄託資料は、資料館所蔵の資料と同一の取扱いとする。

3 寄託資料は、寄託者の請求又は資料館の都合によりこれを返還することがある。

4 寄託資料が天災その他不可抗力によって滅失又は損傷したときは、資料館は損害賠償の責を負わない。

(申請書及び添付書類)

第14条 条例第10条第1項の教育委員会規則で定める申請書は、別記様式によるものとする。

2 条例第10条第1項第2号の教育委員会規則で定める書類は、次に掲げる書類とする。

- 一 同種の施設の管理及び運営に係る活動実績報告書
 - 二 前号に掲げるもののほか、教育委員会が特に必要なものとして別に定める書類
- (その他)

第15条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は、館長等が別に定める。

附 則(抄)

この規則は、昭和48年2月24日から施行する。

附 則(令和6年教育委員会規則第5号)

この規則は、公布の日から施行する。

○ 九州歴史資料館組織規則

(昭和47年4月1日教育委員会規則第2号)

最終改正 令和5年教育委員会規則第1号

(趣旨)

第1条 この規則は、九州歴史資料館条例(昭和60年福岡県条例第4号)第3条の規定に基づき、九州歴史資料館(以下「資料館」という。)の組織その他必要な事項を定めるものとする。

(職員の職)

第2条 資料館職員の職として、次の表の上欄に掲げる職を置き、その職務は、それぞれ同表下欄に掲げるとおりとする。

館 長	教育長の命を受け、資料館の事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。
副 理 事	上司の特命に係る事務を処理する。
副 館 長	館長を補佐し、館長が不在のとき又は館長が欠けたときは、その職務を代理する。
参 事	上司の命を受け、資料館の事務を分担処理する。
参事補佐	上司の命を受け、資料館の事務を分担処理する。
企画主幹	上司の命を受け、企画・調整等に関する事務に関し、館長又は副館長を補佐する。
主幹	上司の命を受け、資料館の事務を処理するとともに、培われた知識、技術、経験を活かし、上司を補佐する。
指導主事	上司の命を受け、学校教育に関する専門的事項の指導に関する事務に従事する。
社会教育主事	上司の命を受け、社会教育に関する専門的事項の指導に関する事務に従事する。

企画主査	上司の命を受け、調査、計画立案等の事務を処理する。
指導主査	上司の命を受け、事務を処理するとともに、培われた知識、技術、経験を活かし、職員を指導する。
事務主査	上司の命を受け、企画主幹等を補佐し、事務を処理する。
技術主査	上司の命を受け、企画主幹等を補佐し、技術を処理する。
	上司の命を受け、企画主幹等を補佐し、歴史資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業について専門的事項を処理する。
主任主事	上司の命を受け、複雑な事務をつかさどる。
主任技師	上司の命を受け、複雑な技術をつかさどる。
	上司の命を受け、歴史資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業について複雑な専門的事項をつかさどる。
主 事	上司の命を受け、事務をつかさどる。
技 師	上司の命を受け、技術をつかさどる。
	上司の命を受け、歴史資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業について専門的事項をつかさどる。
主任技能員	上司の命に従い、高度な技能を要する労務に従事する。
技 能 員	上司の命に従い、労務に従事する。

(所掌事務)

第3条 資料館の所掌事務は、次のとおりとする。

- 一 古文書、典籍等の収集、保管、調査及び研究に関すること。
- 二 美術工芸品、民俗資料等の収集、保管、調査及び研究に関すること。
- 三 古文書、典籍、美術工芸品、民俗資料等の展示及び文化財愛護思想の普及に関すること。
- 四 考古資料の収集、保管、調査及び研究に関すること。
- 五 考古資料の展示に関すること。
- 六 歴史資料の科学的保存処理に関すること。
- 七 史跡の発掘調査及び研究に関すること。
- 八 史跡に関する歴史資料の収集、保管、調査、研究、展示及び整備に関すること。
- 九 公印の管守並びに職員の身分及び服務並びに文書の收受、

発送、編集及び保存、公文書の開示等に関すること。

十 予算並びに税外諸収入の収入並びに経費の支出並びに物品の出納及び保管並びに現金及び有価証券等の保管に関すること。

十一 九州歴史資料館協議会に関すること。

十二 職員の研修及び福利厚生に関すること。

十三 施設設備の管理に関すること。

十四 埋蔵文化財の発掘調査受託事業等の事務に関すること。

十五 埋蔵文化財の発掘調査に関すること。

(補則)

第4条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は、教育長が別に定める。

附 則(抄)

この規則は、公布の日から施行する。

附 則 (令和5年教育委員会規則第1号)

この規則は、令和5年4月1日から施行する。

○ 九州歴史資料館協議会規則

(昭和60年3月30日教育委員会規則第4号)

最終改正 平成24年教育委員会規則第1号

(趣旨)

第1条 この規則は、九州歴史資料館条例(昭和60年福岡県条例第4号)第4条第1項に規定する九州歴史資料館協議会(以下「協議会」という。)の運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(会長及び副会長)

第2条 協議会に、会長及び副会長各1名を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選によるものとし、任期は1年とする。ただし、再選することができる。

3 会長は、会務を総理する。

4 副会長は、会長が欠けたとき又は会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議の招集)

第3条 協議会の会議は、必要に応じ、会長が招集する。

2 資料館の館長は、必要と認めるときは、会長に協議会の招集を求めることができる。

(議決)

第4条 協議会の会議は、委員の半数以上が出席しなければ、会議を開き議決することができない。

2 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(庶務)

第5条 協議会の庶務は、九州歴史資料館において処理する。

(補則)

第6条 この規則に定めるもののほか、協議会の運営及び会議に関し必要な事項は、会長が協議会にはかつて定める。

附 則(抄)

(施行期日等)

1 この規則は、昭和60年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 この規則の施行の日の前日において九州歴史資料館協議会委員に任命されている者については、別に辞令が発せられない限り改正後の九州歴史資料館協議会規則(以下「改正後の規則」という。)第四条の規定により任命されたものとみなし、当該委員の期間は改正後の規則第五条の規定による委員の期間に通算する。

附則 (平成24年教育委員会規則第1号)

(施行期日)

この規則は、平成24年4月1日から施行する。

○ 九州歴史資料館の使用料及び手数料に関する規則

(平成22年6月30日福岡県規則第30号)

最終改正 令和3年県規則第26号

(趣旨)

第1条 この規則は、九州歴史資料館条例((昭和60年福岡県条例第4号。以下「条例」という。))に規定する九州歴史資料館(以下「資料館」という。)の使用料及び手数料に関し必要な事項を定めるものとする。

(使用料の徴収時期)

第2条 使用料(条例第5条第1項の使用料をいう。以下同じ。)は、資料館の利用の承認の際に徴収する。ただし、国又は地方公共団体が利用する場合にあっては、当該利用の後に徴収することができる。

(使用料の還付)

第3条 条例第5条第2項ただし書の規則で定める場合は、次の各号に掲げる場合とし、同項ただし書の規定により還付する使用料の額は、当該各号に掲げる場合の区分に応じ当該各号に定める額(その額に十円未満の端数があるときは、これを切り捨てた額)とする。

一 天災地変その他資料館の利用の承認を受けた者の責めに帰することができない理由で当該利用ができなくなった場合
当該利用に係る使用料の全額

二 前号に掲げる場合のほか、知事が特に必要と認める場合
知事が必要と認める額

(手数料の徴収時期)

第4条 手数料(条例第6条の手数料をいう。以下同じ。)は、資料の複写の依頼を受けるときに徴収する。

(使用料及び手数料の減免)

第5条 条例第7条の規則で定める場合は、次の各号に掲げる場合とし、同条の規定により減額又は免除(以下「減免」という。)をする使用料又は手数料の額は、当該各号に掲げる場合の区分に応じ当該各号に定める額(その額に十円未満の端数があるときは、これを切り捨てた額)とする。

- 一 学校教育法(昭和22年法律第26号)に規定する高等学校、中等教育学校の後期課程又は特別支援学校の高等部の生徒が教育上の目的のために教職員に引率されて観覧(資料館が主催して展示する歴史資料の観覧をいう。以下同じ。)をする場合 当該観覧に係る観覧料(条例別表第一の一の表の観覧料をいう。以下同じ。)の全額
- 二 学校教育法に規定する幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校又は特別支援学校の幼児、児童又は生徒を教育上の目的のために引率する教職員が観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額
- 三 児童福祉施設(児童福祉法(昭和22年法律第164号)第7条第1項に規定するものをいう。以下同じ。)に入所又は通所している少年(同法第4条第3号に規定する少年をいう。以下同じ。)が教育上の目的のために児童福祉施設の職員に引率されて観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額
- 四 児童福祉施設に入所又は通所している幼児(同法第4条第2号に規定する幼児をいう。)又は少年を教育上の目的のために引率する児童福祉施設の職員が観覧をする場合 当該観覧料に係る観覧料の全額
- 五 学校教育法に規定する高等学校、中等教育学校の後期課程若しくは特別支援学校の高等部の生徒又はこれに準ずる者が土曜日に観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額
- 六 身体障害者福祉法(昭和24年法律第283号)第15条に規定する身体障害者手帳の交付を受けている者が観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額
- 七 療育手帳制度要綱(昭和48年9月27日厚生省発児第156号)に規定する療育手帳(以下単に「療育手帳」という。)の交付を受けている者が観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額
- 八 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律(昭和25年法律第123号)第45条に規定する精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者が観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額

九 福岡県男女共同参画センター、福岡県人権啓発情報センター及び福岡県総合福祉センターの設置及び管理に関する条例施行規則(平成8年福岡県規則第55号)第9条第5号に規定する身体障害者若しくは身体障がいのある人、療育手帳の交付を受けている者又は精神保健及び精神障害者福祉に関する法律施行令(昭和25年政令第155号)第6条第3項に規定する1級若しくは2級の精神障害者(以下「障がいのある人」と総称する。)の介護人が当該障がいのある人とともに観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額

十 65歳以上の者が観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額

十一 県又は県教育委員会の主催する行事の用に供するため、入場料を徴収して展示室、会議室又は研修室(以下「展示室等」という。)の使用をする場合 当該使用に係る使用料の50パーセントに相当する額

十二 前号の用に供するため、入場料を徴収しないで展示室等の使用をする場合 当該使用に係る使用料の全額

十三 学校教育法第1条に規定する学校が資料館の設置の目的に適合する展示室等の使用をする場合 当該使用に係る使用料の全額

十四 地方公共団体が資料館の設置の目的に適合する展示室等の使用をする場合 当該使用に係る使用料の全額

十五 県の機関が資料の複写を依頼する場合 当該複写に係る手数料の全額

十六 前各号に掲げる場合のほか、知事が特に必要と認める場合 知事が必要と認める額

(減免の申請)

第6条 前条第1号から第4号までのいずれかに該当する場合の観覧料の免除を受けようとする場合は、これらの号に規定する引率をする者は、九州歴史資料館観覧料免除申請書(様式第1号)を知事に提出しなければならない。

2 前条第5号から第10号までのいずれかに該当する場合の観覧料の免除を受けようとする場合は、これらの号に規定する者(前条第9号に該当する場合にあっては、障がいのある人)は、これらの号に該当することを証明することができる書類を資料館の職員に提示しなければならない。

3 前条第11号から第14号までのいずれかに該当する場合の使用料の減免を受けようとする者は、九州歴史資料館使用料減免申請書(様式第2号)を知事に提出しなければならない。

4 前条第15号に該当する場合の手数料の免除を受けようとする者は、九州歴史資料館複写手数料免除申請書(様式第3

号)を知事に提出しなければならない。

- 5 前条第16号に該当する場合の使用料又は手数料の減免を受けようとする者は、別に指示する方法により申請しなければならない。

附 則(抄)

この規則は、平成22年7月1日から施行する。

附 則 (令和3年県規則第26号)

この規則は、公布の日から施行する。

3 諸 統 計

(1) 入館者状況

ア 7 年度入館者状況

期 間	開館日数	入館者数	1 日平均入館者数
令和 7 年 4 月 1 日から 令和 8 年 3 月 31 日まで	306 日	55,282 人	181 人

イ 過去 5 年間の入館者状況

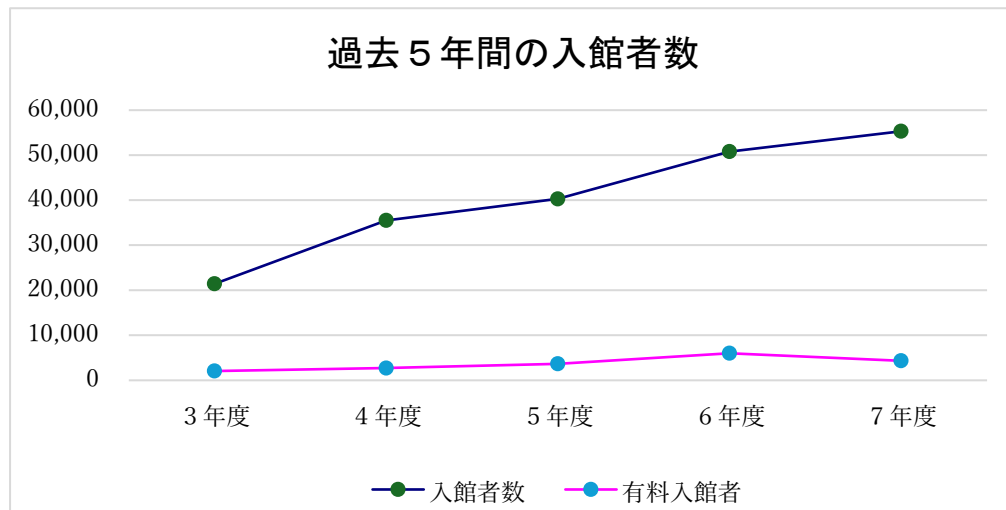
単位・人

年 度 区 分	開 館 日 数	合 計 入館者数	合 計 有料入館者数	合 計 入 館 者 内 訳			1 日平均 入館者数
				大 人	高大生	中学生以下	
3 年度	238	21,417	2,044	17,581	429	3,407	90
4 年度	306	35,496	2,704	29,678	913	4,905	116
5 年度	307	40,269	3,647	34,856	824	4,589	131
6 年度	303	50,781	6,009	45,009	880	4,892	168
7 年度	306	55,282	4,327	49,102	896	5,284	181

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、令和 2 年は 2 月 28 日～5 月 18 日、令和 3 年は 5 月 11 日～6 月 20 日、8 月 6 日～9 月 13 日 臨時閉館

ウ 過去 5 年間の入館者推移

単位・人



(2) 収蔵資料・図書

< 寄贈等資料 >

考古資料 287,581 点 歴史資料 129,428 点

< 図 書 >

購 入 5,627 冊 寄 贈 190,593 冊

4 日 誌 抄 (7 年 度)

年 月 日	内 容
令和 7 年	
4 月 1 日 (火)	パネル展「保存科学成果展―船原古墳遺物埋納坑調査の最前線 2022～2023―」(～6 月 29 日 (日))
	特集展示「きゅうおにとタイムトラベラー大昔のくらしと国づくり 2024―」(～7 月 13 日 (日))
4 月 20 日 (日)	桜コンサート (共催：桜コンサート実行委員会)
4 月 22 日 (火)	私の成果展「来館学習利用小学校」(～6 月 22 日 (日))
5 月 4 日 (日)	ボランティアイベント「こどもの日工作教室」
5 月 14 日 (水)	ボランティアイベント「大人組紐講座 基礎編」
6 月 8 日 (日)	あじさい祭り
6 月 17 日 (火)	特集展示「新出薩摩塔と福岡の大陸系文物」(～9 月 7 日 (日))
6 月 20 日 (金)	第 1 回埋蔵文化財基礎研修
6 月 24 日 (火)	私の成果展「県内高校歴史クラブ学びの成果展」(～8 月 31 日 (日))
6 月 25 日 (水)	埋蔵文化財安全衛生講習会
7 月 1 日 (火)	名誉館長パネル展「シルクロードの文化遺産 (2) ―草原の道―」(～9 月 21 日 (日))
7 月 11 日 (金)	文化財基礎研修
8 月 3 日 (日)	きゅうれき絵画教室
8 月 4 日 (月)	九州歴史資料館協議会
8 月 18 日 (月)	博物館実習 (～8 月 28 日 (木))
9 月 2 日 (火)	私の成果展「きゅうれき絵画教室作品展」(～11 月 3 日 (月・祝))
9 月 17 日 (水)	ボランティアイベント「大人組紐講座 上級編」
9 月 19 日 (金)	第 3 回埋蔵文化財発掘調査基礎研修
9 月 23 日 (火)	パネル展「登録 10 周年！世界遺産「明治日本の産業革命遺産」」(～12 月 14 日 (日))
10 月 3 日 (金)	民俗文化財基礎研修
10 月 5 日 (日)	ボランティアイベント「手織りコースター&綿の摘み取り」
10 月 5 日 (火)	企画展「江戸時代の福岡の窯跡と窯道具」(～12 月 27 日 (土))
10 月 11 日 (土)	特別展「江戸時代に華ひらいた福岡のやきもの」(～12 月 7 日 (日))
10 月 17 日 (金)	第 4 回埋蔵文化財発掘調査基礎研修
10 月 26 日 (日)	特別展開催記念茶会 (共催：小郡市文化協会裏千家)
10 月 30 日 (木)	教育センターキャリアアップ講座「博学連携はじめての一步！～県立の博物館で文化財の価値と魅力を体感～」
11 月 1 日 (土)	ミュージアムナイト

年 月 日	内 容
11 月 2 日(日)	特別展開催記念講演会「大名茶人と高取焼・上野焼」
11 月 5 日(水)	私の成果展「全国高等学校歴史学フォーラム 2025 九州参加校特集展」(～3月22日(日))
11 月 8 日(土)	きゅうれき農園 ちびっこ「いも」発掘体験！【サツマイモ編】
11 月 9 日(日)	アクロスミュージックキャラバン (共催：アクロス福岡)
11 月 14 日(金)	有形文化財(美術工芸品)基礎研修 (・11月17日(月))
11 月 15 日(土)	文化財めぐり「小石原周遊。手びねり体験あり」
11 月 21 日(金)	第5回埋蔵文化財発掘調査基礎研修
11 月 23 日 (日・祝)	古代体験まつり
12 月 7 日(日)	きゅうれき農園 ちびっこ「いも」発掘体験！【ジャガイモ編】
12 月 12 日(金)	記念物等基礎研修
12 月 16 日(火)	パネル展「世界遺産「神宿る島・宗像沖ノ島と関連遺産群」(～3月1日(日))
12 月 19 日(金)	第6回埋蔵文化財発掘調査基礎研修
令和8年	
1 月 6 日(火)	特集展示「仏像入門」(～3月8日(日))
1 月 16 日(金)	第7回埋蔵文化財発掘調査基礎研修
1 月 16 日(金)	企画展「齋藤秋圃一人となりと人物描写の魅力」(～3月15日(日))
1 月 18 日(日)	キッズミュージアム「脱出ゲーム・科学実験」
2 月 1 日(日)	節分イベント「きゅうれき鬼×福まつり」
2 月 7 日(土)	企画展開催記念講演会「齋藤家伝来文書に見る秋圃と周辺の人々」
2 月 15 日(日)	キッズミュージアム「弓矢体験・藍染体験」
2 月 21 日(土)	ボランティア自主研究交流会
3 月 1 日(日)	ボランティアイベント「折り雛・組みひもストラップ・紙飛行機づくり」
3 月 3 日(火)	パネル展「筑紫地区文化財写真展―ちくし再発見～色のパレット～」(～3月15日(日))
3 月 17 日(火)	パネル展「保存科学成果展―船原古墳遺物埋納坑調査の最前線 2025-2026」(～3月31日(日))
3 月 24 日(火)	私の成果展「第2期学生歴史クラブ中間発表」(～4月19日(日))

福岡県行政資料	
分類番号 J H	所属コード 2120261
登録年度 8	登録番号 0001

九州歴史資料館年報（令和 7 年度）

発 行 日 令和 8 年 7 月 31 日

編集・発行 九州歴史資料館

〒818-0068

福岡県小郡市三沢 5208-3

T E L 0942-75-9575

F A X 0942-75-7834

ANNUAL BULLETIN

OF

KYUSHU HISTORICAL MESEUM

2025

CONTENTS

Preface

1 2025 Report of Kyushu Historical Museum

(1)	Survey and Research	2
(2)	Exhibition	16
(3)	Item Available	25
(4)	Study Support/Museum, school Cooperation	33
(5)	Volunteer	41
(6)	Dissemination/Utilization	45
(7)	Priority Measures	58
(8)	Public Relations Activities	59
(9)	Practice and Training Opportunities	63
(10)	Support for Municipalities	66
(11)	Published matter	70
(12)	Interchange	71
(13)	Conference and Meeting Facilities	72

2 Organization of Kyushu Historical Museum

(1)	History	73
(2)	Building and Grounds	76
(3)	Budget	76
(4)	Organization Chart and Staff	77
(5)	Rules and Regulations	78

3 Statistics of Kyushu Historical Museum

(1)	MuseumVisitors	85
(2)	Total Materials and Books	85

4 Outline of 2025 Activities

		86
--	--	----